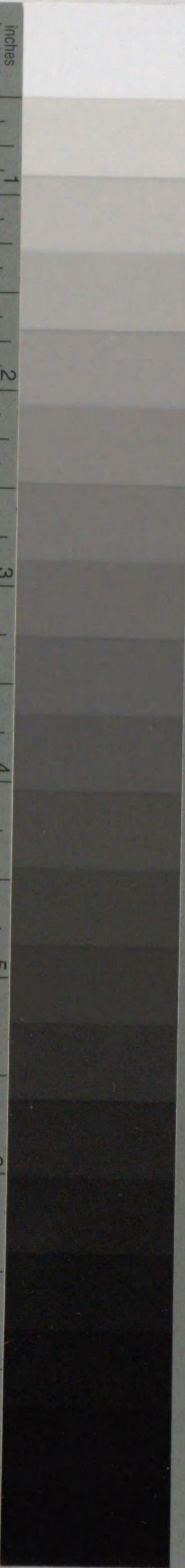


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

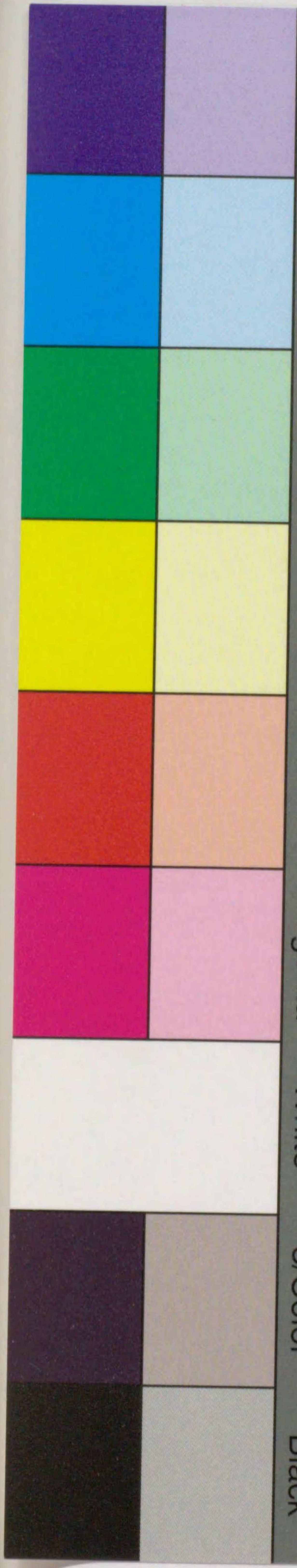
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



© Kodak, 2007 TM: Kodak

昭和四年六月一日發行

製鐵所參考資料

(第參拾八號)

製鐵所總務部

例言

- 一、本冊子ハ文書課ニ於テ抄譯シタル外字新聞若クハ雜誌中掲載ノ事項及ヒ其他ノ調査資料ニ就キ參考トナルヘキモノヲ撰ミ關係所員ニ頒タンカタメ謄寫ニ代ヘ印刷スルモノトス
- 二、本冊子ハ當務ノ參考ニ供スルヲ以テ目的トシ文字ノ彫琢編纂ノ體裁ニ於テ缺クル所少ナカラサルヘシ讀者之ヲ諒セヨ

製鐵所總務部

製鐵所參考資料第三十八號目次

外人の觀たる本邦製鐵業(其の二).....	一
昭和三年合衆國鐵鋼業概觀.....	二三
米國製鐵業の發達狀況.....	三一
合衆國鐵石一噸當り二十五仙値上ニ其經過及鐵石の品位に就テ.....	四一
昭和三年英國鐵鋼業概觀.....	四九
昭和三年英國鐵力板業態.....	六一
昭和三年白耳義の鐵鋼業.....	六五
ポーランド製鐵業狀況.....	七三
ポーランド中央層鐵購入組合定款.....	八三
獨逸鐵鋼業の賃銀.....	八九
國際粗鋼カルテルに對する獨逸側の態度.....	九七
海外雜報.....	
滿鐵新石炭棧橋.....	一〇三
英國鐵道の鋼鐵枕木採用問題.....	一〇九
紐育州諸工場の二月中所得賃.....	



金は最高レコードを作れり……二二〇 合衆國製鋼業備役状態の善化と資金所得の増進……二二二
歐洲軌條カルテルに合衆國の加入……二二二 日本の鋼産額増加……二二三 クルツプの新鑄鑪爐四
月中に火入……二二四 獨逸の輸出業者波蘭のパンアースチールを賣る……二二四 獨逸の賠償引渡
額レコードを作る……二二五 年十萬延能力の新波蘭鋼管工場……二二五 タタ鐵鋼會社歐洲に六ヶ
所の販賣所を置く……二二六 支那のシガレット製造業者亞米利加の鉄力板を使用す……二二六 昨
年の濠洲鋼産額減少……二二七 昭和三年日本の鋼産額レコードを作る……二二七

鐵 鋼 市 況

英國鉄鐵市況活況……二一九 英國鉄鋼取引業界に於ける恢復……二二〇 獨逸に於ける鉄鋼貿易良
好……二二三 白國トレード・アンタント活動、スチール市場強調にして有利……二三四 英國鉄鐵
相場強固……二三五 佛國一九二八年中に於ける鉄鐵生産額はレコードを示す……二三六 佛國骸炭
生産總額増加……二三九 白國鉄鋼輸出入額増加……二三〇 白國鋼材市場活況、半成品不足にして
高相場……二三三 歐洲市場更に静穩……二三四 佛國鋼材市場は前途希望に充つ……二三五 獨逸
聯合製鋼會社の現状……二三七 歐洲鋼材市場前途活氣……二三九 白國鉄鋼生産額レコードを破る
……二四〇 獨逸鉄鋼貿易旺盛……二四二 佛國鐵礦石生産額レコードを破る……二四三 白國鉄鋼
貿易額増大……二四四 英國鉄鐵市場活況……二四五 英國スチールメーカー本年第二の三ヶ月間に

於て多忙の業態を見ん……二四六 白國鋼材市場活況……二四六

統 計

世界の鐵礦石産額……二五二 一九二八年中英國炭山の事故に因る死亡者數……二五三 一九二八年
中獨逸の壓延鋼産額……二五四 一九二八年中瑞典の鐵鋼産額と輸出入……二五五 一九二八年中チ
エコスロバキヤの燃料統計……二五六 十二月中及一九二八年中獨逸の燃料産額……二五九 一九一
九一九二七年ユーゴスラヴィアの燃料産額……二六二 一九二八年中ザールの鐵鋼産額……二六二
一九二八年中合衆國の鐵礦石産額並に鑛價……二六三 一九二八年中白耳義の石炭及鐵鋼産額とル
クセンブルクの鐵鋼産額……二六四 十一月中佛蘭西の鐵礦石産額と一九二八年中鐵鋼産額……二六五
二月中英國の鐵鋼産額……二六六 一九二八年中ザールの石炭産額……二六七 一九二九年一月中獨
逸鉄鐵産額……二六七 一九二九年一月中合衆國の鉄鋼産額……二六八 一九二八年中合衆國の機械
輸出……二六八 英領印度の鉄鐵輸出入……二七〇 一九二八年中ルクセンブルクの鐵礦石産額……
二七一 一九二八年中合衆國の石炭産額……二七二 一九二八年中佛蘭西の燃料輸出入……二七三 一
九二九年一月中獨逸の壓延工場産額……二七五 一九二八年中白耳義及ルクセンブルクの鐵鋼輸出
入……二七六 加奈陀の骸炭産額増加……二八二 本年一月及二月の英國鐵鋼材輸出入……二八二 昭和
三年合衆國の軌條産額……二八三 全鐵鋼輸出入……二八五 一月中ルクセンブルクの鐵鋼産額……

一九二八年一月 一月中合衆國の鋼産額……一九二
 一九二八年一月 一月中獨逸の鐵礦石輸入……一九二
 一九二七年一月 一月中獨逸の鋼産額……一九四

附 表

世界各國鐵鋼及石炭月別産額表
 昭和三年合衆國鉄鐵及鐵合金州別製法別等産額一覽表
 " 合衆國各種壓延鋼材生産高表
 " 合衆國主要製鋼所の利得、資本、資産及能力一覽表
 " 本邦主要市場鋼材在庫高月別表

外人の觀たる本邦製鐵業 (其の二)

在東京米國商務官補ゼ・エツチ・イーラース述
 The Far Eastern Review, 一九二九年二月號所載

目 次

外人の觀たる本邦製鐵業

一、石炭と骸炭
 (イ) 日本の石炭資源表
 (ロ) 日本の石炭産額並輸出入表
 (ハ) 日本主要炭山の産額
 (ニ) 日本の骸炭用炭山
 (ホ) 日本の骸炭製造に用ひたる資源別石炭消費高
 (ヘ) 日本の骸炭産額と種類別
 (ト) 炭價の高き事由と坑夫一人當り産額
 (チ) 石炭の相場
 (リ) 骸炭の輸入
 (イ) 原料の消費高
 (イ) 鐵鋼の生産に使用したる原料の消費高表



三、經濟的諸要素

- (ロ) 屑鐵の供給
- (イ) 鐵鑛石の輸入と價格
- (ロ) 鑛石供給資源確保に更に努力す
- (ハ) 馬來半島鑛石事情
- (ニ) 支那の製鐵事情と日本
- (ホ) 日本製鐵業の難事とする點
- (ヘ) 八幡製鐵所の非常豫備鑛石
- (ト) 輸入鐵鋼より全然獨立を保證すべき日本の鑛石所要額表
- (チ) 骸炭の法外値
- 四、日本、歐米銑鐵一屯當り原料費比較
- 五、滿洲の製鐵業に及ぼす諸問題
- (イ) 滿洲の選鑛作業
- (ロ) 撫順炭と本溪湖炭の配合に依る骸炭製造
- (ハ) 鞍山製鐵所に於ける銑鐵生産費並に釜石、八幡兩製鐵所の生産費との比較

石炭と骸炭

日本の鐵鋼業に於て最も難事と成すは恐らく相當價格を以て優秀なる骸炭の供給を十分に確保する問題

に在りし思惟せらる。日本は現時の一般産業狀態を維持するに十分なる石炭と現時の製鐵業に對する骸炭用石炭の供給資源は十分之を有す。雖、鐵の熔解に使用すべき品質優良の骸炭の供給に關しては、日本の石炭には多くの缺點あり。日本の石炭埋藏量は總計約九十億噸以上と見積らる、其の確定量と推定量とを示せば次の如し

日本内地、朝鮮及滿洲の石炭資源

(單位百萬噸)

地方	確定量			推定量			總計
	無煙炭	瀝青炭	褐炭	無煙炭	瀝青炭	褐炭	
樺太	—	一七	—	—	一、三四五	—	一、三六二
北海道	—	三三六	—	—	二、一〇六	—	二、六七五
九州	—	五四二	—	—	二、三七四	—	二、九一六
其他	五	—	六七	五七	四〇九	—	一、〇一七
内地計	五	八九六	六七	五七	六、二三四	七一	七、九七〇
朝鮮	七	—	五	三三	—	二二	八一
滿洲	—	四〇九	—	六八	七三一	—	一、二〇八

總計 一二一、三〇六 七二 一五八 六、九七八 七三三 九、二五九

本表は、日本地質調査所の井上博士の編纂に係はるものにして E. Kohny 博士の日本鐵鋼業を題する論説より取れるものなり

露領に屬する樺太島の北半は、未だ十分踏査せられざるも多量の石炭を埋藏せり、而して同地炭山の多くは日本會社の手にて採掘せられつゝあり

日本の産炭額は目下年三千萬噸を越へ輸出、輸入は何づれも二百萬噸近傍にあり。一九二二年以前に於ては、輸出は二百萬噸を越へ、輸入は七十五萬噸前後なりしが其の後輸出衰へ輸入は著しく増加したり。之を表示すれば次の如し

日本の石炭産額並輸出入 (單位千噸)

年次	産額	輸出	輸入
一九一七年	二七、二八七	二、七九一	七〇七
一九一八年	二九、一二四	二、一八〇	七六二
一九一九	三二、七二三	二、〇〇一	七〇〇
一九二〇	三〇、八二八	二、一三〇	七九七
一九二一	二七、六七六	二、三八八	七七七

一九二六年の實産額三一、四二六、五四九噸一九二七年の實産額三三、五三〇、六〇七噸(譯者)

次表は日本内地に於ける主要炭山の一九二六年の産額を示す (單位千噸)

炭山名	所在地	經營者	産額
三池	九州	三井鑛山株式會社	二、一〇九
夕張	北海道	北海道炭礦汽船株式會社	一、一五三
美唄	北海道	三菱鑛業	八二三
三井田川	九州	三井鑛山	一、〇一九
大野浦	"	貝島鑛業	一、三六〇

二瀬	入山	豐國	松島	中鶴	内郷	鯉田	新入	忠隈	三井山野	杵島	新夕張	空知	砂川	高島
"	磐城	九州	長崎	福岡	磐城	九州	"	"	"	"	北海道	"	"	九州
商	入山炭礦株式會社	明治礦業	松島礦業	大正礦業	磐城炭礦	三菱礦業	"	住友合資	三井礦山	高取礦業	北海道炭礦汽船	"	三井礦山	三菱礦業
工	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
省	九四九	四一三	五三〇	四四三	四九〇	八六四	六〇六	五七五	四二五	五九七	二一九	五五七	四〇四	五一六
														三四〇

最近の統計に依れば、日本には二百七十二の炭礦會社あり、其の資本總額六億六千萬圓、拂込資本四億二千九百萬圓に達す

日本骸炭用炭山

日本の産出炭は一般に骸炭用品質に缺如せるも次の炭山は此の目的に適せり

二瀬	鹿町	高島	(一九二六年の産額	三四〇、〇〇〇噸)
松島	鯉田	崎戸	(五〇一、〇〇〇噸)
忠隈	目尾	((三一〇、〇〇〇噸)

尙北海道の夕張、新夕張、神威、茂尻の炭山も満足なる骸炭用石炭を産す。三池炭坑は日本に於ける最大炭坑の一にして一般用途は勿論、骸炭用に適する石炭をも産す。然るも硫黄分高く約三・六パーセントを含めり

八幡の製鐵所は、九州に二瀬炭礦を所有し骸炭用石炭年約百萬噸を産す、同所の使用骸炭用石炭の半數は本炭山より供給するものなり

北海道産の石炭は容易に骸炭化すれども其の骸炭は脆弱なり。夕張炭礦は北海道に於ける主要炭山にして年約百萬噸以上の良骸炭用石炭を産し而も硫黄分低く僅に〇・四四パーセントを含めり

在九州製鐵所は九州炭を使用すれども又若干支那炭をも使用す。北海道東北、及東京地方の鋸鐵爐は骸

炭用として北海道炭を用ゆ

滿洲に於ても石炭の供給豊富にして同地の鐵礦を以てする製鐵業の經營に十分なり。本溪湖の炭礦は炭用の良炭を産し又滿鐵の撫順炭も良炭にして本溪湖其他の石炭を配合して骸炭を製造することを得。撫順大炭礦の採炭作業は大規模の露天掘にして、炭層の厚さ平均一三〇呎あり。本炭は、採掘當座は前述の通り他炭と混じて骸炭用に利用し得れども船積後は急に骸炭化の品質を喪失するものと稱せらるゝを以て遠地の製鐵所に之を利用するこゝは困難なり、滿洲の骸炭は灰分及水分高し

要するに日本の石炭は骸炭用としては特に優秀なるものにあらず、而して骸炭の品質不良と價格の高價とは、日本に於ける鉄鐵の經濟的生產に一大障壁を設くる要素の一なりと言ふを得べし

現在骸炭用石炭と看做されざる日本炭を他炭と配合してメカニカル、パツキング其他の方法に依り骸炭の製造を試験中なり

日本の骸炭製造に用ひたる資源別石炭消費高

一九二五年に於て製鋼用骸炭の生産に使用したる石炭消費高を資源別に示せば次の如し

九州炭	九五八、〇〇〇噸
北海道炭	二四七、〇〇〇
支那炭	三二〇、〇〇〇

尙鑄物用骸炭の製造に使用されたる石炭高次の如し

樺太炭	一〇、〇〇〇噸
滿洲炭	三二二、〇〇〇
合計	一、八五六、〇〇〇
九州炭	二八一、〇〇〇
北海道炭	八六、〇〇〇
支那炭	七四、〇〇〇
樺太炭	八、〇〇〇
印度支那炭	二三、〇〇〇
朝鮮	四、〇〇〇
合計	四七五、〇〇〇
内九州炭の供給資源別次の如し	
二瀬	七八一、〇〇〇
松浦地方	八七、〇〇〇
鹿町	五六、〇〇〇

高島	二〇、〇〇〇 吨
其他	一四、〇〇〇
支那炭の内譯次の如し	
開平	二〇〇、〇〇〇
本溪湖	四一、〇〇〇
淄川	三〇、〇〇〇
博山	二七、〇〇〇
撫順	二二、〇〇〇
滿洲炭の内譯次の如し (日本の管理炭山)	
撫順	一三九、〇〇〇
本溪湖	一七二、〇〇〇
北海道炭の内譯次の如し	
夕張	一〇八、〇〇〇
空知	九九、〇〇〇
砂川	三九、〇〇〇

日本の骸炭爐數と種類別

一九二五年に於て操業せる骸炭爐數を種類別にて示せば次の如し

黒田式骸炭爐	三〇七基
コツバリス式	一六〇基
三池式	六〇基
ワルプット式	二三四基
岡本式	二四基
コツペー式	五二基
ビーハイブ式	一六三基

此の外滿洲に於ても八〇基の副産物骸炭爐及一〇六基のビーハイブ骸炭爐の操業を見たり

製鋼用骸炭の製造に使用されたる石炭の内八七六、〇〇〇吨は、塊炭、五〇、〇〇〇吨は粉炭にして又鑄物用に使用されたる骸炭の内二九四、〇〇〇吨は塊炭より、二二、〇〇〇吨は粉炭より製造されたるものなり

一九二五年に於て骸炭の生産に用ひられたる石炭は一、三八一、〇〇〇吨に達せるが此れより鐵鋼業用の骸炭一、〇三七、〇〇〇吨製造せられたり

骸炭爐の大部分は副産物骸炭爐にして次の副産物の生産を見たり

タ	ー	ル	七三、五〇〇
硫酸	ア	ン	モ
			ニ
			ア
ナ	フ	サ	一六、一〇〇
クレ	オ	ソ	ト
			七〇〇
ピ	ツ	チ	一一、五〇〇
ベン	ゾ	ー	ル
			三四、九〇〇
			七、二〇〇

炭價の高き事由と坑夫一人當り産額

炭價高くして鐵鋼業に支障を及ぼしつゝあるが其の原因に多々あり。日本内地の炭山は、一般に炭層薄く斷層を成し水の滲出ミ瓦斯ミに悩まざる。一坑夫當りの年産額は他の主要石炭生産國に比し少なり。尤も機械の使用も西歐諸國に比し少し。戦前の一坑夫當り年産額は一二四噸を示せるが一九二一年に於ては一〇六噸に減じ、爾來増進して目下約一三〇噸を示せり。

石炭の相場

九州に於ける塊炭の相場は、第一種炭一噸當り十二圓五十錢、粉炭十圓五十錢、支那の開平炭は東京地方に於て屯二十圓以上の相場を示せり。一般に云へば、九州炭の東京に於ける價格は、九州に於ける價格

よりも三圓高く、大阪地方に於ける價格よりも一圓五十錢乃至二圓高し、九州地方に於ける骸炭の値段は噸約十五圓にして炭價の一倍半を示せり。八幡製鐵所に於ては噸約九圓乃至十圓にて自家炭を生産す。

北海道炭は、東京地方に於ては、骸炭製造に用ひられ價格は九圓乃至十二圓を呼び其の骸炭の値段は、目下約十六圓の相場なるが品質は灰分二〇パーセントを含み鑄鐵爐の使用に全く適せず

鐵道省に於ては、平均價格噸十一圓六十四錢を以て來年度の購入炭を九十萬噸ミ決定せるがこは炭價の實際狀態を指示するものなり

骸炭の輸入

骸炭の輸入は少量にして主に支那に仰げるが此の骸炭は主として鑄物用に供せらる。近年英國及獨逸よりも骸炭輸入せらるゝに至り、支那よりの輸入は急に減少せり。一九一六年に於ける骸炭の輸入額は二、五〇〇噸、一九一七年は五一、〇〇〇噸、一九一八年は七七、〇〇〇噸に達し最高を示せり。爾來減少して一九二四年には一九、〇〇〇噸となり、一九二五年には突如七、〇〇〇噸に減じ一九二六年には更に六、〇〇〇噸となり、一九二七年に於ては四、〇〇〇噸を稍々越ゆるに過ぎず、一九一八年に於ける其の平均値は噸四十圓を呼びたるが一九二四年には三十圓に低落し一九二七年には二十七圓臺に落ちたり

以上の數字より見て、日本の製鐵業が廉價なる骸炭用石炭の供給を豊富に有する合衆國其の他の製鐵諸國に比し頗る不利の地位に在ることは多言を要せざる所なりとす

原料の消費高

日本の製鐵、製鋼業に於ける原料の消費高を示せば次表の如し、こは日本鑛山局の發表に係はるものにして、各製鐵會社の報告に基いて作製せられたるものなり。製鐵用木炭使用の減少、砂鐵使用の減少は共に顯著なり

(本表の數字は、記者の引用せる其の他の數字と全く合致せざるものもあり然れども大体より見て、實際使用せられたる原料の數字に關しては最善の參考資料たり)

鐵鋼の生産に使用したる原料の消費高 (噸)

年次	鐵鑛石	滿俺鑛	石灰石	骸炭用炭	其他の炭	骸炭	銑鐵	鐵合金	屑鐵	砂鐵	木炭
一九二八年	一、〇四、九〇〇	一三六、九七三	三三三、一五七	一、一八四、六六七	一、一三、五三三	八〇〇、〇一〇	四九二、七〇三	八一、九七	五六〇、三三三	三三、九八一	一一八、六〇六
一九二九年	一、〇七、九三三	七〇、一五二	四三三、五三三	一、六九二、六四一	一、〇四、八三九	八八八、七六一	四七四、〇五八	七、三三五	四〇二、一三三	七、七八八	二五七、七九九
一九三〇年	一、二四八、四六六	四八、八六六	五三三、四七三	一、六四〇、四四六	一、二六九、七七〇	八八八、〇三三	五〇〇、七〇三	〇、五一一	四九三、一九〇	六、七〇八	一六、九六二
一九三一年	一、〇七四、八〇〇	四六、六三三	五〇六、三五〇	一、〇五三、二八一	一、一八五、七四九	七四四、九六六	五四一、五二八	八、六八七	四五二、四二七	三、四八三	二五、二四八
一九三二年	一、一八一、七八	三九、四三三	四七三、二五三	一、三六六、三三二	一、〇七八、〇四七	六八〇、七三三	六〇四、三三三	三、七八八	四五四、六二四	五八〇	七、五四五
一九三三年	一、〇四、一〇三	四九、〇六一	三六八、九八七	一、三三二、〇三三	七〇七、七〇三	六六〇、一〇〇	六五〇、〇五六	一、五九〇	四三〇、三〇八	一五三	三、一三
一九三四年	九一、六五三	六四、三三三	三六八、八〇二	一、三三九、六三三	七七九、六三七	六三六、二四	七三二、七〇六	一、四、五六三	四九四、三三三	四六六	三、三八〇

年次	鐵鑛石	滿俺鑛	石灰石	骸炭用炭	其他の炭	骸炭	銑鐵	鐵合金	屑鐵	砂鐵	木炭
一九三五年	一、二二五、五四三	六五、九三九	六五、八八九	一、三三〇、九七一	一、三三四、四一七	—	九七三、二七二	三、五二〇	五六五、五六五	五八四	二、六〇〇
一九三六年	一、四三七、三九五	七六、〇九六	四四八、〇七八	一、四三八、四〇九	一、三六六、六八三	七七五、五四五	一、〇三三、九七七	一、五八二	六五九、二九五	一八五	一、六四

屑鐵

屑鐵の供給を何つれより得るか、日本製鋼業當面の問題なり。内地の供給は勿論不十分なり。然るも、主要製鋼所が海岸に位置せること、直接運送汽船を有する點は、東洋地方より其の供給を受くる上に便利たることを記せざるべからず

經濟的諸要素

前記の資源及産額表より見て、日本自体の鐵鑛供給が現在の斯業に不十分なることは明かなるを以て他國より鑛石の供給を受けざるべからず

鐵鑛石の輸入と價格

過去數ヶ年間に於ける輸入鑛石の平均價格は、噸當り八圓五十錢乃至九圓を示せり、其の平均含鐵分は五五パーセント以上即ち約五七パーセントにして、熔解し易く鹽基性平爐用の良銑鐵を産す。日本の製鋼設備は此の鹽基性平爐に限られたり

北海道の一鎔鑛爐は、噸當り九圓にて鐵分約五七パーセントの支那鑛石を使用せり。約六〇パーセント

鑛石の平均値は、十圓内外を呼べり六〇パーセント以上の馬來鑛石は引渡應約十一圓にして、五〇パーセントの朝鮮鑛石は七圓内外の見當なり

鑛石供給資源確保に更に努力す

故に日本は、鐵鑛に關してはピツパーク其他合衆國に於ける製鐵地方に比肩し得る價格を以て適當なる鑛石の供給を受けつゝあり。鑛石の供給は、大問題たるも現狀に至る斯業の發達に對し主なる障礙物なりしは云ふを得ざるに同時に障礙物中殆んど解決狀態に在る要素の一なりとす。目下内地鐵鋼業の伸展に適應せしむる爲め更に鑛石供給の資源確保に努めつゝあり

馬來半島鑛石事情

概して極東の鑛石資源地は餘りに離散せる爲め、多くの獨立經營事業を保證し得ざる狀態に在り、馬來半島には莫大なる鑛石の供給あり、雖同地に製鐵業の經營を適當とせず何となれば同地の市場小にして製品の消化を成し得ざるに同時に燃料の供給に不足あるが爲なり然るも、幸にして、同地の採鑛費頗る低廉なるが爲め海岸に位置する日本の鎔鑛爐までの運賃を負擔し得る狀態に在り

支那の製鐵事情と日本

支那の狀態は又趣を異にす、目下諸種の原因に依りて、殆んど生産を見ざるが、其の原因の主なるものは、骸炭の高價、組合組織並に作業効率の缺如、制限されたる内國市場、國內の政治的擾亂等なりとす。

然るも支那の鑛石は、品質優良にして、採掘常に容易なることは一般に認めらるる所なるを以て若し支那にして斯業當面の難關を打破する方法を見出し得ば又同時に製品に對する地方市場の販路を擴大し得ば、其の鑛石産額の大部分を消費するの時期に到達すべし。此の狀態に到達して、支那の鎔鑛爐が再び以前の最高能率を以て操業を回復すしめて尙輸出に振り向くべき莫大なる鑛石を殘存すべく、支那の採鑛會社と日本の製鐵會社との財政的關係は、向後も鑛石供給の持續を保證するに十分なり

日本製鐵業の難事とする點

日本其他東洋諸國に於ては、大規模の製鋼業を必要とせず東洋に於ける一人當り鋼消費高は之れを合衆國其他の大工業國に比すれば恐らく同一の論にあらざるべし、適度の規模を以てする日本製鋼業維持上の困難は、鑛石の供給に在らずして他に伏在せり

八幡製鐵所非常豫備鑛石

平時の供給が杜絶することのあるべき非常時に備ふる原料の供給問題は、斯業平時の經濟狀態を究めんとする本論文の範圍外に在り、雖此れに關し一言附言し置くことあり即ち八幡製鐵所に於ては非常の場合一兩年の作業に十分差支なき鑛石を貯鑛し置くの計畫を成せり。實際の處目下受けつゝある供給高の大部分は非常時に際しても恐らく入手し得らるべし、然れども、斯業睫眉の問題は今後の發達に對する鑛石供給の増加に在り、鋼の自給自足は日本豫ての望みなりとす

次表は、日本の鑛石全需要額を示すものなるが但こは、日本の鐵鋼生産設備が同國鐵鋼の全需要額を満し得るものゝ假定したる場合を指すものなり、因に本表は淺野製鋼所技師の作製に係はれり

輸入鐵鋼より全然獨立を保證すべき日本の鑛石所要額 (噸)

	一九二六年	一九二五年	一九二四年
日本の鑛石生産高(朝鮮を含む)	二二九、四二二	一八三、六三三	一九四、六四九
外國より輸入額	七九二、八三〇	一、一〇三、七〇九	一、〇六五、一三二
鑛鐵爐の實際消費高	一、四三七、三九五	一、二〇五、五四三	九九一、六五八
輸入鋼の償還に必要な鑛石	一、二二五、七六〇	七〇五、二八〇	一、五二九、四四〇
輸入鉄の "	三三二、九七四	三四〇、九五〇	五五五、七〇四
輸入鉄鋼の償還に必要な鑛石計	一、五五八、七三四	一、〇四六、二三〇	二、〇八五、一四四
全く自給自足に要する鑛石所要高	二、九九六、一二九	二、二六一、七七三	三、〇七六、八〇二

輸入鐵鋼より全然獨立するに要する鑛石の所要高は、自一九二四年至一九二六年三ヶ年間の平均を以てせば年約二百七十五萬噸に達す。日本に於ける鐵鋼の生産は、此の最大限を以てせば經濟的にあらざるべきも、前記の數字は製品に對する市場の範圍を指示するものにして目下殆んそ其の製品の全部は實際に日本に於て製造せらる、而してこは新製法を輸入せずとも現存の設備を擴大して生産するこを得べし

骸炭の法外値

石炭及骸炭の項に論述したる通り日本に於ける鐵の經濟的生產に一大支障を來すものは骸炭の價格高價なる點に在り噸十五圓以上の鑛鐵爐骸炭を以てしては、勞力其他の要素に大節減を加ふるにあらざれば到底有利の生産を見るこ困難なり。鐵の經濟的生產問題に關し現存製鐵所の難事こなす所は即ち此處に在り。鋼の生産に於て原料供給の經濟を決定するものは、鑛石又は骸炭の如き個々の原料費に在らずして諸原料費總計に在るこは勿論なるも、日本の骸炭價格は變動性に富み且不可解極まる法外値を呼べり。何づれの製鐵業を問はず、外國鑛石を使用する處に於ては、鑛價の高きを期待するを以て鑛石は、骸炭の廉價にして入手容易なる場所に送らる、事實に鑑みれば、特に日本の場合は奇異の感を深くするものなり。日本の製鐵所も最初此見地を以て設置せられたるが事情は特異の状態を呈し製鐵所創設者の抱負を裏切れり。骸炭用石炭價格の増進は勞力費の割合以上に在り

銑鐵一噸當り原料費比較

次表は、アイアン・エーヂ誌所載世界主要國に於ける銑鐵生産に要する原料費の比較表にして此れに日本及滿洲の分を添加せるものなり

銑鐵一噸當り原料費比較

國別	鑛石	骸炭	熔劑	合計
合衆國	弗	弗	弗	弗
大湖地方高爐	七・八五	六・七五	〇・五〇	一五・一〇
ピツバーク地方高爐	九・九〇	四・〇〇	〇・六〇	一四・五〇
大西洋海岸高爐	九・五〇	八・〇〇	〇・六〇	一八・一〇
佛蘭西				
ローレヌ	三・四〇	九・〇〇	一	一二・四〇
ルクセンブルグ	二・四〇	八・四〇	一	一〇・八〇
白耳義	六・〇〇	八・〇〇	一	一四・〇〇
獨逸(ルール)				
瑞典鑛石	八・七〇	四・六〇	〇・四〇	一三・七〇
ローレヌ鑛石	七・六〇	六・〇〇	一	一三・六〇
英國				
輸入鑛	九・三〇	五・七五	〇・六〇	一五・六五
内地産鑛	三・五〇	八・〇〇	〇・二〇	一一・七〇

印度の生産費は、前表所載の國の何づれよりも低廉なり。最近報ぜらるる所に依れば、一切の間接費及製造費を含み、聴當り約一一弗なり云ふ

滿洲の製鐵業に及ぼす諸問題

滿洲の製鐵業は別個の問題を成せり。大規模を以て生産せられんことを滿洲鑛石の大部分は鑛鑛爐に使用前、選鑛せられざるべからず。此の處置は、最近經濟的規模に於て着手せられたり。本作業の財政的結果を豫斷するは尙早なり。雖、滿鐵は大資源を有する半官的の事業にして且鐵生産の成功に懸命の努力を向けつゝ、ある點より推せば結局此れが成効は殆ん疑ひなきもの、如し

目下折角詮議中の滿洲鑛石問題に關しても先決問題は骸炭に在り、撫順炭は良骸炭用炭にあらざるを以て之れに本溪湖炭を配合しつゝ、あるが其の割合は撫順炭八割、本溪湖炭二割を以てせり。撫順炭の價格は聴約七圓、本溪湖炭は十二圓なり。目下本溪湖炭の配合割合を減少せんが爲め試験中に在り。本骸炭は本に於ける何づれの骸炭よりも低廉なり

本鑛鑛爐に於ける鉄鐵一聴當りの生産費は大約次の如し

骸炭

十圓

鐵石	十圓
石灰石	二圓
其他	二圓五十錢
合計	二十四圓五十錢
市場の遠隔は本鉄鐵販賣上の一難事を成し次の如き餘分の費用を要す	
大連港迄の鐵道運賃	四圓
手數料	一圓五十錢
輸送中の取扱及損耗	三圓
内地迄の汽船運賃	二圓
支那より輸出税	二圓
内地への輸入税	一圓六十六錢
合計	十四圓十六錢

滿洲鞍山鉄鐵の内地陸揚迄の生産費は以上の通り總約三十八圓なるが、一部内地産、一部支那産の鐵石を使用する釜石製鐵所の生産費は約三十七圓、八幡製鐵所の生産費は約四十圓に達す (以下次號)

昭和三年合衆國の鐵鋼業概觀

ハンバーグ特派員 The Iron & Coal Trades Rev., Jan. 25, 1929.

目次

- 一、總論
- 一、鉄鋼の産額
- 一、製鋼業の圓熟
- 一、鋼塊能力
- 一、協同精神の發揚
- 一、合衆國の鉄鐵生産高表
- 一、" 鋼塊生産高表
- 一、集成鋼材價格表

總論

一九二八年中の亞米利加鐵鋼業は大體より觀て可なりの殷賑を呈したり歴延工場は豐年を享樂せるも鋼鑄物工場は寧ろ不振をかこち、鐵鑄物工場は、概して凶年に遭遇せるもの云ふを得べく、マーチヤント爐に至りては辛うじて生命をつなぎ得たる状態に在りき

シユピリアル湖の採鑛業に就ては、鑛石の販賣高頗る減少し居るを以て此れに關し大聲論述するの價值無し、其の東部市場は、イリー湖よりの運賃高き、輸入鑛石の入手容易なるに依り既に數年前に於て切り取られたり、而も製鋼會社及大抵のマーチャント爐は、自ら鑛石を産し元々鑛石を購入したる「マーチャント爐」の大部分は其の影を没するに至れり又コンネルスヴィールの骸炭業は益々衰微の度を加へ今や殆んど取るに足らざる状態に在り

鐵壓延工場に對しては既に考慮を拂ふの要なきに至れるが其の一九二七年に於ける産額は、壓延鋼の三二、三三四、六八七噸に比し、五四四、三四四噸に落下したり

斯の如き一般鐵鋼業の附屬物も見らるべきものに就いては簡單に論じ斯業の主眼部に就て詳述すること、せん

銑鋼の産額

政府の統計に係はる銑鐵の産額は第一表に、製法別に依る一九二七年迄の鋼塊産額は第二表に示せり。

一九二八年の鋼産額は五一、四〇〇、〇〇〇噸に達したり。鹽基性平爐鋼の生産高き、電氣爐鋼の生産高きは共にレコードを作れり。一九二八年の鋼塊産額は、記録年の一九二七年より約一割七分、一九二六年より九分の増加を示し、一九二二年並に一九一三年の産額に比し其の三分の二を増加したり

鋼の産額が急速に増大したるは、言ふまでも無く近年の事に屬し以前は此れに代ふるに、輸入を以てせ

り。鐵鋼の輸入額は一八八〇年を以て最高となし、總額一、八八六、〇一九噸に達したり。同年に於ける合衆國の壓延鐵生産高は、二、〇八二、七三九噸、鋼軌條は、八六四、三三三噸を算し其他は報せられざるも恐らく注目に値すべきものにあらざりしならん。統計に脱落あるも、壓延鐵の産額が著しく増加し始めたるは一八九二年頃なりき。鋼の産額は、需要の増加に鐵に代りたる鋼に依り倍加するに至れり大戰は鋼の生産を激勵したるに同時に、新規の工場を建設せしめたり。工場の新規建設は戰時中に始まり戦後まで完成せざりしが此れを含んで鋼塊生産能力は約五割を増加し即ち一九一三年末に於ける三五、〇〇〇、〇〇〇噸は一九二〇年末に至り五一、〇〇〇、〇〇〇噸に増進したり。一九一七年に於て作りたる戰時の生産レコードは、一九二五年に至り始めて破られたるを見る

亞米利加製鋼業の圓熟

こは云へ今や亞米利加の製鋼業が全國運の發達せるに同様圓熟の域に達せることは疑ひの餘地なき所に於て今後は、其の青年期の特色も見るべき幾何級數的の進歩は之を期待し得ざるべし、而して戦後に於ける製鋼業は、平時に際しては餘りに能力大に失し需要激増して十分此の間隙を補ふに至る迄は現狀に満足するの外なかるべしこは當時一般批判者の意見なりき

然るも實際は、此の能力の過剰は難事の續出に依り緩和せらるゝことを得ざりき、一九一九年の前半に於ては戰爭終熄時に於ける一般的不安に依りて需要の減少を示し又同年九月末には、多少共產主義に類す

る鋼業の大罷業勃發せり、次いで一九二〇年には勞力の缺乏を來せるがこは鐵道に勞力の密集せるこ一般的事業の景氣に起因したり此れが爲め鋼の需要は無限たるべく思はれたるも翌一九二一年に於ては需要の期待は皆無なる状態を招きたり。下りて一九二二年四月一日に於ける炭業の大罷業勃發は買手を神經過敏ならしめて鋼の需要を助成したり越へて一九二三年四月には、先物契約に依る舊式の買運動絶頂に達したるが爲め時に價格の引上げを可能ならしめ契約期満了の同年末迄は工場は全能力を以て作業するこを得たり。次いで其の日暮しの即ち現物取引期間に遭遇し能力の過剩状態は益々濃厚こなれり。戦前に於ても屢々能力の過剩を來せるこあるも買手は價格の増進に連れて順次に先物契約の法を取れるが爲め工場に於ては引渡期間に後れるこ屢々なりき、一九二三年以來諸工場は商取引上の研究を始めたたり、而して大いに得る所ありしは疑ひなき所なるも未だ僅に五年を経過せるに過ぎず

鋼塊能力

一九二八年の産額が平時の全需要を表現し居るや否やは知らざるも記者の確信する所に依れば、過去五年間中に於ける亞米利加製鋼業の發達は需要と生産能力との間隙より起る不利を除去するの程度に至らず依然として寧ろ需要より生産能力過剩の状態に在り

以上の説明は、能力の數字が如何にも適確に知れ居るもの、如く意味すれども實際は然らず、能力に關しては各工場の支配人より年々報告する所あるも或は控目に或は誇大に報ぜらる、の常なるを思はざるべし

からず。一九二七年十二月卅一日現在報告の鋼塊能力は合計五九、四三五、七六六屯にして此れに對し生産高は其の八割五分を示せり。然るも一九二八年中に於ては新規の建設又は設備の完成其他に依り能力増大せるが爲め、一九二八年十二月卅一日現在の能力の計算に於ては、恐らく六千百萬屯前後に達すべしと思惟せらる

協同精神の發揚

一九二七年の最後の三ヶ月間に於ては需要著しく減少し價格の低落傾向を來し事態頗る悪化せるを以て斯業の生産業者は何等かの緊急手段を講ぜざるべからずとせり、此に於てか益々協同精神發揮せられ一九二八年は稍々價格の恢復を見たり(集成價格表參照)

第一表 合衆國の鉄鐵生産高(英噸)

一九一三年	三〇、九六六、一五二
一九一四	二三、三三二、二四四
一九一五	二九、九一六、二一三
一九一六	三九、四三四、七九七
一九一七	三八、六二一、二一六
一九一八	三九、〇五四、六四四

年次	鹽基性平爐鋼塊	酸性平爐鋼塊	平爐合計	轉爐鋼	坩堝	其他	總計
一九一八年	三,九〇〇,六六一	一,三四七,八七〇	三,三三八,五六一	九,二五,三九二	一一三,七六三	四〇三,〇六八	四三,〇五〇,八〇三
一九一九年	二五,四四五,三四七	七八〇,八二七	二六,一八六,七四四	七,七二,七四三	六二,五五三	二七三,九四二	三三,六九四,五二二
一九二〇年	三〇,九六,三九三	七五九,一〇二	三,六八五,四九五	八,七八,一〇七	七〇,五五五	三四六,九五六	四〇,八八一,〇九四
一九二一年	一四,八六四,六〇七	二九〇,七五〇	一五,一五五,三五七	三,九九,二二九	六,八七七	八四,四〇四	一九,二三三,七六七
一九二二年	二七,九六一,一九〇	五七〇,四五五	二八,四七八,二三五	五,八七一,五五五	二七,五六一	一九一,〇五七	三四,五六八,四一八
一九二三年	三四,〇九三,七一一	六五三,三三七	三四,七四七,〇四八	八,四六,五七六	四三,二二七	二七九,九二四	四三,四八五,六六五
一九二四年	三〇,二六三,〇〇五	四五四,九六	三〇,七七,九三一	五,八四六,一五三	二二,〇六六	二五,九九七	三六,八一,一五七
一九二五年	三六,六三三,〇六〇	四八四,八四三	三七,一六,九〇三	六,六七〇,二二八	一七,七二九	三三,九九八	四四,一四〇,七三八
一九二六年	三九,一七二,六八八	五三三,二八五	三九,七〇五,九七三	六,八九一,五〇二	一三,四五二	三五,二七八	四六,九三六,二〇五
一九二七年	三六,七五〇,三六七	四九三,六三三	三七,二四四,〇四〇	六,五三,七〇三	七,六六六	三七,二七八	四三,七六六,七二七

第二表 鋼塊產額 (英噸)

一九一九	三一,〇一五,三六四
一九二〇	三六,九二五,九八七
一九二一	一六,六八八,一二六
一九二二	二七,二一九,九〇四
一九二三	四〇,三六一,一四六
一九二四	三一,四〇五,七九〇
一九二五	三六,七〇〇,五六六
一九二六	三九,三七二,七二九
一九二七	三六,五六五,六四五
一九二八	三八,〇〇〇,〇〇〇

第三表 集成鋼製品價格 ピツパীগ工場渡月平均 (仙)

年次	一九二三	一九二九	一九三〇	一九三二	一九三三	一九三四	一九三五	一九三六	一九三七	一九三八
一月	一・七	三・五八	三・三五	二・五	二・六	二・九	三・〇三	二・七七	二・六五	二・六二
二月	一・七六	三・五八	三・五八	三・一〇	二・四	二・七	三・〇三	二・八三	二・六三	二・五二
三月	一・七六	三・四七	三・七八	二・九四	二・九	二・八三	三・〇〇	二・七六	二・六三	二・五四

一九一八年	三,九〇〇,六六一	一,三四七,八七〇	三,三三八,五六一	九,二五,三九二	一一三,七六三	四〇三,〇六八	四三,〇五〇,八〇三
一九一九年	二五,四四五,三四七	七八〇,八二七	二六,一八六,七四四	七,七二,七四三	六二,五五三	二七三,九四二	三三,六九四,五二二
一九二〇年	三〇,九六,三九三	七五九,一〇二	三,六八五,四九五	八,七八,一〇七	七〇,五五五	三四六,九五六	四〇,八八一,〇九四
一九二一年	一四,八六四,六〇七	二九〇,七五〇	一五,一五五,三五七	三,九九,二二九	六,八七七	八四,四〇四	一九,二三三,七六七
一九二二年	二七,九六一,一九〇	五七〇,四五五	二八,四七八,二三五	五,八七一,五五五	二七,五六一	一九一,〇五七	三四,五六八,四一八
一九二三年	三四,〇九三,七一一	六五三,三三七	三四,七四七,〇四八	八,四六,五七六	四三,二二七	二七九,九二四	四三,四八五,六六五
一九二四年	三〇,二六三,〇〇五	四五四,九六	三〇,七七,九三一	五,八四六,一五三	二二,〇六六	二五,九九七	三六,八一,一五七
一九二五年	三六,六三三,〇六〇	四八四,八四三	三七,一六,九〇三	六,六七〇,二二八	一七,七二九	三三,九九八	四四,一四〇,七三八
一九二六年	三九,一七二,六八八	五三三,二八五	三九,七〇五,九七三	六,八九一,五〇二	一三,四五二	三五,二七八	四六,九三六,二〇五
一九二七年	三六,七五〇,三六七	四九三,六三三	三七,二四四,〇四〇	六,五三,七〇三	七,六六六	三七,二七八	四三,七六六,七二七

平 均	十 二 月	十 一 月	十 月	九 月	八 月	七 月	六 月	五 月	四 月
一・七三	一・六六	一・六三	一・六八	一・七一	一・七四	一・七六	一・七七	一・七六	一・七七
三・三三	三・三五	三・三五	三・三三	三・三三	三・三五	三・三五	三・三五	三・三五	三・三五
三・六三	三・二八	三・五〇	三・六七	三・八〇	三・八〇	三・七〇	三・六七	三・七一	三・七七
二・六二	二・三三	二・二八	二・三一	二・三七	二・四八	二・六三	二・八三	二・九三	二・九三
二・三三	二・五七	二・五七	二・五七	二・五一	二・三六	二・三三	二・三三	二・二八	二・二六
二・九六	三・〇一	三・〇二	三・〇二	三・〇三	三・〇三	三・〇三	三・〇三	三・〇三	二・九六
二・八四	二・七五	二・六八	二・六八	二・七二	二・七六	二・八一	二・八四	二・八六	三・九四
二・六八	二・六五	二・六三	二・六一	一・六一	二・六一	二・六三	二・六五	二・六九	二・七三
二・六四	二・六五	二・六五	二・六五	二・六四	二・六四	二・六四	二・六二	二・六一	二・六四
二・五三	二・四六	二・四七	二・四八	二・五一	二・五三	二・五三	二・五四	二・五四	二・五五
二・五〇	二・五三	二・五三	二・五二	二・五〇	二・四八	二・四八	二・四八	二・四九	二・五一

米國製鐵業の發達狀況

(昭和四年二月二十日附在紐育帝國總領事代理内山清報告)

曩に當地コロムビヤ大學に於ける米國主要産業會議の席上、米國鋼鐵會社財務部委員長エム・シー・テラーが發表した所に依れば、鐵云ふものが初めて米國に於て産出せられたのは、古く一六二〇年の昔ジエムス河支流フオリング・クリーク地方に於てであるが、十八世紀初迄は製鐵業の中心はマサチューセツト地方であつた云ふことである

又米國で最初の鋼鐵が製造せられたのは一七二八年カネチカツト州ハートフォード地方、又良質の鋼鐵はシンシナチに於て一八三二年始めて産出せられ、鐵が伸されたのは一八四五年ニュージャージー、ツレントンに於て行はれたるを以て嚆矢として居る

爾來鐵及鋼鐵の産出は比較的少量に止り、其産出方法は多年の間頗る幼稚で、其工賃たるや該品に對する需要をして或程度に制限せらるゝ迄高價であつた、如何にすれば消費者側としては當時高價なる鐵材料を使用するよりも寧ろ其當時の建築材料として適して居り、其量豊富にして且安値なる木材若は其他の材料を使用することが有利であつたからである

一八一〇年米國內鉄鐵及鋼鐵の産出高は夫々五萬三千九百八噸並九百七十七噸を計上するに過ぎなかつた

が、六十年後の一八七〇年には銑鐵百六十六萬五千七百七十九噸、鋼鐵六萬八千七百五十噸を産出し、漸次
 斯業の發展を見た次第である。處が一八七〇年頃に至てベセマー製鐵法の發明となり、次で佛蘭西に於て
 マルチンに依り發明せられた平爐製鐵法は一般製鐵業に對して甚大な刺戟を與へたのである。

是等新方法が發見せらるゝ迄は鋼鐵は比較的小型製品の製造に使用せられたに止り、大型製品の製造に
 使用せらるゝことは頗る稀で、僅に高價なる或特殊製品に使用せらるゝ、外事實上之が使用を許さない位に
 迄高價なものであつた

前記ベセマー及平爐式製鐵法の發達は南北戰爭終熄時代、即ち世界に比類なき米國內天惠資源の開發初
 期時代と殆ど同時に興たもので大規模的製鐵業開始以來の發達狀況は左記銑鐵及鋼鐵塊出货量に於て明示せ
 られて居る(單位噸)

年次	銑鐵	鋼鐵塊
一八七〇	一、六六五、一七九	六八、七五〇
一八八九	九、二〇二、七〇三	四、二七七、〇七一
一九一〇	一三、七八九、二四二	一〇、一八八、三二九
一九二〇	三六、九二五、九八七	四二、一三二、九三四
一九二七	三六、五六五、六四五	四四、九三五、一八五

尙一九二七年迄の最高記録は一九二三年後に於ける銑鐵の四千三十六萬千四百四十六噸並一九二六年鋼鐵
 塊の四千八百二十九萬三千七百六十三噸である

米國に於ける製鐵業は前述の通り著數發達を示し歐洲諸國亦然りて是等歐米に於ける製鐵量は歐米を除
 く他の諸國全體の産出量を遙に凌駕して居る。即ち一九一三年中米國の鋼鐵塊産出能力は三千五百萬噸で
 あつて、實際産出高は三千八百八十萬噸に達し、世界製鐵總量の約四割二分に相當し、又同年中歐洲製鐵能
 力は四千九百六十萬噸で實際産出高四千三百三十萬噸、即ち世界製鐵總量の約五割六分を占めて居るに鑑
 み、是等歐米産出高を合算すれば總計七千五百十萬噸を計上し居るに反し、歐米を除く諸國の製鐵能力は
 僅に百八十萬噸實際製鐵高百五十萬噸で世界製鐵總量の二分に相當して居るに過ぎない状態である。

然るに一九一三年以來其割合は著數變化し一九二六年末に於ける米國の製鐵能力は驚く勿れ六千萬噸に
 達し、同年中の實際生産量は四千八百三十萬噸を計上し、世界製鐵高の五割三分を占めたるに反し、同年
 中歐洲の能力は五千六百六十萬噸實際生産高四千七十萬噸を算して世界製鐵高の約四割四分に相當し、歐
 米相方の製鐵高の割合は前記一九一三年頃の夫と全く相反するに至たのである。又一方歐米を除く他の諸
 國に於ける製鐵業も同時に漸進し一九二六年度に於ける製鐵能力は三百九十萬噸に増進し、其實際生産高
 も二百八十萬噸となり、世界製鐵總量の三分を占むるに至た。前述の通り世界に於ける製鐵能力は一九一
 三年の六千六百四十萬噸より一九二六年には一躍一億二千五百萬噸に激増し、從て其實際製鐵高も七千六

百六十萬噸より九千八百八十萬噸に増進して居る。是等の數字より觀れば一九二六年中米國に於ける製鐵高は其能力の八割に相當し居るに反し、歐洲は七割二分又歐米を除く諸外國は七割見當を示して居る状態であるが、米國製鐵事業が如何に尨大であるか云ふことは、例へば一九二六年中の製鐵高四千八百萬噸を得るには驚く勿れ二億萬噸の原料を要し、且十四億弗以上の勞銀を以て百萬人の勞働者を使役して居る云ふ事實に徴するも明である。又一方該製品の價格を採算するに少くも三十億弗に達すべく、尙之を原料として製作せられた各種鐵製品が各商取引を経て最後の消費者側に至る迄の商買高は實に七十億萬弗の巨額に及んで居る。

米國製鐵事業に對する現在投資高に付ては政府當局の發表には何等的確な數字を擧げて居ないが、該事業に關係ある諸大會社の報告等を綜合するに最初の投資額並之に對する純利益を合算すれば裕に四十七億五千萬弗を超へ、又是等關係會社の有形資産を其自然減減見積高を差引たる當時の價額に評價し、之を前記投資額に合算すれば總額少くも六十億弗に達する見込である。

米國製鐵業は斯くして鐵に對する需要増進に正比例せずして餘り急激に其生産能力を増加したる結果、現今生産能力が實生産高より推定したる需要との關係は六對五の割合を保て居る。即ち二割方の能力超過を示して居る譯であるが、之を實際に徴して見れば平爐及ベッセマー製法に依る鋼鐵塊及鑄鐵の年生産能力は六千萬噸なるに對し、製鐵史上の最高記録を推測せられて居る一九二八年中の生産見積は約五千萬噸に

過ぎない状態である。

最近に至り米國製鐵業者側に於ては現状の儘で進行するに頗る困難なることを看破し、極力生産費の低減を計る目的を以て頻りに工場及諸設備の現代化を計畫實行しつゝ、あり、之が爲各方面に於て巨額の投資を敢行して居るが、已に古くより比較的徹底的に設備を整へて居る方面では、斯の如き新規支出を著しく苦痛し其投資に對する収益は極めて乏しい様である。然し時勢に併行し且事業の永續を保證せむに欲せば、先づ其利益の一部を裂いて其消費者及就働者の利益に充當せしめるに云ふ事は必要缺くべからざる事、是等の利益が該事業の改善並原價の低下を計る爲に再投下せらるゝときは其改善に於て齎らす利益は必ずや製造賣値の低下並就働者に對する勞銀の値上等を通じて一般公衆を利することとなり、從て投資家に對しては其投資金の安定を確保し相相互に其利益に均霑するのである。

一九二八年中ミネソタ州の或大鑛山に於ては六百萬噸の鐵鑛を採掘したが、此鐵鑛全部は現場から掬揚、之を直接積出地迄輸送する特設の貨車に積込む爲巨大なる電氣及蒸氣シヨベルを使用したので、採掘より輸送迄僅に四百人の勞働者を要したるに過ぎず、其間一鐵塊にして人手に觸れて居るものはない云ふ事である。

此諸設備の發達は又自ら産業界に於ける人力の進展を語るものであつて、是等就働者の技倆及能力は共に數等増進して來たのである。産業發達の初期に於ては人力の保存及就働者の生活状態に付ては餘り深く

考究せられなかつた爲、是等改善を企畫した卒先者は當初非常なる事業上の危険を冒し莫大なる損失を招いたのであるが、其堅忍不拔の精神は遂に其成功を齎らし、試験時代の損失は漸次巨額の利益を醸生するに至るのである。而して現在は工場、設備の改善、就働者及其家族の保健並慰安を計るに云ふことは工場の經營上缺ぐべからざる要素となつて居る。仍て各種工場の衛生設備は完全し就働者の爲に運動場を初め各種の娛樂機關等が特設せられ又就働者の株主たることを許し、老朽並癱疾就働者扶助制度も設けられて居る現状である。勞働者扶助の一例を擧ぐれば二十二萬人の勞働者を使役して居る某會社は、一九二七年初には千百七十五名の退職就働者に對して扶助料を給與して居たが、同年末に於ける要扶助人數は六千三百八十八名の多きに達したに云ふことである。前記千百七十五名の平均年齢は六十三歳で、其平均勤続年數は三十二年となり、一九二六年中同社内に於て勤続年數五十年を超ゆるもの百五十七人を數へ、四十五年勤続者五百二十九名、四十年勤続者千六百七十七名、三十五年勤続者三千八百六十八名、三十年勤続者六千二百九十四名、二十五年勤続者一萬四百十七名に云ふ數字を示して居るが、之は工場側が勞働者の保護善導等に如何に莫大なる支出をなし、其最善を盡して居るかを窺知するに足るものである。

要するに現在吾人は鐵、鋼鐵時代に生きて居るものであるが、將來鐵に對する一般的需要に云ふものは逐年漸増し、吾人の關係は愈々密接の度を加ふることは云ふを俟たない。即ち製鐵關係事業の歴史に徴するも二十五年前迄世人の豫想を許さなかつた位に迄急激な發達を示し、鐵道設備の建設を始めし建築

方面に云はず、家具製作方面に云はず、各方面に於て鐵は他の材料の代用品として普く重用せられ、殊に自動車製造業は過去二十五箇年間に鐵の新用途を開き、現在では毎年約四百萬噸の鐵及鋼鐵を消費して居る状態である。又一方鐵骨建築物の發達は電氣工業の發展と共に鐵の需要を激増せしめ又街道の建設、油田の開發、製罐業の發達並家庭用品の鐵製化は自ら用途を更に擴張しつゝ、ある現状に鑑み、鐵及鋼鐵の前途たるや實に洋々たるものがあるに云はねばならぬ。

然るに一方鐵鑛探掘が増加するに伴て其探掘費及搬出費は自ら増額し、結果鐵及鋼鐵の生産費昇騰を招致するもの懸念せらるゝ點なきに非ざるも、精鍊及作業上新式にして經濟的方法の進歩に對する人間の發明力は前記生産費の昇騰を併行し、以て少くも此所暫くは鐵が世界的需要に對し經濟的材料として凡ての方面に潤澤に使用せられ得るものの豫想せられて居る。

一九二八年中米國內に於て產出せられた鋼鐵地金の生産高は四九、八五三、二二五噸を計上し、之を一九二七年中の四三、三九七、七四三噸に比すれば實に六、四五五、四八二噸の増加を示し、單に客年十二月中の生産高に於て見るも其高四、〇一五、四三四噸に達し、一九二七年十二月中の三、一七五、四八四噸に比すれば約八十四萬噸の増加となり、毎日の平均生産高十六萬六百十七噸に云ふことになつて居る。而して其生産能力に對する割合は一九二七年度の七割五分八三に對し、一九二八年度は八割五分〇三に云ふ割合を示して居る。今米國製鐵會社全部の一九二八年中に於ける月別生産高を一九二七年の夫と比較對

照すれば左の通り。(單位噸)

月別	一九二八年	一九二七年
一月	三、九九一、三三二	三、七八九、八七四
二月	四、〇四五、三〇四	三、八一二、〇四六
三月	四、五〇七、五二〇	四、五三五、二七二
四月	四、三〇二、五七三	四、一二七、三八五
五月	四、二〇三、一九〇	四、〇四七、二五一
六月	三、七四二、九六四	三、四九五、六〇九
七月	三、八一、五七三	三、二〇四、一三五
八月	四、一七八、四八一	三、四九八、五四九
九月	四、一四七、五八三	三、二六八、八八一
十月	四、六四七、八九一	三、三一六、二九二
十一月	四、二五九、三八〇	三、一二七、〇一五
十二月	四、〇一五、四三四	三、一七五、四八四
計	四九、八五三、二二五	四三、三九七、七四三

是等地金の産出は世界産出量の大半を占め、其殆ど全部が米國內地に於て消費せられて居る。即ち一九二八年中鐵及鋼鐵輸出高は二、八六二、九九七噸、又輸入高は七〇、〇八二、六九四噸を計上し輸出は一九二七年の夫に比して三割一分方又輸入は四割三分半方の増進を示し、又其原料たる鐵礦の大部分は米國內地産のものであるが、尙玆馬を始め智利、アルゼリヤ諸國に毎年多少の鐵礦輸入を仰ひて居る状態である。

合衆國鑛石一噸當り二十五仙値上と 其の經過及鑛石の品位に就て

シユピリアル湖鑛石生産業者多量の鑛石販賣を見越す一市場強固一鑛價の値上は鐵鋼市場好轉を反映す、本年の運鑛量は昨年を超過の見込み一附、過去二十九年間の鑛價並に鐵價變動表

一九二九年度シユピリアル湖鑛石の價格は、噸當り二五仙の値上を見たり、今下湖諸港渡一英噸當りベ
ースグレードに對する新價格を示せば次の如し

メサビ非ベセマー	四、五〇
メサビベセマー	四、六五
オールドレンヂ非ベセマー	四、六五
オールドレンヂベセマー	四、八〇
高 度 燐 鑛	四、四〇

右の價格は、三月二十二日金曜日に定められたるが同日一會社は、約五十萬屯の鑛石を賣渡せり、發
し次いで土曜日他の一會社は新價格を以て三十萬屯を賣却せり、報したり、他の諸會社も新價格を採用せ
るがこは、主要鑛石生産業者の組合會社間との長期契約に適用する價格の基礎なりとす

本週火曜日まで、新價格を以て百萬屯以上の鑛石の賣買行はれたるがこは自由市場の取引を表はすものなり。下湖諸港並に鑛鑪に於ける手持ストック一年前に比し三百五十萬屯の減少を示せるを以て目下の需要状態は、以前より頗る活況を呈しつゝあり

シユベリアル湖鑛石に對するフオード・モーター會社の數年間に亘る連續引合は、價格設定の導火線となれり

今次の値上は一九二四年以來初めて各種鑛石に對する價格の變動にして、斯業の歴史中最長期に亘る據置價格を破れるものなり、抑も價格の据置を見たる過去四ヶ年間に於ても鑛石生産業者は、當然鑛價值上の權利ありし信じたり只税金其の他の費用は増進しつゝありしもストックミ生産能力余りに大に過ぎ希望の手段を取り得ざる次第なりき

今次の値上は、鑛石生産業者の地位の鞏固を反映するに同時に鐵鋼市場に於ける一般的好轉を物語るものにして、一年前に比し鐵鋼價格の増進も好況持續の豫想は相俟つて鑛石生産業者をして鑛價值上の資格ありし感ぜしめたるものなり

本紙の前號に述べたる如く、屯當り二五仙の値上を土臺として交渉開始せられたり。斯の如き穩健なる要求を以てせばいくらかの値上は成し得る一縷の望みなしとせざる觀察者もありたるが結果は一層良好にして鐵鋼會社よりの抗議は殆んど之れを見ざりき。

鑛石買附開始日に於ける銑鐵の現價格は、昨年の同期に於ける價格よりも七五仙乃至一弗方の高相場を見る、然れども之れを其の以前の三年間の買附日に於ける價格に比すれば尙低廉なり。銑鐵價格は下向傾向を辿り來れるものにして、一九二三年より引續き六年間鑛石買附日當時に於ては低落を示し此れに面しては鑛石生産業者は其の商品の値上を望むことを得ざりき今鑛價の値上を見たるにも拘はず尙之を一九一五年以來の價格に比すれば何れの年に於ても可なりの開きを見る

此れに對し山元より上湖諸港に至る鑛石の鐵道運賃は一九一五年より約六〇パーセントの増進を示し湖水航行船の運賃も同様程度の増進を來せり、下湖諸港よりピツバーク及ホーリング地方に至る現在の鐵道運賃率は一九一五年の率を越ゆること四〇パーセントを示せり、一九二九年に對する湖水運賃率は未だ決定を見ざるも現在率は五年間繼續實施せられ居れり、又上湖及下湖の鑛石鐵道運賃率は既に六年間繼續實施を見る

本年の鑛石市場は一九二七年及一九二八年よりも早目に開始せられたり、鑛石販賣業者は、本年は昨年よりも多量の動きを見越せるが中には六千萬噸に達すべしと信ずる者もあり、鑛鑪及下湖ドックに於ける三月一日現在の手持品は一九二八年に比し三、五八八、四四九噸丈の減少を示せり、次表はシユベリアル湖鐵鑛組合の報告にして此の關係を示せり

一月の鑛石消費高

五、一九五、〇三四噸

一九二四	三月二十四日	五、六五	五、四〇	四、九〇	四、七五	二、三〇	二、二〇
一九二三	三月二十四日	六、四五	六、二〇	五、七〇	五、五五	三、一〇	三、一〇
一九二二	六月九日	五、九五	五、七〇	五、二〇	五、〇五	二、五〇	二、四〇
一九二一	六月十六日	六、四五	六、二〇	五、七〇	五、五五	二、三〇	二、二五
一九二〇	二月二日	七、四五	七、二〇	六、七〇	六、五五	四、一〇	四、〇〇
一九一九	四月二十八日	六、四五	六、二〇	五、七〇	五、五五	二、七五	二、六五
一九一八	十月一日	六、六五	六、四〇	五、九〇	五、七五	三、五〇	三、四〇
一九一七	七月一日	六、四〇	六、一五	五、六五	五、五〇	三、五〇	三、三〇
一九一六	四月一日	五、九五	五、七〇	五、二〇	五、〇五	三、五〇	三、三〇
一九一五	十一月二十二日	五、九五	五、七〇	五、二〇	五、〇五	三、〇〇	二、六〇
一九一四	十二月七日	四、四五	四、二〇	三、七〇	三、五五	一、八五	一、八〇
一九一三	四月十九日	三、七五	三、四五	三、〇〇	二、八〇	一、三六	一、二七五
一九一二	五月一日	三、七五	三、五〇	三、〇〇	二、八五	一、四〇	一、三二五
一九一一	十一月十九日	四、四〇	四、一五	三、六〇	三、四〇	一、七二五	一、七五〇
一九一〇	三月二十日	三、七五	三、五〇	三、〇〇	二、八五	一、四二五	一、三二五
一九〇九	四月二十一日	四、五〇	四、二五	三、七〇	三、五〇	一、五〇〇	一、三、七五

二月の同	四、八一八、八一
差引減少	三七六、二二三
一九二八年二月の鑛石消費高	四、三九四、九三一
一九二九年三月一日現在鑛鑪手持高	二〇、四七四、九三四
一九二九年三月一日現在イリー湖ドック手持高	四、九三九、四一七
一九二九年三月一日現在右兩者の手持高合計	二五、四一四、三五一
一九二八年三月一日現在	二九、〇〇二、八〇〇

自一九〇一年鑛石買附日に於ける屯當り鑛價並銑鐵價格の變動

年次	買附日	オールド レンゲベ セマー鑛	メサビ ベセマー 鑛	オールド ンゲ非 マセ 鑛	メサビ ベセマー 鑛	ガ ベセマー 鑛	第二 鑛物 銑
一九二九年	三月二十二日	四、八〇	四、六五	四、六五	四、五〇	一、八五〇	一、八〇〇
一九二八年	四月十六日	四、五五	四、四〇	四、四〇	四、二五	一、七五〇	一、七〇〇
一九二七年	四月八日	四、五五	四、四〇	四、四〇	四、二五	一九、五〇	一八、五〇
一九二六年	三月十七日	四、五五	四、四〇	四、四〇	四、二五	二一、〇〇	二〇、五〇
一九二五年	四月四日	四、五五	四、四〇	四、四〇	四、二五	二二、〇〇	二一、〇〇

一九一〇	十二月二十四日	五、〇〇	四、七五	四、二〇	四、〇〇	一九、〇〇	一七、二五
一九〇九	五月十日	四、五〇	四、二五	三、七〇	三、五〇	一四、七五	一四、二五
一九〇八	六月十五日	四、五〇	四、二五	三、七〇	三、五〇	一六、〇〇	一五、〇〇
一九〇七	十一月五日	五、〇〇	四、七五	四、二〇	四、〇〇	二一、五〇	二一、五〇
一九〇六	十二月五日	四、二五	四、〇〇	三、七〇	三、五〇	一七、二五	一七、二五
一九〇五	二月一日	三、七五	三、五〇	三、二〇	三、〇〇	一五、五〇	一六、〇〇
一九〇四	四月十五日	三、二五	三、〇〇	二、七五	二、五〇	一三、三五	一三、一五
一九〇三	三月二十日	四、五〇	四、〇〇	三、六〇	三、二〇	二一、五〇	二一、六五
一九〇二	二月一日	四、二五	三、二五	三、二五	二、七五	一五、九〇	一五、九〇
一九〇一	四月十五日	四、二五	三、二五	三、〇〇	二、七五	一六、一五	一四、四〇

備考 一九一八年の價格は政府の設定に依れり

"Iron Trade Review" March 28, 1929.

附記

昭和三年合衆國大湖地方鑛石の品位に就て

アイアンエーザ 一九二九年三月廿八日所載

クリーブランド市シユビリアル湖鑛石組合の年報に依れば昨一九二八年に於けるシユビリアル湖鑛石の平均含鐵分は一昨年の一・一九%に比し五・一五%を示し稍々減少したり、同年報には過去十年間に於ける鑛帶別並品位別の鑛石分析表を掲げ居れるが亦表中には磷、硅酸、滿俺及水分の含有量をも示せり就て見るに、過去十年間の數字は二、三の例外を除き、含鐵分は僅少なれども一定の減少傾向を示せり期間に於ける含鐵分の最高は一九二二年の五二・〇七%にして同年の運鑛高は頗る少なく主として優良鑛に限られたり、昨年の水分は一・三七%にして一昨年の一・三二%に比し増加せり、磷分は一昨年の一・一〇五%に對し〇・〇九九%を示し減少し硅酸は八・六〇%より八・四三%に減したり、滿俺は〇・八四%より〇・八五%に増加したり、表に示せば次の如し

鐵分	一九二八年	一九二七年
五・一五%		五・一九%
硅酸分	八・四三	八・六〇

磷	分	〇・〇九九	〇・一〇五
滿	分	〇・八五	〇・八四
水	分	一一・三七	一一・三一

次に運鑛量の六割二分以上を包含する低燐非ベセマー鑛の平均含鐵分は、一昨年の五一・〇三%に比し昨年は五〇・八%を示せり、メサビ地方鑛石の鐵分は五〇・四%より五〇・一二%に減し十年間中最低を示せり、ベセマー鑛石の鐵分は五四・五六%を示し一昨年の五四・六七%に比し之れ亦減少したり、昨年の高燐非ベセマー鑛の鐵分は一昨年の五〇・八六%に比し五一・一六%に増加したり、昨年に於ける滿俺鐵鑛の鐵分は四二・七六%にして一昨年の四二・八一%に比し減少を示せり、硅酸鑛の鐵分も三七・二九%より三五・八九%に減少したり次に鑛帶別に依つて見るに、メサビ鑛帶の鐵分は五一・二八%を示し一昨年の五一・四七%に比し減少せり、マルケット、メモミニー及キユナ鑛帶の鐵分は稍々増加を示せり即ちマルケット鑛帶の鐵分は四九・四〇より四九・八一パーセントに、メモミニー鑛帶の鐵分は五〇・五二より五〇・七九に、及キユナ鑛帶の鐵分は四三・〇五より四三・二四パーセントに、各々増加せり一方ゴデビツク鑛帶の鐵分は五二・三〇より五二・二八パーセントに、ヴァミリオン鑛帶の鐵分は五八・四七より五八・一六パーセントに減少したり

昭和三年英國鐵鋼業概觀

前鐵鋼製造業者聯合會長　ヒ・タルボット述

The Iron & Coal Trades Rev., Jan. 25, 1929.

目次

- 一、總論
- 二、銑鐵の生産減と其の輸出不振の事由
- 三、屑鐵使用の増加
- 四、鋼産額
- 五、世界の鐵鋼生産高に對する英國の比率及其の退歩の理由
- 六、英國と製鋼業の合理化
- 七、内國市場に於ける大陸の競争
- 八、會社の合同
- 九、政府の減稅計畫
- 一〇、結論

總論

英國一九二八年の銑鐵産額は、六、六一一、三〇〇屯、鋼産額は八、五二五、一〇〇屯に達したるが、

一九二七年の産額に比すれば、前者は九パーセント、後者は六パーセントの減産を見たり
 一九二六年に於ける石炭杜絶の反動として一九二七年の産額が高数字を示したるに鑑み一九二八年に於ても同じ結果を招くものも期待したるが事實は之に反したり、其の鋼産額を見るに、一九一三年の数字を越ゆること僅に一一パーセントにして決して満足するものにあらず、次表は一九二八年の生産高及輸出入高を示せるものにして鐵鋼製造業者聯合會並に商務局の發表に係はる数字を収録せるものなり

一九一三年及一九二五—一九二八年に至る英國鐵鋼産額、輸出入月別表 (單位千噸)

年次	操業 爐數	産額		輸 入	輸 出	商務局物價指數	
		銑 鐵	鋼塊及鑄物			鐵	鋼
一九三三年月平均	三三八	八五五・〇	六三八・六	一八五・九	四一四・一	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一九三五年	一五一	五二一・八	六一五・五	二二六・七	三一〇・九	一二五・九	一五九・七
一九三七年	一六八	六〇七・七	七五八・一	三六七・二	三五〇・〇	一一九・九	一四一・四
一九三八年	一四〇	五五〇・九	七一〇・四	二四一・三	三七一・八	一一二・三	一四〇・三
一九三九年一月	一四八	五六〇・五	六二六・二	二八三・九	三三二・二	一一二・九	一四一・一
二月	一四八	五五〇・八	七六四・四	二八六・九	三一七・〇	一一二・九	一四〇・三
三月	一五〇	五九二・六	七九三・三	二七二・五	四〇九・三	一一三・〇	一四〇・八

四月	一四九	五六三・一	六四四・一	二五二・七	三四四・三	一一二・七	一四二・九
五月	一四八	五九一・五	七五二・七	二三六・九	三五九・〇	一一二・三	一四三・六
六月	一四一	五六三・七	七〇九・〇	二一〇・四	三六五・九	一一二・三	一四二・六
七月	一三一	五三七・八	六六六・九	二一九・〇	三三三・一	一一二・〇	一四一・一
八月	一三〇	五一九・〇	六四八・三	二七二・四	三六九・八	一一一・七	一三九・三
九月	一三一	五〇三・九	七一八・六	一八四・五	二九五・一	一一二・〇	一三七・六
十月	一三六	五四三・六	七五六・〇	二六一・四	三七七・四	一一二・二	一三七・九
十一月	一三五	五四四・四	七六二・五	二三二・八	三九九・四	一一二・三	一三七・九
十二月	一三二	五四〇・四	六八三・一	一八三・六	三五八・七	一一二・三	一三八・三

右表を觀るに、操業爐數一四八基(總數三三〇基)を數へたる月は二、三あるも、一五〇基を越ゆる月は三月の月のみにして而も年末には一三二基に減せり。銑鐵の生産高は三月を最高とし九月を最低とす又鋼産額は三月を最高とし一月を最低とす

銑鐵の生産高減と其の輸出不販の事由

先づ第一に銑鐵の状態を論せんに、昨年(一九三三年)の産額は、一九一三年の産額に比し約三割六分の減少を示し居るが更に之を十九世紀の七十年代の産額に比して尙遜色あるを見る、此の減少を招ける原因多々あるも

其の最も著しきものは、銑鐵輸出貿易の不振に在り、一九一三年に於ては九十四萬五千屯の銑鐵を輸出せるに一九二八年の輸出額は三十九萬七千屯に過ぎず、此の理由は別に輸出入問題の題目に論しあるを以て此處には唯次の事實を述ぶるに止めん即ち

一、若し歐洲諸國に高率なる銑鐵の輸入關稅なかりせば、大陸諸國に英國の銑鐵取引は蓋し殷賑を極めたるべし、最近大陸に對する英國の輸出高は少額なるに拘らず尙且此れが爲大陸に於ける銑鐵の價格を低落せしむるに云ふ不平を佛、白、獨の同業者より聞くに於ておや

第二及第三の理由

鑄物及可鍛用銑鐵の需要減少は生産減の第二の理由を成せるに同時に製鋼に屑鐵の使用増加せるは第三の理由を成せり

屑鐵使用の増加

屑鐵の使用増加せる原因の一は大戦に在り、何となれば、鋼の需要増大せる時に際し、製鋼能力に相並んで銑鐵爐の能力を急速に増加することは不可能なりしが故従つて挿入屑の量を増大し以て大量鋼の生産に間に合せたり、是は、各種軍需品の製造に因つて生ずる高級屑を使用したるものなりき、故に屑鐵使用増加の原因の一は、屑鐵の使用を大ならしめ得る製鋼上の技術の改善に在るに同時に、一屑迅速に屑を切る機械の力にも因れるものにして此れが爲め以前に比し年々多量の屑を出しつゝ、あり又輸入鋼の増加も其の一

原因を成し其の再壓延に依りて以前より多量の屑を供給しつゝ、あり

今後引續いて現在の如く大量の屑を利用し得るや否は目下製鋼業者の均しく問題とする所なり然とも、屑の供給は、循環屑を除いては、鋼産額に同一步調を以て其の増進を望み得ざるが故に、鋼産額の増大は、より以上の増大率を以てする銑鐵産額の増進を要求するものを見るを得べし

鋼産額

一九二八年の鋼産額は、一九一三年の産額を越ゆること、一一パーセントに達し尙一九二〇年及二七年を除いては、戦後に於ける何れの年よりも大なりき、輸入も亦一九一三年の額より大なりしが輸出は之に反したり、鋼の國內消費高は一九一三年の消費額を突破せるが、自動車製造高の激増、建築用鋼の使用増加を思へば別に奇異の感を懐く程もなし、然も建築用鋼材の使用増加は橋梁其他に鐵筋コンクリートの使用増加しつゝ、ある爲め幾分相殺され居るを知らざるべからず

鋼消費高増進の大ならざるは、主として長年月に亘る諸工業の不景氣に起因するものにして特に造船業に於ける、一九二八年の進水噸數は、一九一三年の一、九三二、一〇〇屯に對し僅に一、四四三、四〇〇屯を算したるに過ぎざる不振状態に在りき

世界の鐵鋼生産高に對する英國の比率

第二表は、英國の鐵鋼生産状態を各國の産額に比較せるものにして此に依りて見れば一九二八年に於け

る英國鐵產額は、一九一三年に比し三割六分を減ぜるも世界の産額は一割一分を増せり而して他に製鉄高の減少を示せる國一も無し

第二表 世界鐵鋼産額 (千英噸單位)

鐵鋼	一九一三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年 一部見積
英	一〇、二六	七、三一	六、二六	二、四六	七、二九	六、六一
獨	一〇、七三	七、六八	一〇、〇一	九、五〇	一二、九〇	一一、五五
ザ ー ル	一、三五	一、三七	一、四三	一、六一	一、七四	一、八八
佛	八、九三	七、五七	八、三六	九、二八	九、一八	九、九〇
白	二、四五	二、八〇	二、五〇	三、三五	三、六九	三、八〇
ルク セン ブル グ	二、五一	二、一二	二、三三	二、五二	二、六九	二、七〇
西 歐 合 計	三六、二三	二八、八五	三〇、八九	二八、七二	三七、四九	三六、四四
其 他 歐 洲 諸 國	九、〇二	三、七六	四、八七	五、七二	七、一一	七、七八
合 衆 國	三〇、九七	三一、四一	三六、七〇	三九、三七	三六、五七	三七、八四
濠 洲、 加 奈 陀、 印 度	一、二八	一、九二	一、九三	二、一五	二、四七	二、五九

鐵鋼	一九一三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年 一部見積
英	七、六六	八、二〇	七、三九	三、六〇	九、一〇	八、五三
獨	一一、九九	九、六八	一二、〇〇	一一、一五	一六、〇六	一四、一〇
ザ ー ル	二、〇五	一、四五	一、五五	一、七一	一、八六	二、〇〇
佛	六、八六	六、七九	七、三三	八、三〇	八、一八	九、一〇
白	二、四三	二、八三	二、五一	三、三二	三、六六	三、八〇
ルク セン ブル グ	一、三一	一、八六	二、〇五	二、二一	二、四三	二、五二
西 歐 合 計	三二、三〇	三〇、八一	三二、八三	三一、二九	四一、二九	四〇、〇五
其 他 歐 洲 諸 國	一〇、一六	五、八二	七、五八	八、七〇	一〇、〇八	一一、四八
合 衆 國	三一、三〇	三七、九三	四五、三九	四八、二九	四四、九四	五一、〇〇
濠 洲、 加 奈 陀、 印 度	一、一一	一、三六	一、六一	一、六七	二、〇一	二、一七
其 他 の 國	〇、二八	一、三一	一、五二	一、六八	一、九〇	一、九八
世 界 總 計	七五、一五	七七、二三	八八、九三	九一、七五	一〇〇、二二	一〇六、六八

鋼の産額に於ては、英國は、一九一三年より一割一分を増せるも世界産額は、四割三分を増し西歐の産

額は三割一分の増加を示したり。英國は一九一三年に於ては世界鋼産額の一割を産出したるも一九二八年に於ては、其の八分を産出したるに過ぎず、斯くの如き英國の地位の退歩は主として、諸外國の生産増加と歩調を一にすることに得ざるが爲めなり。其の理由は從來屢々論ぜらるゝ所あるを以て茲に委しく論ずるの要を認めず唯其の主なる理由を擧ぐれば左の如し

大陸諸國の勞銀は我に比し頗る低廉なり而して大陸に於ける生活標準は、英貨に換算せる彼等の賃銀率に依り想像せらるゝ程低度のものと思はざるも、我れは、英貨の基準に於て競争せざるべからず佛蘭西及白耳義に於ける勞銀は英國勞銀の五割に過ぎず獨逸の勞銀は稍々高けれども尙我が七割五分に過ぎず獨逸は完全なる組織の合理化に依りて佛、白に於ける賃銀安のハンデイキャブに打ち勝たんを努め來れるも、此の合理化を以てしても、尙不充分なることを告白しつゝあり、又獨逸は、關稅に依りて、此の低廉なる佛、白の生産品を國內市場より驅逐し得るに雖輸出市場に於ては之れを戦はざるべからず而して屢々損失を招きつゝあり、茲に於てか、獨逸の製鋼業者は、賃銀費の四或は五パーセントの増進を提議せる過般の賃銀値上要求に應ずることなく却つて五週間の工場閉鎖を行ひたり

英國と製鋼業の合理化

英國の製鋼業を批評する人々は、英國の製鋼業者が米、獨に於ける合理化の方法に倣はんことを叫びつゝあり、然るも前に指摘せる如く、根本的の解決は此の方法に依りては成し得ざるものなり。合同、燃料

經濟、販賣組織等は競争者と同様自由なるも著しく相違せる賃銀上のハンデイキャブに打ち勝つことを難しむ。批評家諸君は一樣に、我國に於て固執せらるゝ、或る生活標準を要求する誠に不合理にして不公平なる態度は之を不問に附しながらも頗る事情の相違せる勞力に依りて作られたる生産品の無制限なる輸入は之れを許容せり、此の大陸の激甚なる競争の結果、內國市場に於ける價格は、一部分大陸價格に支配せられ而して輸出貿易は、此の激しき大陸の競争と正面衝突をなしつゝあり、故に價格は、低落を續け遂に現在に於ては、一九一三年の率を越ゆること僅かに一二%三を示すに至れるが一方、一般物價は三八%を示せり

內國市場に於ける大陸の競争

大陸の競争は、採算の取れざるまで價格を低落せしめて財政上に一大打撃を與へ居るのみならず、又多量の外品內國市場に侵入しつゝある爲め英國の製鋼業者は、全能力の僅に六割五分を以て作業を行ひつゝある結果を呈せり。斯の如き事情の下に於ては、生産費の高きことは自明の理なり、されば一九二七—二八年に諸工業の利得調査に於て石炭及鐵鋼業の利益が他工業に比し頗る不良を示せるは敢へて驚くに足らず。斯の如き状態の下に於ては多くの場合資本の再建を必要とせざるが又地方に於ては社債券其他の利子支拂延期の協定を見るに至れり

會社の合同

會社の合同に關しては、生産費の引下げに効果を及ぼすべきものと見らるゝ處に於ては、之れが手段を講じつゝあり既に、サウスダラム會社は、カーゴフリート會社の管理に對して株主の承認を得又、キャメル、レアード及ウィツカース會社の株は、部分的の合同を協定せられつゝあり、東北海岸上の二大會社ドルマン、及ロングエンドボルコウオーガン會社の合同も、兩社長の演舌に依り豫期せらるゝ所なり。合同問題に關し一九二七年十二月、サウスダラム會社の集會に於て會長ファネス氏の成せる演舌を繰り返せば左の如し

適當なる會社の合同は吾人の遭遇しつゝある難問題を解決する上に大いに力あるものこは信ずれども目下我國に輸入せられつゝある半成品及重鋼と競争して之れに打ち勝つ程の保護を受けざれば最大効率を發揮し得る工場を以てしても、到底合同の實行は不可能なりと思料せらる。特に大陸諸國に比し生活標準並賃銀の高き點、作業時間の短き點及重税は併せて之れが實現を不可能ならしむるものなり

政府の減税計畫

政府の減税提案は、鐵鋼業の難局を打開する上に貢獻あるものこして歓迎する所なるも、減税計畫に依りて與へらるゝ救済は、大陸の低廉なる勞銀に依つて生ずる價格の開きを補ふには効果極めて少なきものと見らるゝ、而して鐵鋼製造業者が炭山及鐵山を所有する場合と賣買契約に依りて炭礦業に對する讓歩が鐵

鋼所用の炭價に反映するところを保證し得る場合とを除いては、鐵鋼業者に對する直接利益は又極めて少なきものなり

鐵鋼業は、其の難局打開の援助を政府に望むと同時に自ら其の任に當らざるべからず。一九二七年の秋創設せられたる割引制度は其の後有利に展開しつゝあり而して我國に於ける造船業者の殆んど全部は之れに署名し居れり。燃料經濟並に技術上の改善に就ては絶えず研究行はれつゝあり。又外國の競争に應戦せんとする輸出販賣委員會の設置を見るに至れるが一方に於ては又鉄力板の安定策も講ぜられたり

結論

英國は、地理的位置、優秀なる人物及良原料の手近に在ること等に於て多くの利點を有するが故に若し國內市場に相當の保護與へらるゝとせば、世界製鋼諸國中に正當なる地位を恢復し得べく従つて失業問題の解決に貢獻する所尠からざるべしと信ず

昭和三年の英國鐵力板業態

英國鐵鋼製造業者聯合會前會長ホンド氏述

The Iron & Coal Trades Rev., Jan. 25, 1929.

サウスウエールスには目下四三八の鐵力板製造工場ありて年産額平均約九十萬屯に達す。内、國內市場にて消費せらるゝ額は概算二十萬屯乃至二十五萬屯なるを以て残額の六十五萬屯は、内國需要の増加せざる限り之れを輸出せざるべからず。次表は、一九一三年及一九二二年―一九二八年に至る英、米、獨の鐵力板輸出額を示す

鐵力板主要生産國の輸出

年次	英	米	獨	計
一九一三年	四九三、九二一	五八、九一八	七五八	五五三、五九七
一九二二	四四八、八三一	七六、六〇七	五、七二六	五三一、一六四
一九二三	五五一、一二四	一二四、四七七	五、〇五九	六八〇、六六〇
一九二四	五五五、四一五	一六〇、九九七	三、三九〇	七一九、八〇二
一九二五	五一一、〇四九	一六一、三八六	一〇、〇三二	六八二、四六七

一九二六	三七五、〇四一	二五〇、七三七	一九、五一三	六四五、二九一
一九二七	四七二、〇二九	二五四、一三一	二九、一一六	七五五、二七六
一九二八	五三二、〇〇〇	約二六〇、〇〇〇	約三三、〇〇〇	約八二五、〇〇〇

右表に依り一九二六年に於ける炭礦罷業が「ウェールス」の鉄力板工業に及ぼせる影響の如何に深刻なりしかを知るを得べし

一方合衆國の輸出は、一九二五年の一六〇、〇〇〇屯は一九二六年に至り、二五〇、〇〇〇屯に躍進し、獨逸は一〇、〇〇〇屯より二〇、〇〇〇屯に激増したり。故に一九二六年に於ては石炭供給の杜絶に依り英國は米、獨に對し十萬屯の輸出を移譲したる譯合となれり。米、獨兩國に於ては、鉄力板に對し高率の輸入税を課し居れり。而して産額の大部分は國內市場にて消費せらるものにして且其の價格は英國の國內價格に比し高價なり

英、米鉄力板協定

一九二六年末炭礦の復業當時ウェールス鉄力板製造業者の手には註文蓄積し一九二七年上半年までは工場は其の製造に繁忙を極むる状態に在りしも一方一九二六年中に於ける米國の輸出激増は一九二七年末頃に於けるウェールス製造業者間に於ける激甚なる競争は彼等を驅つて價格を生産費以下に引下げせしむるの止むなき傾向を呈したり、故にウェールス鉄力板製造業者の九割五分は斯の如き状態を持續するの愚

を悟り、相謀りて需要の權衡を保つ爲め限産を行ひたるが此れが爲め價格は若干満足なる状態に復歸するを得たり

當時海外市場に於ては、英、米間の競争激しく全く不必要なる價格の切り下げを行ひつゝ、ありしが一九二八年の初頭米國の主要鉄力板製造業者との間に此の競争を緩和せんとするの議起れり、遂に此の商議は英、米の斯業者間に協約を締結せしむるに至りたり此の協約に於ては價格の協定は行はざりしも双方の合計輸出額を次の割合に於て兩者間に割當てること、せり

英 國	七 〇 %
米 國	三 〇 %

サウスウェールスの鉄力板製造工場は九割五分は本協約に加入せりサウスウェールスに於ける四三八の鉄力板製造工場の内二十三工場を除き大部分は本協約に加入せり。全部の工場を之れに加入せしむることは望まじきことにして加入せざる二十三の工場は本協約の御蔭にて價格の鞏固なる利益に均霑すれども、限産に依る犠牲の重荷を免れ居れり。然しも早晚全部の加入を見るに至るべしと思惟せらる。斯の如く國內に協定を缺ぎ又サウスウェールス米國外の諸外國との競争上に制限無きを以て輸出價格の奔落は蓋し避け難かるべく斯業將來の繁榮は望むべくもあらざるなり。ウェールスの鉄力板業も亦他の諸工業と同様合同組織の完備せる諸外國の競争者との輸出入貿易場裏に於て戦はざるべからず、而も相手は、其の國內市場

を保護せられ居るが爲め其の生産品の大半は我に比し頗る高相場を維持し居れり。

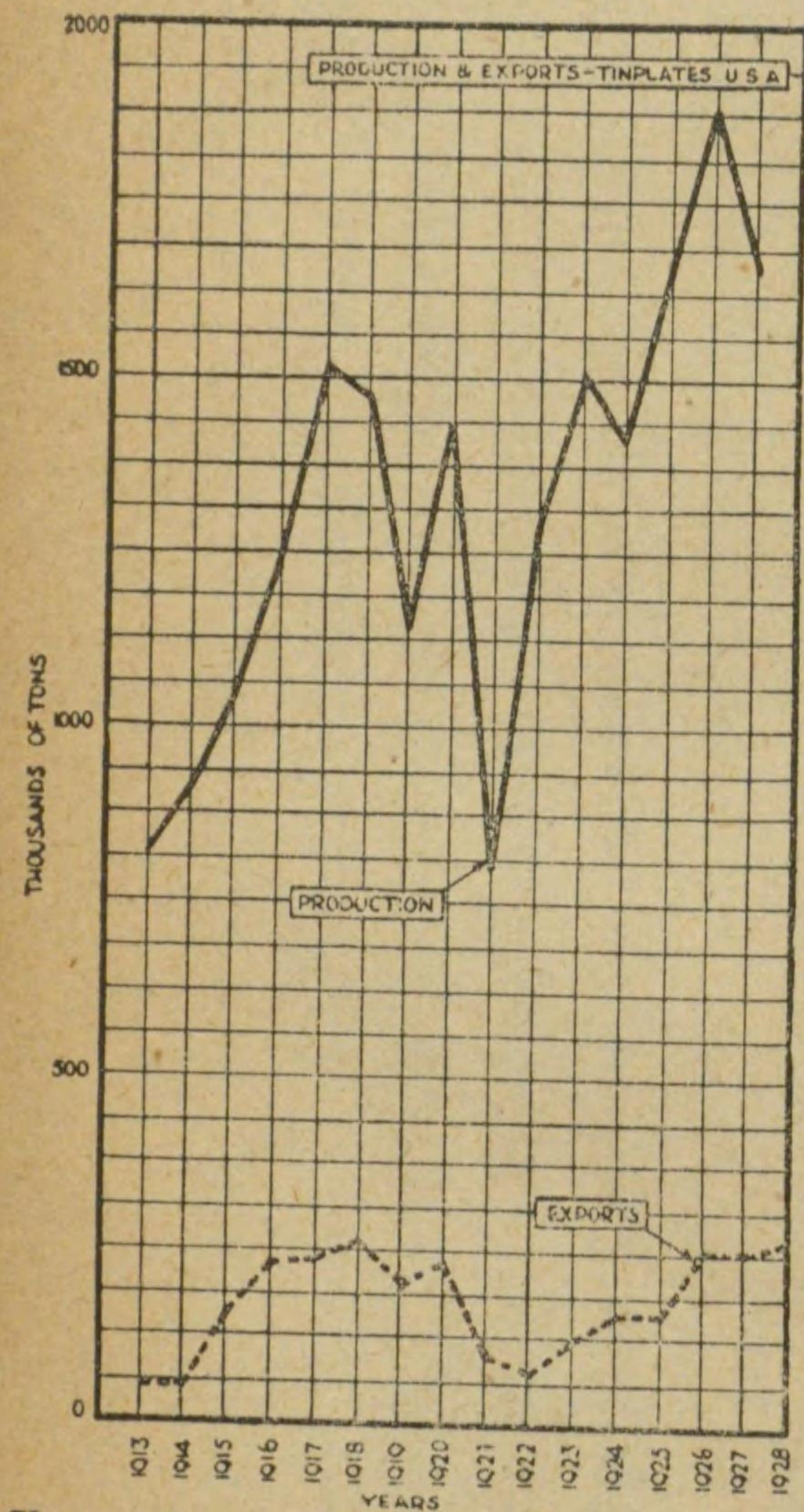
高級品の需要

錫力板消費者の大半は絶えず高級品を要求しつゝあり。此の要求に應ずる爲めには、斯業は其の製造方法の改善に常に多額の費用を投じ得る状態に在らざるべからず、而してこは唯斯業の繁榮を俟つて成し得るのみなり。近年製罐用並型捺用の機械に長足の進歩を示せるが此の新式機械は一方に於て錫力板の消費高を増加しつゝ、あるも亦他方に於ては品質の不変を扁平の一樣を一層嚴格に要求しつゝあり。而して斯業の製造業者が斯の如き要求に應じ將來其の生産品の消費高増加を期する爲めには其の技倆を大いに練磨せざるべからず

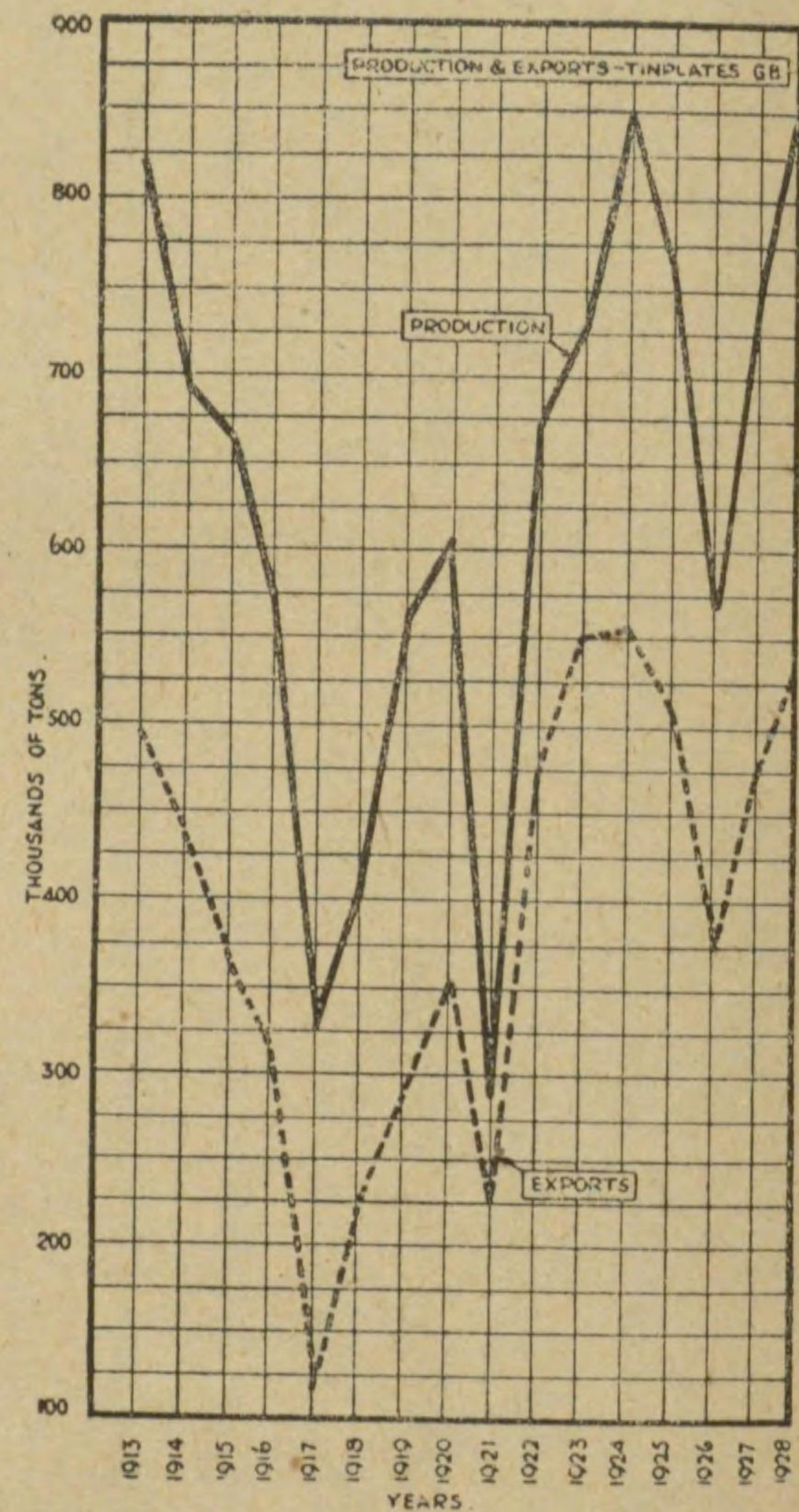
輸出市場はウェールズ錫力板工業に取つて常に主要なる糊口の資たるべきは勿論なるが國內の消費に於ても將來著しき増進を望み得るこ明かなり『The National Food Canning Council』の活動は國內に於ける罐詰業將來の發達を暗示するものなり

若し斯業にして相提携し一層協同の精神を發揮し特に賢明なる販賣政策を取るこせば將來の繁榮は期して望むこを得べし

左圖は英、米錫力板生産高及輸出高の比較を示す



UNITED STATES PRODUCTION AND EXPORTS OF TINPLATES. (EXPORTS BASED ON 11 MONTHS)



BRITISH PRODUCTION AND EXPORTS OF TINPLATES.

昭和三年白耳義の鐵鋼業

The Iron & Coal Trades Rev., Jan. 25, 1929, J. G. Fontaine 氏述

一九二八年に於ける白耳義の鐵鋼業を觀察するに際しては、自ら斯業十年前の状態に遡らざるを得ず、休戦直後に於ける斯業は實に惘然たる状態に在りき、或る製造工場は全然破壊せられ製鋼所は總べて其のストックを掠奪せられたるは勿論其の設備さへ剝奪せられて打ちこはされるか或は獨逸に運び去られたり又鎔鑛爐の約半數は引倒されて一基も操業せるものなかりき、然ども獨逸の徴發に遇ひたる平爐は、受難の程度比較的になきをを得たり、壓延工場的大部分も獨逸軍の劫掠に委ねたるが、其の重要壓延機は屑に還元せられ、又附屬製造工場も同じ運命に遭遇したり

休戦後六ヶ月にして、鎔鑛爐三基、轉爐一基、平爐八基、壓延機十一臺、攪拌爐十一基、鋼鑄物用の小轉爐九基の操業再開を見たるは、實に奮闘的努力の賜物なりとす

復興作業は順調に進み一九二二年の一月一日迄には鎔鑛爐二七基の操業を見、一日の製銑高四、二六〇噸に達したり、次いで一九二二年の危機に遭遇し斯業は大打撃を蒙りたるが、一九二三年一月一日現在に於ては、鎔鑛爐五六基の内操業せるもの三四基、休止せるもの七基、改造中のもの一五基を數へたり、當時の鐵鋼平均日産額は六、二〇三噸を算し以後の状態は第一表に示せり

工場の再建に際しては新式設備を採用せり、而して爐の能力は頗る増大し現在に於ける産額は戦前期の

産額を凌駕するに至れり

此の關係は第二表に示せるが同表には、一九一三年を一〇〇として、一九二八年の各月銑鐵産額の指數を表せり、此れに依つて一九二八年中に於ける斯業の發達状態を知ることを得べし。此れに反し鍊鐵の生産産は、一九一三年に比し頗る減じたるか其の理由は普く人の知る所なり第三表は、一九二八年に於ける銑、鋼、鋼製品及鐵製品の産額を示す此れに依つて見るに、昨年中の産額は各月を通じ規則的の數字を示せるがこは、一九二六年十月組織せられたる大陸鋼トラストの有益なる結果に歸するものとす

國內及輸出價格

倍て一九二八年に於ける販賣價格に就ては、第四表に、月別ベシック及第三號鑄物銑の國內並に輸出價格を第五表に鋼片、デヨイスト棒板の内外向價格を示せり、表は双方共昨年(一九二七年)に於ける市況の推移を示すものにして、一時弱氣を呈せることあるも全体を通じて活況を續け特に下半期に於て然りませり、最後の第六表は、斯業の外國貿易を示せるものにして一九二八年十一月間(一九二八年十一月間)に於ける「白耳義ルクセンブルク」關稅同盟の鐵鋼輸出入の統計を掲げたり

第一表 銑鑄爐の事情

一九二四年一月一日	現存爐數	操業爐數	休止爐數	産額(二十四時)
	五六基	四二基	一四基	二、四六三噸

一九二五年	五六	五〇	六	八、九一五
一九二六年	五五	三二	二三	五、五八八
一九二七年	五五	四九	六	一一、一〇八
一九二八年	五七	五五	二	一〇、六八六
一九二八年十二月一日	五八	五六	二	一〇、六七〇

第二表 銑鐵、鋼及鍊鐵産額指數(一九一三年を一〇〇とす)

一九二八年	銑鐵	鋼塊	鋼製品	鍊鐵
一月	一五一・九	一五二・七	一七九・四	四六・五
二月	一四五・九	一五〇・二	一六一・六	五八・〇
三月	一五七・九	一五八・二	一七八・八	六五・四
四月	一五一・三	一四七・六	一六七・二	五〇・九
五月	一五八・一	一五七・八	一七八・二	五七・五
六月	一五五・一	一五九・五	一八八・三	五七・〇
七月	一五六・六	一五五・〇	一七二・六	五二・五
八月	一五八・七	一六五・八	一八九・二	五六・四

月	九	八	七	六	五	四	三	二	一	一九二八年
鐵鋼生產額	一五七・〇	一六六・二	一六四・九	一五七・〇	一六六・二	一六三・七	一六三・七	一六三・七	一六三・七	一六三・七
銑鐵	三二五、一〇〇	三二八、六〇〇	三二四、三〇〇	三二一、〇〇〇	三二八、八〇〇	三二三、二〇〇	三二六、七〇〇	三〇二、〇〇〇	三一四、六〇〇	三一四、六〇〇
鋼塊	三二一、七〇〇	三三二、三〇〇	三一〇、七〇〇	三二〇、二〇〇	三一六、二〇〇	二九五、七〇〇	三一六、七〇〇	三〇〇、九〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇
鋼製品	二八二、九〇〇	二九三、二〇〇	二六七、四〇〇	二九一、七〇〇	二七六、三〇〇	二五九、一〇〇	二七七、一〇〇	二六〇、三〇〇	二七七、九〇〇	二七七、九〇〇
鐵製品	一三、三〇〇	一四、三〇〇	一三、三〇〇	一四、四〇〇	一四、六〇〇	一二、九〇〇	一六、一〇〇	一四、七〇〇	一四、三〇〇	一四、三〇〇

月	十	十一	十二
銑鐵	三四四、二〇〇	三三一、五〇〇	三二五、〇〇〇
鋼塊	三四六、七〇〇	三三〇、三〇〇	三二三、二〇〇
鋼製品	三〇九、六〇〇	三〇九、四〇〇	三〇五、〇〇〇
鐵製品	一五、七〇〇	一六、一〇〇	一五、八〇〇

註、十二月の數字は見積

第四表 鹽基性銑鐵及第三號鑄物銑の國內及輸出價格 (屯當り)

年	一九二八年
工場貨車渡	五三五―五五五
アントワーブ 本船積込渡	五八―六〇志
第三號鑄物銑	六〇―六一
Athus, Musson or Hlanzy 貨車渡	五九〇
アントワーブ 本船積込渡	六〇志
一月一日	五三五―五五五
二月	五四〇―五四五
三月	五三五―五四〇
四月	五三〇―五四〇
五月	五三〇―五四〇
六月	五三〇―五四〇
七月	五三〇―五四〇

第五表 鋼半製品及製品の國內價格 (法) 並にアントワープ積込渡價格 (志)

月	國內價格 (法)	積込渡價格 (志)
八月	五三〇一五四〇	五九〇
九月	五三〇一五四〇	五九五
十月	五八〇一六〇〇	五九五
十一月	五九〇一五九五	六〇〇
十二月	五九〇一五九五	六〇〇

一九二八年 國內價格 (法) 並にアントワープ積込渡價格 (志)

月	鋼棒 (法)	厚板 (法)	鋼棒 (志)	厚板 (志)
一月	八〇〇	八五〇	八四	九六
二月	八〇〇	八五〇	八二	九六
三月	八七五	九七五	八四	一〇七
四月	八七五	九七五	八八	一〇四・五
五月	八七〇	九三〇	九〇	一〇五・五

第六表 白耳義及ルクセンブルクの一九二八年中鐵鋼輸出入 (噸) 自一月至十一月

品別	英國より	全部より	英國へ	全部へ
滿庵鑛石	—	四九一、八六八	一七、一三三	九三、〇五三
鐵鑛石	—	六、三六〇	五、六二九	四八、三九六
鐵	六一、二三二	二〇三、〇三九	三二一、四四五	五七一、一九五
鑄物	一一一〇	五、〇一九	二、八五六	六、九三〇

月	英國より	全部より	英國へ	全部へ
六月	八八〇	九三〇	九四	九九
七月	八八〇	九〇〇	九二・五	九七
八月	八八五	九〇〇	九三	一〇〇
九月	八八七	九一五	九五	一〇〇
十月	八八七	九一五	九〇	一〇二・五
十一月	八八七	九四〇	九〇	一〇五
十二月	八八七	九四〇	一〇〇	一〇四

ブルーム其他	1	2,918	47,926	127,884
特殊棒	802	10,167	80,257	562,510
フー	1	3,487	17,567	146,218
形	829	10,086	99,357	527,094
レール	1	18,001	509	55,022
厚板、薄板	639	10,086	99,357	527,094
鋳力板類	16,350	18,001	509	55,022
線	1,301	9,043	44,830	292,580
建築材料	319	1,278	1	31,598
管	1,646	12,338	2,823	37,843
釘	129	6,288	31,262	123,629
ボルト	882	22,110	248,277	1,265,387
其他	1	100,568	2,227	220,611
合計	84,249	901,568	922,098	4,099,950

ポーランド製鐵業狀況

(過去十年間)

(昭和三年十二月十四日附在波帝國特命全權公使松島肇報告)

一九一八年占領軍が波蘭の現在の領域より撤退したる時に於ては、當國の製鐵業は全く存在せざりし云ふも不可なき状態なりき。即ち未だ上シレジアの併合なく、僅に舊露領に於て數箇の工場及クラコフに一製鐵所ありたるも、戰時中占領軍は是等工場に對して他種工場に對してなしたるに同じく、凡ゆる機械より真鍮又は銅の部分を徵發し去りたるに依りて、前記の工場は全部作業不可能の状態にありたる次第なり

斯の如き状態より今日に至る迄の當國製鐵業復興の過程を通覽するには、之を左の四期に分て觀察するを最便宜みなすもの、如し。即ち

(一) 大戰直後より上シレジア併合前迄、 (二) 上シレジアの併合、 (三) 一九二四年の恐慌、 (四) 全波蘭製鐵サンジカの設立より今日迄。

上シレジア併合前迄 占領軍撤退當時の舊露領及塊領波蘭製鐵業の状態は前述の如く鑄鐵爐、製鋼爐及伸展工場にして作業再開可能のものもなかりしを以て、波蘭の復興を見たる後に於ても數箇月間は是等工場を復舊し、事業を開始するは全く不可能にして、殊に當時は金融全く杜絶し、従業員を構成すべき

労働者なく、鐵道は製鐵業に必要な原料及燃料の圓滑なる供給をなすが如きは思も依らざるの状態にありしのみならず是等原料又は燃料の生産自身が甚しく僅少なりしを以て、之を購入する事既に最困難にして、必要な機械類及原料の輸入の如きは勿論不可能なりし次第なり

然れども一九一九年七月に至り (Zastochowa) (チエンストホーワ) 工場先づ作業を開始し、一九二〇年に至りて他の四工場も事業を再開せり。同年勞農軍の侵入ありてワルソウ市危殆に瀕したる時の如き國防用として鐵の需要大なりしにも拘らず、骸炭の缺乏の爲僅に一箇の鑄鐵爐のみ作業をなし居りたる有様なりしを以て、舊露境領製鐵業の再興は全く勞農軍侵入戰の終了後より著手せられたり云ふ事を得べし

其後萬難を排して經營の結果、一九二二年七月波蘭が上部シレジアを併合したる當時に於ては、鑄鐵爐七基が作業をなし居るの程度に復活したり。其成績左の如し

(尤も左表中最後の數字たる一九一三年の生産と比較するときは比較するときは、尙其恢復の如何に微々たりしかを知るに足るべし)

年 度	鉄	鋼	板及棒 (單位千噸)
一九一九	一五・二	一七・六	一六・四
一九二〇	四二・六	六八・九	四九・〇

一九二一	六〇・四	一二二・七	九八・三
一九二二	七九・四	一七九・四	一四九・九
一九二三	四一八・四	五五三・一	三六九・一

上シレジアの併合 一九二二年七月十五日波蘭が上シレジアを合併したる事は、實に波蘭の製鐵業の面目を一新せしめたる一大事件と云はざるべからず

波蘭は同地方の併合に依りて現に就業中の數多の工場を取得する事となり、著しく其生産能力を増加せしめ、大に斯業の内容を充實せしむることとなり。上シレジアの鐵工場は戰時中は勿論、戰爭直後と雖作業を繼續し來りたるものなり、固より其生産は戰後激減し一九一三年に比し甚だ小額となりたるが、戰禍を受けず事業を繼續したる點は全く在來の波蘭製鐵業と其事情を異にす。其生産状態左の如し。

年 度	鉄	鋼	(單位千噸) 板及棒
一九一三	六一三・三	一、〇四九・五	八二九・五
一九一九	三一七・三	六五三・三	不明
一九二〇	三八三・九	八三六・四	同
一九二一	三八三・一	七二六・四	五一九・六
一九二二	四〇〇・八	八二二・三	六〇三・六

51

當時上シレジアの生産に上述の如く更生の途に上りたる波蘭在來の各工場の生産を合計するときは、大戦及對露戰に依りて疲弊の極に達し居りたる波蘭市場の能く吸収する能はざる額に達すべきを以て、若し彼のジュネーヴ協定なかりせば忽ち生産過剰に陥り、大恐慌を招來するの結果を見たりしなるべし。幸に右ジュネーヴ協定に依りて上シレジア製鐵業者は一九二五年六月十五日迄生産品の一部は無制限に一部は一定のコンチンセントの下に無税にて獨逸に輸出する事を得ることとなり波蘭在來の製鐵業も直に急激なる變化を受けず、又シレジア側も三年の過渡期を得て新しき政治的經濟的環境に對する準備をなすべき期間を與へられたり。

然れども右の期間に於ける佛軍のルール占領に依り國際市場に於ける鐵類の供給に變動を生じ、シレジアの製鐵業者に執りても輸出の好機を與へたるを以て彼等は寧ろ輸出に専念し、其生産額は左表の如く増加を見たるが、却て波蘭市場に對する準備を怠りたる爲、一九二四年の恐慌時に於ける製鐵業者の苦境を一層深刻のものたらしむることなれり。

年 度	銑	鋼	板 及 棒
一九二二	四〇〇・八	八二二・三	六〇三・六
一九二三	四〇八・六	八七二・七	五九五・六

此間に在りて舊來の波蘭製鐵業者も益々其設備の復舊を進め、生産能力も略々戦前の域に達し來り、前

記の如く新付のシレジア側が獨逸及其他の外國市場のみを重要視しつゝあるに乘じて、一九二三年には國內市場に前勢力を固むるに至り、従つて其生産も次表の如く著しき増加を示すに至れり

年 度	銑	鋼	板 及 棒
一九二二	七九・四	一七九・四	一四九・九
一九二三	一一一・八	二五九・三	一八二・四

一九二四年の恐慌 一九二四年に於て波蘭及獨逸の幣制改革は殆ど同時に行はれたるが、其結果として兩國共一大恐慌を惹起し、前年來の順調なる製鐵界の進運は茲に頓挫し、生産額は戦後に於ける最低額を示すに至れり

年 度	銑	鋼	板 及 棒
一九二三	四〇八・六	二六三・一	七二・八
一九二四	一一一・八	七二・八	七二・八
シレジア	八七二・七	五二四・七	五二四・七
其他	二五九・三	一五三・六	一五三・六

▲板及棒

シ レ ジ ア
其 他

五九五・六

三七〇・二

一八二・四

一〇一・六

一方ルールの撤兵は一九二四年に行はれ、同地方に對する人爲的壓迫止たるに同時に、他方獨逸に於ける一般的經濟界の状態は當時最深刻なる恐慌状態に在りて、旁々獨逸に對する鐵類の輸出の如きは固より思はしからず、又波蘭に於ける爲替相場の不自然なる安定は勞銀の急激なる昂騰、能率の低下を齎し、獨逸以外の市場に於ても外國品と競争するの能力を喪失したるを以て、上シレジア側も漸く内國市場に其注意を轉換し全力を擧げて之が地盤の侵略を試み、其結果として一九二四年一月より三月迄の上シレジアの生産と其生産品の波蘭内市場（ダンチツヒ自由市を除く）の消費との比率は僅に一七・七%のみなりしに、一九二五年の同期に於ては四七%迄増加するに至れり

然るに前記恐慌は國內市場に於ても亦鐵類の消化が著減せる折なりしを以て、斯の如くシレジア側の進歩の結果は勢ひ新舊同業者間に激烈なる競争を惹起するに至れり

其結果は價格の暴落、信用の破壊となり一部猶太人投機業者の乗ずる所となりて、市場は全く混亂に陥り各製鐵業者共に絶大なる損害を受けたり

全波蘭製鐵サンデカの成立 前記の如き大損害を受けたる結果は當國製鐵業の全部を包含して一のサ

ンデカを成立せしめ、之に依りて此悲境より脱出せんとするの機運を醸成することとなりたるが、新舊兩團の利害關係相反する事前述の如くなるを以て、其間容易に妥協點を見出を得ず、因て先づ一九二五年八月一日上シレジア製鐵業サンデカを組織せり

其後五ヶ月即ち一九二六年一月一日を以て、遂に全波蘭を打て一丸したる全波蘭製鐵サンデカの成立を見るに至れり。其結果は短期間に全く無秩序の状態に在りし内國市場を整理して、之が組織に新なる基礎を與へ、爲に波蘭内國鐵鋼市場は却て堅實味を加ふるに至れり。

新サンデカの採りたる新賣價の決定は時宜に投じたるが爲に、内國市場の購買力の全能力を刺戟することとなり、又堅實なる賣掛回收方法も、卸業者全部の連帶責任制度の樹立もは相俟て、サンデカは其組合員に何等の損害をも蒙らしめざるが如き組織を確立することとなり

サンデカは生産賣買の全部に涉りて管理權を有し、其成績良好なりしを以て、各工場消費も亦一定の比率を設けて管理を爲すこととなり、輸出に對しても管理權を及ぼさしめんとして目下協議進行中なるを以て、近く何等かの成果を見るべしと信ぜられつゝあり

斯の如く本サンデカは近々當國製鐵業の完全なる管理權を總括するに至るべし。

上述の如くサンデカ成立後の成績頗る良好なりし爲、本年五月二十三日を以て更に三年間サンデカを更新し、一九三一年五月二十三日迄存続せしむることとなり

サンヂカの成立に加ふるに英國炭坑罷業の結果、國際市場に新變動を生じたるに、波蘭國內一般の經濟狀況の恢復又著しきものありたる爲、獨波間經濟戰開始直後の危期ありたるに拘らず、漸次好轉を示し來り一九二七年に至り順調なる發展の機運に逢著し、近き將來に於て其生産額は戰前の水準に達すべしと信ぜられ居れり

年 度	銑		鋼		板及棒	
	シレッア	其他	シレッヤ	其他	シレッヤ	其他
一九二五	二二八・二	八六・四	五四一・九	二四〇・四	四三一・六	一五四・三
一九二六	二六七・九	五九・五	五〇五・一	二八三・三	三八一・一	一八三・〇
一九二七	四四一・〇	一七七・二	七七九・四	四四九・七	六二二・四	三〇六・三
一九二八 (月ヨリ三月迄)	二二三・七	一一一・三	四二六・八	二二八・一	三二二・九	一六九・〇

一九二八年四月乃至六月の成績も斯業全般に涉りて更に一層急激なる發展を示したるが、其原因は當國經濟界の著しき改善に基く鐵類消費の増加、及一九二四年に既に著減少を示し獨波關稅戰爭後、殆んご全く絶減したる鐵類の輸出が漸次増加し來り、今や當國貿易上相當重大性を加へ來れる事實に基くもの云ふべし

而して生産の合理化及事業の集中は生産費を低下せしめ、外國市場に於ける競争能力を恢復するに重大なる貢獻をなしたり

結論 上記の経緯を経て今日に及べる波蘭製鐵業は、國際製鋼カルテルへの加入問題及獨波關稅戰問題の解決の曉に於て、其第五期たる國際協調時代に入るべきものとす

一定口径の鋼管に付ては、波蘭側の國際鋼管サンヂカ加入一九二七年末に實現せられ、既に鋼管の輸出相當の増加を見たる趣なるが、製鋼カルテル加入問題は輸出割當額の決定(波蘭は五十萬噸より三十五萬噸迄讓歩し、カルテル側は三十萬噸を主張す)及國內市場消費の増加に伴ふ輸出割當額減額問題の二點の爲に進行を見ず

獨波通商條約成立し兩國關稅戰爭終了し、獨逸鐵屑の對波輸出及波蘭鐵類の對獨輸出に關するコンチンゼットに付協定を得んか、當國製鐵業は材料の購入、生産品の輸出に付著しき改善を受くべきこと明なるも、不幸本通商條約は別種の障害の爲未だ成立に至らず

然れども最注意を要すべきは當國製鐵業發展の基調は國內市場に在るの點なり

即ち大戰以前より近代的施設を缺くこと多かりし當國に於ては戰時中破壊せられ戰後未だ復舊又は着手せられざりし各種の設備は、一般の國情安定するに従ひて實施せられざるべからざるに同時に、客年「プロテュー」安定借款の成立以來金融從來に比し著しく圓滑を加へ來り、工業の勃興、鐵道の改良、住宅の新築等類りに行はれ、其結果鐵類の需要計り知るべからざるを以てなり。

波蘭中央屑鐵購入組合定款

(昭和三年十二月二十七日附在波帝國特命全權公使松島軍報告)

波蘭中央屑鐵購入組合 (Centrala Zakupu Złomu Polskich Hut Żelaz) (以下組合と略稱す) は、全波蘭の製鋼關係工場の必要とする屑鐵の購入及供給をなすを目的とする有限責任會社にして、右の全波蘭製鋼關係工場を以て出資者たる社員とす。(以下會員と略稱す) 會員の持分を第三者に譲渡するには總會の事前の承諾を必要とし、右の承諾は總會の五分の四の多數を得るに非ざれば之を與ふる事を得ず。組合の機關は總會取締役及監査役なり。

會員と組合間又は會員相互間の紛争は仲裁に依りて決定をなすこととし、通常裁判所に繫屬せらるることなし。

組合解散の手續比較的簡單なるを以て、組合の存立期間は無制限とせり。

右組合の設立と同時に組合と會員たる各工場との間に左記要領の如き協定をなし、之に基き屑鐵の購入を行ふ。

(一) 會員は本協定の存續期間 (七) 参照) 中各自の工場に對する屑鐵の供給を自ら行はず、之を全部組合に委託し、各自の需要に従て (三) 参照) 組合をして屑鐵の購入及供給をなさしむ。組合は一定

率の手敷料を受く。(五) 参照)

尤も本協定は會員の自己の工場より生じたる屑鐵には適用なし。自己の工場に對する會員の出資が工場
の全資本金の四割を超ゆるもの、又は會員たる工場の資本金に對し四割を超ゆる出資をなす工場を云ふ。
但し右の割合は本協定調印の時之を査定す、故に會員は組合の供給に係る屑鐵に自己の生産に依るものこ
を問はず、其所有する屑鐵を賣却し、又は讓渡するの權利を有せず、組合より供給せられたる屑鐵は自己
の消費の爲にのみ之を處分するを得、會員は又交換をなすを得ず。

(二) 組合は賣主たる立場に於ては全く各會員共同の機關たるものにして、從て何等賣込に依る利益を
享くる事能はざるものとす。又各會員は出來得る限り組合の損害を避くる様努むる義務あり。

(三) 各會員は各自一箇月の必要屑鐵量を二箇月以前に組合に通告するを要す。即ち引渡を受くべき時
よりも二箇月以前の月の三日迄に之を通告し、其必要量は屑鐵の種類に依りて各別に所要量を指示するを
要す。

會員は必要量通告をなすべき最後の月(即ち引渡を受くべき日より二箇月以前の月)の二十五日迄に、
二割以内の増減に付ては通告済の必要量を變更するの權利を有す。右期日以後の變更の申込に對しては何
等の考慮をも加ふる事なし。

組合に於て通告を受けたる屑鐵の全部を購入する事能はざる場合に於ては、監査役をして屑鐵供給の方

法に關し善後手段の決定をなさしむる爲監査役會に其旨を通告す。

屑鐵の引渡は各工場に對し其通告の種類に従ひ各別に之を行ふ、會員は確定したる必要量に付ては其引
渡を拒絶する事を得ず。

引渡を受けたる屑鐵にして消費せられざりし部分に付ては組合に於て買戻をなす。

(四) 屑鐵は波蘭内に於て入手したるを、輸入したるを問はず、其價格を通算し各種別毎に毎月の平
均購入價格を算出す。

各會員は組合に各別に計算をなすものにして、組合に對する會員の支拂は屑鐵の引渡ありたる月の翌月
の二十日迄に之を行ふ。

三箇月後平均價格の三箇月間確定計算を行ひて差引勘定を確定す。又全會員が支拂たる積込停車場より
荷卸地點迄の屑鐵一噸に對する運賃(積込地に於ける一車平均積込費を控除したるもの)の月額を算出し
、更に三箇月後其平均額を確定し、同時に各會員の確定計算を行ふ事に同じ。

各種平均額の算定に付ては各工場に於て供給を受けたる屑鐵の量及質並に供給に伴ふ各種の費用に關す
る限り、各工場に於ける帳簿を計算の基礎とす。

會員前記支拂期日前に支拂をなしたる場合には、組合は右會員に波蘭銀行と同率の利子を支拂ひ、又支
拂遅延したる場合には延滞利子として同銀行の日歩に基き一定金額を支拂はしむ。

(五) 組合は手数料として各工場が一箇月間に受けたる屑鐵の供給に對し、支拂ひたる額の四分の三%を各工場より各別に申受くるものとす。尤も前記手数料の率にして充分ならざる時は、會員は之を適當の率迄増額すべき義務を有す。

右手敷料は前月供給せられたる屑鐵の代金と共に納入せらるべきものとす。

(六) 一會員に屬する工場が其所有者を變更したる場合には、右會員は右工場の適法なる繼承者に本協定より生ずる一切の義務の履行を移付するを要し、又新會員の加入は本協定を承諾する條件の下に於てのみ行はるゝものとす。

本協定違反の場合に於ては總會に於て決定せられたる違約金を支拂ふを要し、又協定違反の事實に依り組合又は會員に蒙らしめたる損害の全部に付其責に任ずべきものとす。

各會員は本協定署名後八日間に組合に手形を供託し、組合は當該會員の違約金其他の賠償決定の場合に右手形を使用するの權利を有す。此場合の會員は三日以内に前記金額に對する保證として新なる手形を供託するを要す。

(七) 本協定より生ずる事あるべき紛争は、其性質の如何を問はず、仲裁に附することとし、通常裁判所に繫屬せらるゝことなし。

本協定の有効期限は組合の定款署名後三年とす。

本協定の有効期限満了の二箇月以前に更新又は期限の延長なき場合に於ては各會員は期限満了後屑鐵購入をなすの權利を有するに至るべく、從て組合は其後は之が購入をなすことなし。

本協定の終了後組合の爾後の存續に關し、何等の協定成立せざる場合に於ては清算を行ふべきものとす。

本協定の變更は全員の意思の一致の場合の外は之を行ふことを得ず。

獨逸鐵鋼業の賃金

The Iron & Coal Trades Rev., March 1, 1929.

獨逸鐵鋼生産業者協會々長ライヘルト博士は首題の件に關し豫て調査中なりしが、其の結果は、此程スタールウンドアイセン誌上に發表せられたり、抑も本調査は、「ウエストフアリア」に於ける最近の爭議並にロックアウトの解決に努力せる仲裁者の判決に關聯する問題に就き勞働組合首領者の成せる誤報の發表に刺戟せられて着手したるものなり

博士は冒頭に於て次の如く指摘せり

鐵及石炭工業に於ける自制的事業會社に於ては、賃銀俸給並に社會福利費出資額は 賣上價格の約四割を占むるものこす、鐵鋼業のみの場合に於ては伯林の工業趨勢調査會調査の數字に依れば一九二七年の賃銀費は生産費の二割五分に當れり、然るに、此れに對し勞働組合首領者は 生産費の五分以下に在りし發表し而も此の聲明の誤りなきこを示す目的を以て引證し居れり

誤れる根柢を土臺とする聲明

博士は曰く「勞働組合首領者の聲明は二三の製品を生産するに過ぎざる單純にして比較的新規の工場に就き而も活況を呈せる一九二八年七月中の状態を根柢とせるこ明かにして剩さへ所謂生産的直接賃銀の

みに限る。同時に便宜上選びたる作業の二三階段の場合のみに就て調査し附屬部に於ける總てのべ間接賃銀費、一般管理費等は之を計算外に置き、若し然らずせば、半製品の場合に於ける生産費中賃金費が屯當り一・〇二馬克並に工形の場合に於て一・二四馬克に過ぎざるなき如何で斷言し得べけんや、尙右二つの場合に於ては、全く限定せる作業の二階段に對する賃金のみを明かに意味するものにして即ち最初の場合に於ては、鋼塊を半成品に、第二の場合に於ては半成品を工形に轉換する過程を云ふ。然れども右製品は他の製品と同様、銑鑪より混銑鑪、製鋼鑪或は轉鑪に至り之より加熱鑪、再熱鑪を経て諸種の壓延工場に至る多くの作業階段を通過するものなり、若し全賃金費を確めんを欲せば、勞働組合首領の得たる數字は、總ての繼續的作業階段の追加に依りて必然擴充せらるゝに至るべし、故に生産部に屬せざる非生産的の間接賃銀並に俸給は亦之を計算に入れざるべからず

政府の計算基礎

此の目的を達する爲めには勞働組合首領者の取れる方法と異なる方法を以て調査を行ふことの必要なるは言を俟たざる所なるが就中信頼し得べき基礎としては、一九〇八年以來毎季に刊行せらるゝ聯邦統計局發表の公報あり、而して利用し得べき最近の報道は一九二六年に關する公報にして、鐵鋼業の場合に於ては銑鑪、製鋼所及壓延工場に就き別々に數字を與へ居れり、附屬部門に關する數字は各場合とも完全ならず

此の政府統計の報道中には各種製品の産額屯數並に被保險職工（工場職員、技術者、職工長等を含む）に仕拂ひたる賃銀高及職工數に關する資料あるも附屬部門又は保險を附せられざる職工に對する分を缺げり斯の如く公式に確められたる賃銀費に加ふるに非保險者の分を加ふれば全賃銀費を知るを得べし、附表は、政府の統計を土臺として、鐵鋼業に於ける被保險者の全賃銀並に職工數を示せり

表示の通り銑鑪、製鋼所及壓延工場に於ける職工の賃銀は總べて、勞働組合首領の與へたる數字に數倍せり、加ふるに獨乙壓延工場に於ては、製品一吨を作るに、一・二吨の鋼を使用し〇・二吨は、端物等として喪失する事實を考慮に入れざるべからず、從つて製品一吨當りの平均賃銀費を算定するに際しては、鋼一・二吨に對する製鋼所の賃銀費を附加せざるべからず、自一九二四年至一九二六年間に於ける獨乙鋼塊の生産には一般見に見て内地産銑鐵の六割五分を消費し自一九一一年至一九一三年間に於ては、七割四分を消費せり

壓延品一吨當り賃銀

斯の如く鋼塊一吨を製するには、自一九二四年至一九二六年間に於ては、獨乙銑鐵の〇・六五吨に對する銑鑪賃銀費を、又自一九一一年至一九一三年間に於ては、同様〇・七四吨に對する銑鑪賃銀費を含めり、若し此の賃銀を附表に示せる壓延品の勞銀に加ふるせば被保險者に對する壓延品一屯當りの平均賃銀費は次の如くなるを見る

一九一一年	二四・三二馬克
一九一二年	二四・一三 "
一九一三年	二四・六三 "
一九二四年	三六・四二 "
一九二五年	三六・八四 "
一九二六年	三一・八六 "

右の率は、總べての附屬部に於ける勞銀を含むものにあらざるが故に自一九二四年至一九二六年間に對する前記の額は、實際の賃銀額以下に在るものなりとす、政府の統計に含まざる附屬部門をも含む被保險者の賃銀及俸給は、被保險職工賃銀の平均約八パーセントに相當するものと見積らる、即ち次の如し

一九一一年	二馬克
一九一二年	二馬克
一九一三年	二馬克
一九二四年	三馬克
一九二五年	三馬克
一九二六年	二・五馬克

尙此の外備主の出資する社會福利費を計算に入れざるべからず、此の福利費次の如し

戰前三ヶ年	約一馬克
一九二四年	三馬克
一九二五年	三馬克
一九二六年	二・五馬克

されば社會福利費を含む勞銀及俸給費の總額は壓延品一吨に付次の如き數字に達す

一九一一年	約二七・二五馬克
一九一二年	二七馬克
一九一三年	二七・五〇 "
一九二四年	四二 "
一九二五年	四三 "
一九二六年	三七 "

尙博士は、聯邦政府の發行する統計公報を土臺として壓延品純生産費中被保險職工の賃銀費の分前を次の如く比較せり

一九一一年	五八%
-------	-----

年次	製鋼所	壓延工場
一九一一年	三九、二二八	一〇、七八〇、二八九
一九一二年	四四、〇七一	一、五三七
一九一三年	四四、八一六	一、六六八
一九一四年	三三、二八七	一、八九九
一九一五年	三五、七八七	二、四二七
一九一六年	二五、五〇六	二、五三四
一九一一年	六〇、二七七、〇〇〇	一、五三七
一九一二年	七一、七三二、〇〇〇	一、五九二
一九一三年	七四、七四三、〇〇〇	一、六六八
一九一四年	六三、二三八、〇〇〇	一、八九九
一九一五年	八六、八六六、〇〇〇	二、四二七
一九一六年	六四、六四一、〇〇〇	二、五三四
一九一一年	四一、九〇八	一、六二一
一九一二年	二四、三七一	一、九五七
一九一五年	二二、二六六	二、五一九
一九一六年	二〇、五六六	二、六五一
一九一一年	三六、八八〇	一、四八〇
一九一二年	三九、三二七	一、五四五

非保險職工を含める場合の見積次の如し

年次	備役人員	賃銀總額	生産總數	一人當り平均賃銀	一噸當り平均賃銀
一九一二年	三九、三二七	六〇、七五一、〇〇〇	一五、一八九、四七〇	一、五四五	四・〇〇
一九一五年	三六、八八〇	五四、六一一、〇〇〇	一四、七八九、九八九	一、四八〇	三・六九
一九二四年 (例外の年)			七〇%を遙に超過す		
一九二五年			六〇%以上		
一九二六年					
一九二六年			五八%		
一九二五年			五六%		
一九二四年			七三%		
一九一三年			五一%		
一九一二年			五四%		

獨逸鐵鋼業賃銀統計公報

銻鑛爐工場

年次	備役人員	賃銀總額	生産總數	一人當り平均賃銀	一噸當り平均賃銀
一九一一年	三六、八八〇	五四、六一一、〇〇〇	一四、七八九、九八九	一、四八〇	三・六九
一九一二年	三九、三二七	六〇、七五一、〇〇〇	一五、一八九、四七〇	一、五四五	四・〇〇

一九二四	九〇、八三〇	一七三、七二七、〇〇〇	七、二六七、八二八	一、九一三	二三、九〇
一九二五	九三、六六八	二二〇、七一七、〇〇〇	九、三〇八、四四三	二、三五六	二三、七一
一九二六	七七、六一二	一九〇、四九三、〇〇〇	九、〇一六、九四一	二、四五四	二一、一三

國際粗鋼カルテルに對するドイツ側態度

(昭和四年二月十九日附在ハンブルグ帝國總領事代理山路章報告)

國際粗鋼カルテル協定第九條に依れば本協定は原則として一九三一年三月末日迄存續すべき筈なるも、關係各國は一九二九年五月一日迄に同年十月三十一日限り本カルテルより脱退すべき旨の豫告を爲し得るの權利を有する處、脱退豫告期限の漸次切迫するに伴ひ、當國に於ても右脱退豫告權を實行すべきや、將又該權利を實行することなく唯聽て到來すべき協定改訂期以前に於て他關係諸國が獨逸側要求に對し、同情ある考慮を拂ふべき旨の確實なる保證を獲得するに力むべきやは、主として政策上の問題として昨今一般の注意を喚起し居れり。

先づ國際粗鋼カルテルに對する獨逸側要求の如何を観るに、其第一は現獨逸生産割當額の引上なり。試に關係主要國の各四半期に於ける生産割當額及事實上の生産額の割當額に對する過、不足を表示すれば左の如し。(單位千噸)

各四半期に於ける割當額	獨逸	佛國	白耳義	ルクゼムブルグ
一九二七年三月迄	二、九九九	二、一六六	八〇三	五七七

一九二七年四月以降 三、一六一 二、二八三 八四六 六〇八
生産額の割當額に對する過、不足。(+)は過、(-)は不足

一九二六年十月—十二月	(+)	五七五	(-)	八六	(+)	一一一	(-)	一〇
一九二七年一月—三月	(+)	九五九	(-)	一六一	(+)	一一一	(+)	六
一九二七年四月—六月	(+)	八三四	(-)	二二八	(+)	五〇	(+)	八
一九二七年七月—九月	(+)	一、〇〇三	(-)	二二九	(+)	八四	(+)	二五
一九二七年十月—十二月	(+)	一、〇二七	(-)	一四四	(+)	八九	(+)	二八
一九二八年一月—三月	(+)	一、〇五二	(+)	一一	(+)	七八	(+)	三〇
一九二八年四月—六月	(+)	五四七	(+)	四四	(+)	八六	(+)	二四
一九二八年七月—九月	(+)	六七六	(+)	二〇	(+)	一一九	(+)	三三
一九二八年十月—十二月	(-)	四〇五	(+)	一七七	(+)	一五四	(+)	五二

(註) 客年第四半期に於ける獨逸側生産額の減少は、主として西部地方に於ける鐵工業のロツクアウトに因る。

抑も國際粗鋼カルテル成立當時生産割當率決定の基礎を爲りしものは、獨逸斯業に取り最不況なりし一九二六年第一四半期の生産額なるを以て、本協定實施後獨逸側に於ける事實上の生産額が各割當額を著し

く超過するに至れることは右表に照すも明にして、之が爲一九二六年十月より一九二八年九月迄の期間に於て、獨逸側の支拂へる罰金總額は三千五百萬乃至四千萬馬克に達する由なり。從て獨逸側に於ては國際粗鋼カルテルに對する根本的要求として、各國の生産能力に適應せるより公平なる割當額を定めむことを熱心に主張し居れり。尤も生産超過額に對する罰金は從來一噸當四弗なりし處、客年七月十三日 *Düsseldorf* 開催の委員會に於ては主として獨逸側の要求に基き、之に對し重大なる改正を加へ割當超過七%五迄は一噸に付一弗、更に二%五迄は二弗、夫以上超過の場合に於て初めて四弗の罰金を課することとし、唯獨逸の國內割當額超過に對しては從來通り一噸に付一弗の罰金を課することせり。

獨逸側要求の第二は輸出割當額の引上なり。獨逸側輸出割當額は從來毎月二十七萬五千噸を限度せしむる處、右 *Düsseldorf* 委員會に於ては獨逸側の事情を諒し、之を三十萬噸に引上たるが右は總賣上高の二十八%を超過せざる場合に於てのみ罰金支拂義務より免除せらるゝものにして、(獨逸に於ては國內需要を輸出の割合は七十二%と二十八%とに分配せらるゝ) 國內經濟界不況の今日右輸出制限は、確に獨逸側に取り痛手たるべく、之が改正を要求する聲の大なるも強ち無理は云ひ難し。尙本月初め諸新聞の傳ふる所に依れば昨年十一月に於ける鐵工業爭議の結果同年第四半期に於ける輸出額の著しく減退せるに鑑み、差當り本年第一四半期に於ける輸出割當額を五%増加すること、爲れる趣なるも、獨逸側にては之に對し一〇%の増加を要求しつゝある由にて、最後の決定は三月十四日ブラッセルに於て開催せらるべ

き例會に於て之を行ふべし云ふ。

第三の要求は國際的販賣組合の組織是なり。即ち獨逸側に於ては國際粗鋼カルテルの最終目的達成の爲には畢竟此處迄進展するの必要なるを唱へ居れり。蓋し販賣價格の永續的改善は斯かる特別組合の組成に依て初めて確保し得るを以てなり。然れども此要求は輸出市場に於ける價格の好況に鑑み他關係國、特に佛國側に於て氣乗せざる模様なるのみならず、之が前提として國家的團結の必要なること勿論なる處、最近獨逸側内部に於て獨逸粗鋼カルテル其他各種販賣組合の改造又は緩和を要求する向もあり、旁々國際的販賣組合の成立に付悲觀的觀測を下す者多し。

以上述べたる諸要求は大體獨逸當業者の一致せる意見なるが、國際粗鋼カルテル其者に對する根本的立場に至りては其間に自ら相違あり、即ち一部極端派（例之 *Gute Hoffungslutte*）に在りては國際粗鋼カルテルに殆ど何等の効果ありしを認めず、縱令國際市場に於ける鐵價の昂騰又は安定に其關與する所ありとするも、其割合は極めて僅少にして且夫も獨逸側のみを負擔する輸出制限に因る所多かるべく、又國際販賣組合の如きは近き將來に於て到底成立の見込なく、結局本カルテルは獨逸に取ては有利なるより寧ろ有害なりとの悲觀的見解を抱藏する者もある處、當業者の大部分は之に反し（イ）本カルテルの經濟的接近又は協力的手段として極めて有效なりしこと、（ロ）國際的販賣組合組成の不可能に非ざること、（ハ）世界市場に於ける鐵價の向上せること、及獨逸鐵工業ロツクアウトの輸出市場に及ぼせる影響の比

較的少かりしこと等は、國際粗鋼カルテルの存在するなくむば殆ど不可能なりしこと、（ニ）他關係諸國は本カルテルの存續に依て重大なる利益を享有するを以て、獨逸側要求に對しても耳を藉すの好意を有するこは、是等諸國の從來の態度に顧み容易に之を推定し得ること、（ホ）更に本カルテルの廢止は獨逸通商關係及ザール協定に好ましからざる影響を及ぼすの虞あること等の諸理由よりして本カルテル協定改訂に對し從來よりもより有利なる基礎を見出すこと必しも絶望に非ざるを信じ居れるが如し。從て右大勢に鑑るべきは近く獨逸側より本規約廢止通告を爲すが如きことは萬なかるべきやに思料せらる。

海外雜報

滿鐵新石炭棧橋

The Far Eastern Review, Feb., 1929.

大連灣頭甘井子
年額五百萬噸機械積込裝置

滿洲に於て目下着手中の最も興味を引ける技術上の發達は南滿洲鐵道會社にて計畫せる大連港の對岸甘井子に於ける新貯炭場及積込埠頭の設備である、此の新しき大事業は撫順炭の増産に備ふる自然的歸結であつて又一面に於ては大連港に於ける輸出を促進するため最新の機械的積込裝置の必要に迫られたのである

撫順炭本年度の産額は約八百十萬噸に及ぶ豫定にして昭和二年に於ては六、七一五、四〇〇噸を産出し其の賣上高次の通りである

昭和二年賣上高

六、八三六、一五一噸

内譯 滿洲地賣

一、六四三、三七三

滿鐵會社使用
輸 出
汽船 燃料

一、一一七、六七〇
三、三七一、九八二
七〇三、一二五

輸出炭及汽船燃料の一部は安東、營口及旅順より積出されたものもあるが其の大量は大連港積出である昭和三年三月三十一日に終る會計年度に於て滿鐵にて大連に輸送せし石炭の總額は四、一九四、二二二噸にして其の内二、九〇〇、〇〇〇噸は輸出されて居る昭和二年大連港の輸出入貿易高は八、二〇〇、〇〇〇噸にして其の四十二%たる三、五〇〇、〇〇〇噸は輸出及汽船燃料の石炭で占めて居る

大連に於ける取扱貨物の大量を占むる石炭は他の出口を見出さねば埠頭能力を滿し制限されたる區域に溢出し他の貨物の貯藏及取扱に要する設備を必要とする状態に差迫つて居る、本港の石炭を汽船に積込むには苦力又は機械力に依らねばならぬが勞力に依る積込能力は一日千二百噸に過ぎず而して五個所の石炭積込地にて一日の積込能力總計は六千噸である大正十五年六月建設せられたる特別の實驗的石炭埠頭はカーダムバー式にしてベルトコンベヤー及トラベリングローダーにて積込むものにして一日に四千噸の石炭を汽船に積込んで居る尙大連港に於ては五百噸能力のミツチナー艇三隻を有し之に依つて一時間百噸宛の汽船燃料炭の積込を行つて居る

大連港に於ける石炭の荷役を集中し且大豆及其の他の貨物の年々増加に必要な埠頭及貯藏場の窮狀を

救ふために滿鐵は大連港の對岸の一個所に新貯炭場及機械積込埠頭建設用地を買収した、第一期計畫は既に建設工事中にして其の設計は貯炭場及年額三百萬噸の石炭積込埠頭より成り尙年額五百萬噸迄増加の豫定である

第一期計畫は昭和五年末迄には完成の豫定にして其の豫算は八百萬圓を計上され之が内譯は次の通りである

- 一、大棧橋に平行せる延長七〇〇米の防波堤 一、〇〇〇、〇〇〇圓
- 二、高架鐵道及埠頭 一、六〇〇、〇〇〇
- 三、盛土及埋立 三〇〇、〇〇〇
- 四、機械設備(秤量臺、カーダンパー、ブリツヂトランスポーター、ピアカー等) 二、〇〇〇、〇〇〇
- 五、電氣設備 三〇〇、〇〇〇
- 六、建物及土地代 一〇〇、〇〇〇
- 七、給水船 八〇、〇〇〇
- 八、鐵道線路 二、二〇〇、〇〇〇
- 九、貯炭場 三〇〇、〇〇〇
- 一〇、其他 一二〇、〇〇〇

5
14

計

八、〇〇〇、〇〇〇圓

撫順炭の輸送は周水子の僅かに北方なる封茨涯(?)に於て滿鐵本線より分岐せられ新設支線九軒にて甘井子に於ける石炭棧橋に接續するのである棧橋附近には二個所の貯炭場を設け本貯炭場は三十五萬噸の能力を有し棧橋に近き貯炭場は貨車積の儘十萬噸の能力にて直接ダンパーに供給し尙本貯炭場にはブリツヂグラフ附運搬兼積込機二基を有し各一時間三百噸の能力を有して居る

鐵道支線九軒の輸送設備は總て電氣裝置にして電力は大連に於ける南滿電氣會社天野川發電所より送電せられ其の電壓は一萬一千ボルトである而して棧橋に近く千五百キロワットの變電所を設け撫順式の電氣機關車少くも五臺にて處理する豫定である

貯炭場の石炭は電氣動力によりて百噸能力の秤量臺に送られ此所にて自働式に秤量するに共に其の重量を記録するここが出来る滿鐵は現在沙河口工場及大連機械工場にて製造せる六十噸積の石炭用鋼製貨車二百臺を有し從來の三十噸及五十噸貨車を此の六十噸貨車に取り替へ以て長き重き列車に代らしむる方針である秤量臺を出でたる貨車は電動力に依るエンドレスロープウェイによりてカーダムパー迄の間の勾配線を押上げられカーダムパーは一時間三十噸貨車三十臺即九百噸の割合にて如何なる太さの貨車をも處理し得る設計である而して石炭は電氣裝置にてピアカー(内五臺は六十五噸積)に卸し次でピアカー自体と共に棧橋上を走り更に棧橋運搬兼積込機を経て汽船積込を行ひ然る後ピアカーは他の線路を経てカーダム

パー迄歸るのである

棧橋は延長四百二十五米にして實際積込區域は延長百七十五米水深十米を有し棧橋は最低水準上十九米の高さあり下部棧橋は幅三十四米にして混泥土足場を有し其の上にピアカー用鐵道線路を敷ける幅一七・六米の上部棧橋がある積込機はホツパー、バケツトコムベヤー、テレスコープシュート、メカニカルツリムマー及アンチブリーカー等の裝置を有して居る而して特殊の棧橋工事、カーダムパー、ピアカー及棧橋運搬兼積込機等は亞米利加のウヘルマン、シーバー、モルガン會社にて製造せしものである

上述の裝置は年額三百萬噸の石炭を處理するもので既に第一期工事を着手したが更に其の完成を俟ちて二百七十萬圓の豫算にて年額四百八十萬噸の能力まで擴張する豫定である其の完成期は昭和八年であつて最初延長七百米の防波堤は百五十米を延し棧橋は百七十五米より三百米に延ばして汽船四隻を繫留するにこになつて居る而して更に一臺宛の秤量臺、カーダムパー、ピアカー及二臺の積込機を設置し一日一萬六千二百噸即年額四百八十六萬噸迄増加し更に貯炭場には一臺餘分のグラフランスポーターを増設するから全設備完成迄には約一千一百萬圓を要するのである

棧橋用水の缺乏に對しては大連給水線との連絡水路約十八軒の完成迄は汽船給水のため給水船を使用せねばならぬ而して該給水々路完成の曉には滿鐵に於ては埠頭附近に従業員及汽船の便利のために小市街を設ける意向である

上述甘井子石炭棧橋の外滿鐵にては營口に石炭棧橋を建設中にして本年七月迄には完成すべく其の能力は年額六十萬噸である又旅順棧橋に於ては石炭積込のため二個の碇泊所を増設中にして同港の能力を年額八十萬噸迄増加の筈である

上述工事完成の曉には滿鐵は之等水深大なる三港にて年額六百四十萬噸の石炭を輸出することが出来る然るに支那に於ける輿論即ち日本は工業用石炭を撫順炭に頼りつゝ、ありこの説に反して撫順炭の年産額八百七十萬噸中日本への輸出高は僅かに百九十五萬噸に過ぎず即ち輸出及汽船燃料總額の約半數に過ぎないのである日本に對する石炭の輸入は内地市場に過剩炭を作りて價格の低下を招かぬため石炭商組合は滿鐵に對し母國への輸出を制限させて居る故に滿鐵は撫順炭の輸出先を東洋方面の各國に廣めつゝある

イギリス國鐵道の鋼鐵枕木採用問題

(昭和四年一月十二日附在ロンドン帝國大使館商務參事官松山晋二郎報告)

英國鐵道に於ける鋼鐵枕木採用の問題に關しては曩にサア・ブローディ・ヘンダーソンの所見を報告せるが其後該問題は引續き斯界の注意を喚起しつゝ、あり、殊に戦後の木材價格の騰貴に比較して鋼材の價格が寧ろ低落の傾向を辿り兩材間の値開も漸次接近し來れる關係もあり現に鐵道當局者中鋼材枕木の採用に就き考慮しつゝ、あるもの筈に一、二會社に止まらず Southern Railway 會社は鋼鐵枕木七萬本の第一回註文を發し其實施に著手せり、勿論鋼鐵枕木は何等新考案若は新發明と稱すべきものにあらずして阿弗利加及印度に於ては白蟻發生等の關係より已に採用せられ又獨逸の如き木材の供給英國に比し豊富なるのみならず且英國同様白蟻發生等の恐れなきに拘はらず以前より鋼鐵枕木を實施しつゝ、あり英國に於ては偶々過去に於ける鋼材採用の試験が好果を擧げ得ざりしこと、保守的國情と相俟つて寧ろ之が採用に反對するの傾向を示しつゝ、ありしが、近時不振の極に沈淪しつゝ、ある鐵鋼業救濟策の一法として又一面鐵道技術家等は斯業改良發達の見地より其採用を試みんむ努力するに至れる次第なり

英國に於ける現在枕木使用數は一箇年約四百萬本乃至五百萬本に及び、之が用材の變更と經費の増減とは斯業の經營に影響する所極めて莫大なるものあり且鋼材が持久性其他幾多優越なる特長を有する事は既

に一般の認むる所なるが其他の特殊問題假令ば電氣鐵道に對する應用として絶縁方法の如き、尙攻究の累ぬべきもの少なからず其他尙兩者の實用的價值如何に對する攻究の餘地あるが如きも英國に於ける枕木問題は經濟界の推移に伴ひ漸次鋼材を中心として其方面に動きつゝありと見るべし

因に英國鐵道は印度、阿弗利加乃至獨逸の如き Flat Bottomed Rail を採用せず多年 Bull Headed rail を其標準軌條として採用し來れる關係上其枕木は Chair 又は其代用物を必要とするものなるが此點に關しサザアン鐵道會社が數年前より其ギルドフォード線の短距離間に試験的に敷設したる鋼製枕木はピーター・サンドバーグ氏の創意に依り Chair は枕木に附著し居るも夫自體枕木は別個の形態を備へ居り、獨立せる Chair は其要なきに至れるのみならず、之れに伴ふて螺旋、ピン、トンネール等亦不要となり其經費の節約せらるゝ額相當なるものありと云ふ

紐育州諸工場の中所得賃金は最高

レコードを作れり

紐育州代表的諸工場に於ける二月中の週平均所得賃銀高は州産業委員會の報ずる所に依れば二九弗九九仙に達したり、三〇弗一二仙の平均所得を示せる客年十二月中の例外を除けば本數字を最高記録となし客年四月の最低數字を越ゆるこゝ一弗二〇仙を算せり因に一月の平均所得高は二九弗七一仙、一九二八年二月は二九弗一六仙に達したり

月は二九弗一六仙に達したり

合衆國製鋼業備役狀態の善化と賃銀

所得の増進

合衆國勞働統計局報に來れば二百六ヶ所の製鐵製鋼所に於ける二月中の職工數は一月に比し〇・六パーセントを増せり、即ち一月の二七三、一八六人は二月に入り二七四、七七二人に増加したり、一方週賃銀仕拂高は八、五七五、二〇二弗より八、九九一、九八五弗に増進し即ち一月に比し四・九パーセントを増せり

鋼材工場に於ても同様の事態を示せるが但鑄鐵管工場に於ては其の備役職工數に於て五・八パーセントの減少を示せり、然れども其の賃銀仕拂高に於ては四・九パーセントを増加したり

鑄物及機械工場九八五ヶ所に於ては、其の備役人員は二五五、六〇〇人より二六五、三七二人に増加し即ち一月に比し三・八パーセントを増せり、同様に其の賃銀仕拂高に於ても増進を示し一月の七、六三七、四七〇弗に對し八、三四一、三六〇弗を仕拂ひ九・二パーセントを増せり、機械器具工場に於ても、其の人員に於て三・五、賃銀仕拂高に於て六・九パーセントを増進したり

歐洲軌條カルテルに合衆國の加入

漢堡三月二十三日

三月十六日ブラスセルに於ける組合最近の會合に於て亞米利加の軌條工場は明かに歐洲軌條製造業者組合の會員となり、巴里の L'Usine 紙は曰く「亞米利加軌條製造業者は "Erma" に公然參加を認め向後軌條カルテルに密接の關係を保つべきことを聲明せり」

亞米利加の參加に依り「カルテル」の名稱は近々中に國際軌條製造業者組合 (International Rail Makers Association) に改稱せらるゝ筈なるも亞米利加工場は既に、同カルテルの組織以來英國に依りて代表せられ來りたる爲め(英國は英米双方の割當を管理せり)國際的形勢には何等重大なる變化を齎らすことなかるべし、亞米利加の輸出割當は一八五、〇〇〇乃至一九〇、〇〇〇屯にせられたり、軌條カルテルは亞米利加を加へたるが爲め世界の主要軌條生産國を全部抱含することとなり瑞典、波蘭、伊太利、西班牙は未だ組合に加入せざれども皆軌條の輸出者としては取るに足らず、波蘭の一九二八年に於ける輸出額は僅に約七千屯瑞典、伊太利、西班牙の輸出額は三者合計二百八十屯に過ぎざりき

軌條組合最近の會合に關する内容の詳細は未だ十分判然せざれども獨逸の賠償勘定に依る引渡は獨逸の軌條割當に負擔せしめず

但其の量にして年三萬屯を超える場合を除く。輸出割當の超過に對する科料金は最初の一萬屯に對する屯當り五志は十志に増加せられ、而して以下一萬屯を増す毎に二志六片の均一率は超過屯數一屯に付一磅に達するライジンクスケールに増加せられたり

英國組合員は、其の植民地に對する軌條輸出の割當に於て讓歩を受け獨逸の組合員は豫告無しに組合脱退の權利を許容せられたり、目下の處獨逸がカルテルより脱退するの徵候を見ざれども、獨逸大製鋼工場的大部分が本カルテルに反對を稱へ居ることは明かなり、獨逸昨年中の軌條産額は歐洲總産額の三八・二パーセントに相當せるを以て若し獨逸が脱退すせば組合の効果を著しく減殺するに至るべし

日本の鋼産額増加但利益極めて少し

ワシントン四月六日

商務省の報ずる所に依れば日本の鋼産額は年百五十萬噸を優に超過し一九二〇年の數字に殆んぎ倍加せり、日本近代經濟史上に著しき發達を示せるものを製鋼業の擡頭とす

日本の製鋼工場は着々擴大改善せられつゝあり而して生産業者は、自然的の障礙には勝ち得る信念を有すと同時に政府の援助は引き續き依頼し得るものなせり、現在鐵鋼會社の大部分は、戰爭の與へたる産業的刺戟に依り設立せられたるものなるが當時の鋼材價格は實に幻想的高値に達したるものなりき、日本製鋼業の財政的地位は一九二〇年以來眞に満足なる状態に在り云ふを得ず、一九二六年に於ける民間製鋼會社の投資額は約一五、〇〇〇、〇〇〇弗に達せるが其の利益は五、〇〇〇、〇〇〇弗弱を算せり而して五分の利益を擧げたるは僅に二會社ありたるのみなりしが双方共一九二七年に於ては根本的整理を

行ふの止むなきに至れり、然れども本年初頭に於ける斯業の状態は大戦終熄以來未だ見ざる光輝ある前途を見せたり

クルツプの新鑛鑪四月中に火入

漢堡三月二十三日

フリドリツヒクルツプ合同會社がボルベック附近に建設中の新鑛鑪は四月中に火入を見るべく又ボルベックの新鑛物工場は五月中に操業を開始するに至るべし、新鑛鑪の火入れと同時に三基の小鑛鑪は解体せらるべし

獨逸の輸出業者波蘭のバンブースチールを賣る

漢堡三月二十三日

當地の輸出業者は最近對支バンブースチールの取引に於て重要な地位を獲得せりバンブースチールは主として前獨逸領上部シレジアに於ける波蘭製鋼工場より供給せらる。輸出業者は上海兩にて相場を付け支那商人の倉庫に引渡す、本年最初二ヶ月間に於て既に獨逸商人は多量の豫約を了せるが価格は引渡平均一擔當り四兩二(二弗六〇)即ち一封度一・九五仙の相場を以てせり

獨逸の賠償引渡額レコードを作る

漢堡三月廿三日

賠償動定に依る鋼材の輸出額は、二月に於て新レコードに達せるが一切の賠償積出價格の合計は一年以前に比し一二〇パーセント大なり合計の内容次の如し

鐵鋼材	五、一〇〇、〇〇〇馬克	(一、二〇八、七〇〇弗)
金物	一、八〇〇、〇〇〇 "	(四二六、六〇〇弗)
電器具	四、一〇〇、〇〇〇 "	(九七一、七〇〇弗)
其他の機械	五、二〇〇、〇〇〇 "	(一、二三二、四〇〇弗)

賠償品の主なる買手は佛蘭西、佛領殖民地、伊太利及ユーゴスラビヤなり、而して賠償引渡品の主なるものを軌條、及其他各種の鋼材、デーゼルエンジン、タイナモ及タイプライターなり

以上、アイアン・エーザ一九二九年四月十一日所載

年十萬噸能力の新波蘭鋼管工場

漢堡三月十七日

上部シレジアのビスマルク製鋼會社は新マンネスマンチューブ工場の操業を開始せるが其の生産する鋼

5
1

管は長さ百呎、直徑七〇糎にして工場の生産能力は年十萬噸なり、而して其の産額の約三分の二は之れを外國市場に向け得るが爲め波蘭は輸出貿易上に一大發展を呈するに至るべし、尙獨波通商條約には鋼管を含まざるを以て其の産額の剩餘は何れの外國市場に於ても處理することを得、ビスマルク製鋼會社は目下新鑄鐵爐を建設中なるが完成の曉には其の鋼産額は年四十萬噸を増額するに至るべし

タタ鐵鋼會社歐洲に六ヶ所の販賣所を置く

本紙三月廿八日の紙上に報じたる通り印度のタタ鐵鋼會社は大陸市場に鑄物鉄を供給しつゝ、あり LUDs ine 紙の所報に依れば The European Sales Company はタタ鑄物鉄輸出株式會社として知られ年二五、〇〇〇噸乃至一七五、〇〇〇噸の鑄物鉄を獨逸、伊太利其他の諸國に於ける消費者に供給する目的を以て歐洲に六ヶ所の販賣所を設置したり、印度タタ鉄の輸出額は、逐年増加し一九二五年は二八七、六〇〇噸一九二七年は三八三、九六〇噸、及一九二八年は約四二八、〇〇〇噸に達せり

支那のシガレット製造業者亞米利加の鋳力板を使用す

ワシントン三月廿六日

商務省製鐵課の報に依れば、昨年支那に供給せる亞米利加の鋳力板は主としてシガレット工場並に鑄造業に依りて消費せられたり、同年中亞米利加の製造業者は亦ワイヤーネールの市場にも侵入し白耳義及獨逸と競争を試み大量の取引を獲得したり、尙支那に於ける其他の鋼材市場にも手を延ばしたるが本年の取引状態は有望視せらる

昨年の濠洲鋼産額減少

ワシントン三月卅一日

一九二八年に於ける濠洲の鐵鋼産額は一九二七年に比し減少せり、鉄鐵の産額は八八、一二七噸を減じて四一〇、八七三噸、鋼は一、九六九噸を減じ四一〇、〇三二噸を算したり、濠洲産額の九割を占むる二大會社の一を The Broken Hill Proprietaries Co., Ltd. 他を Australian Iron & Steel Co., Ltd. となし成し前者の一九二八年に於ける鉄鐵産額は三〇四、七七三噸、後者の産額は一〇六、一〇〇噸を算したり而して前者の鋼産額は三四三、二三一噸後者の分は六六、八〇〇噸に達せり、産額は一般的に減少を見たるも、ブロークンヒル會社は、昨年中工場の擴張を行ひ又オーストリア鐵鋼會社は在ケンブル港の大工場の作業を開始したり

昭和三年日本の鋼産額レコードを作る

ワシントン三月廿六日

東京發商務省着の報に依れば一九二八年に於ける日本の鐵鋼產額はレコードを作れり次の如し

鐵	塊	一、五〇七、七六四噸
鋼	塊	一、八六七、〇五三噸
壓延鋼材	材	一、六六八、一四六噸

以上、アイアン・エーザ一九二九年四月四日所載

備考

昭和三年壓延鋼材產額は一、六五八、一四六噸

昭和三年鋼塊產額は一、八六七、〇五五噸

にしてアイアンエーザ所報の數字に僅かの誤植を見る、尙鉄鐵數字は朝鮮滿洲の分を含む一譯者

鐵鋼市況

英國鉄鐵市場活況

(アイアン・トレード・レヴィウ誌二月二十一日號抜萃)

國內並に輸出取引共に發展一相場強含み一四八、五〇〇、〇〇〇弗の希臘開墾計畫シエフィールド地方商會に於て引受くる一佛白兩市場靜穩一獨逸輸出取引増加

倫敦二月十九日

英國鉄鐵相場は更に強含みにして先週中に於て二基の豫備の熔鑪火入されたり。國內並に輸出取引は擴大を見つ、あり。造船用鋼板の相場は不變なれども高昇の傾向を示しつ、あり、北西海岸地方に於ける工場は三月半迄分の注文を充分に把持す

バーミンガム地方に於ける建築用鋼材取引は活氣なきも、セイロン鐵道當局に於ては英國筋の間に二五六輛の貨車建造注文契約を結びたり。シエフィールド地方一商會に於ては希臘に於ける一千萬ポンドの開墾灌漑工事契約を締結したり、而して其の結果は該材料に對する多量の契約を必要とするに至るべし。四年間沈黙したりし北部リンカーンシャー地方製鋼工場は事業再開始を見るに至れり。鉄力板相場の高昇は目下豫期せらる。亞鉛引鋼板製造業者の多數は三月迄の先物賣を了せり

5
14

一月中英國に於ける鉄鋼輸入額は十二月中に於ける一八三、六六八屯及十一月中に於ける二三二、七六七屯に對し二四四、二六七屯を算す、更に一月中に於ける英國鉄鋼輸出額は十二月に於ける三五八、七四三屯及十一月中に於ける三九九、四四七屯に對し四二一、一九一屯に上る

巴里よりの報道は氣候寒冷のため事業の妨害なるもの多きを報ずるに同時に原料相場は上昇の傾向を採りつゝあり、白國に於ける鉄鋼市場は靜穩にして伯林よりは該國に於ける輸出取引業の擴大しつゝあるを報ずるに共に聯合製鋼會社がこれが輸出取引業の半を占めつゝあるを報ず

英國鉄鋼取引業に於ける恢復

(アイアン・トレード・レヴィウ誌二月十四日號抜萃)

中央銀行公示割引歩合の高昇は事業取引界の發展を妨げんとする傾向あり、製鋼工場方面に於ては多忙状態に在り、獨逸輸出向注文増加、佛白兩國市場活況にして強調、英國に於ける一月中鉄鋼産産額増加を示す

倫敦二月十二日

英國取引業界は強調を示しつゝ、あるも銀行割引歩合の高昇は事業界の活氣を阻むの傾向あり、鉄鐵に對する需要は良好なり、ヘマタイトは強調にして佛國、獨逸、白國及合衆國に對する輸出を見るの好況にして豫備の鋸鑛爐に火入を見るの狀況なり。製鋼工場方面に於ける業態は殷盛なれども新規注文は僅少な

り。蘇格蘭市場は依然不満足なる状態を持續しつゝあり

英蘭土北部地方に於ては鋼材の取引は活況にして造船業界に於て特に著し。亞鉛引鋼板は強調にして販路は主としてオーストラリア及ニュージランドに、鉄力板に對する需要には相當のものあり

伯林よりの報道に依れば獨逸に於ける輸出向取引は發展を見つゝ、あるも國內市場の靜穩なるを報ず。ブラッセルよりの報道は鉄鋼市場の強調を報ずるに共に、シートバー一千屯口の販賣、アントワープ渡し屯當り五磅三志(二四・九七弗)を以てなされたるを報ずるも其の他の半成品は品薄にしてワイヤーロッドは神戸着値七磅十八志六片(三八・四二弗)を以て日本に販賣されたりを報ず。佛國に於ける市場は活況にして製鋼業者側に於ては中歐地方に於て取引誘導に力めつゝあり

一月中英國に於ける鉄鐵生産額は昨年十二月中に於ける五四〇、四〇〇屯及十一月中に於ける五四四、〇〇〇屯に對して五五〇、〇〇〇屯に達し作業中高爐數は一月末に於て一三八基を算し六基の増加なり、更に一月中に於けるスチールインゴットの生産額は昨年十二月中に於ける六八三、一〇〇屯及十一月中に於ける七六二、五〇〇屯に對し七五〇、〇〇〇屯なりとす。一月中に於けるミッドルズボロー地方よりの鉄鐵輸出額は昨年十二月中に於ける九、三三三屯に對して一〇、六一三屯を概算する

獨逸に於ける鉄鋼貿易良好

伯林一月十四日

獨逸に於ける製鉄製鋼工場の六十五%は十一月中に於て作業休止をなしつゝ、ありしも、スチールの輸出額(スクラップを含む)十月中に於ける三八二、〇六五屯に對して尙よく三七七、五五七佛屯を維持したり右の中主たる輸出品は左の如し

バー、形鋼、フープ、バンド	八五、二〇〇屯
プレート及シート	三八、九六二屯
ワイヤーロッド及ワイヤー	三三、五八三屯
軌條材料	二七、〇七六屯
フオージド、チューブ	二三、八一二屯
半成品	二一、五八三屯
キャスティング	一六、八〇一屯
フオージング	一一、八五一屯

而して十一月中に於ける輸出スクラップの屯数は三七、五七八佛屯なりとす

更に十一月中に於ける鉄鐵及合金鐵の輸出額は十月中に於ける三三、六二五屯に比して三三、六一四佛屯にしてこの鉄鐵及合金鐵の十一月中の輸出額は年内に於ける第二最高レコードとす

輸入品の主たるものはバー、形鋼、フープ及バンドの五五、一四四屯及半成品の一七、〇五七屯とす、而して輸入スクラップは一五、五二〇佛屯とす
輸出入額比較表を示せば次の如し

月當り平均	輸 入		輸 出	
	鉄 鐵	鉄鐵以外の鐵及スチール	鉄 鐵	鉄鐵以外の鐵及スチール
一九二五年	一七、一九〇	一〇三、五二五	一八、五四〇	二七七、一九〇
一九二六年	九、二三〇	九五、八九〇	四二、七三〇	四〇二、九〇五
一九二七年	二三、八九五	二一七、五〇五	二九、九一〇	三四七、六四五
一九二八年一月	二七、四九三	二二四、八九九	一三、八七九	三四九、一四七
二月	二三、〇八六	二二七、二三八	二一、五七九	三六九、一九七
三月	一九、〇六八	二二九、二六七	二六、四八八	四〇八、三一〇
四月	二七、一一三	二一九、二九八	一九、五八三	三九二、三二七
五月	二六、七四二	一五九、七〇八	一八、四四五	三八〇、〇二五
六月	三一、四二二	一四五、七八三	二〇、六二八	四三二、六〇三
七月	二九、七六五	一五三、〇〇五	二三、五五七	四四二、五二八

八月	三五、九九四	一六〇、〇六九	三〇、三二〇	四七五、五三七
九月	二六、四四三	一五〇、〇六八	三〇、三〇一	四五〇、三四六
十月	二七、九〇九	一三七、一二四	三三、六二五	三八二、〇六五
十一月	一八、四九二	一二四、一〇九	三二、六一四	三七七、五五七

白國トレード、アントナント活動、スチール市場
強調にして有利

ブラッセル一月二十五日

白國鉄鋼市場は依然強調なれども相場の上には更に高昇するものあるを認めずして現在相場は充分に高値なりを思考せらる。先週中に於ては新規取引は幾分の減少を來し本年初めに認められたるが如き高調子の活氣は幾分の下火ミなれるを認む。單に數日間に止りたるアントワープ波止場人足の罷業の結果は波止場運賃の上に増額を來したり。石炭工業界に於ける現狀はシンデケート形成以來恢復の徴候を示しつゝ、ありて相場の上に於ける高昇やがて決定を見るべく期待さる。

白國鉄鋼コムプトラーは今や構成を終り三月一日より活動するこころなれり。含燐鉄の輸出に對する佛白、ルクセムブルグアントナントは假りに現在の構造を維持するも結局は純粹なるシンデケートに變更さ

る、に至るべしを期待せらる。半成品に對する取引量は僅少なり、獨逸筋よりブルームの提供を申出でたりを報ぜらる。六吋ブルームは相場四磅十三志(二二・五五弗)にして二吋ピレットは五磅一志乃至五磅二志(二四・四五乃至二四・七五弗)相場にして建築用鋼材市場は強含みにしてビーム相場は五磅三志六片(二四・九〇弗)英國型のもの五磅五志(二五・五〇弗)をす。マーチャントバーは相場六磅四志(三〇弗)に達したるも實際取引は六磅三志(二九・八〇弗)及前記六磅四志(三〇弗)との中間を辿る。三耗シートは依然六磅十一志六片(三一・八五弗)を持續す

近來ワイヤードシンデケートは其の期限満了日たる六月末日を以て解散すべしとの風評専らなりしなり、因に該シンデケートは其の期限満了前に於てワイヤード製品製造業者間に於てシンデケートの組織さるゝ事を前提せしものなるこころを想起せざるべからず、然れどもワイヤードシンデケートは最新され其の内にワイヤード製品組合の組織についての商議進行しつゝあるものこゝに一般に期待せらる。

英國鉄鋼相場強固

(アイアントレード レグイウ誌二月二十八日號抜萃)

ミッドランド地方相場高昇、ミッドルズボロー地方よりの移出増加―製鋼工場も亦活況―獨逸鉄鋼業靜穩にして作業は全能力の六〇乃至七〇%なり―歐洲軌條製造業者協定更新

倫敦二月二十六日

英國銑鐵相場恢復を見つゝあり。ミッドランド地方相場は屯當り一志六片(三六仙)方高昇を示す。石炭業界に於ても異常の發展恢復報道せらる。

ミッドルスポロー地方よりの銑鐵移出額は昨年比し多量にして大陸方面に販賣さるゝもの少からず、ミッドルスポロー地方鋼材取引業は殷盛にして特に造船材料に於て著し。バロー地方軌條取引業は活氣を呈す

亞鉛引鋼板の新規取引額は減少を示すも輸出額は依然として満足すべき状態にあり、鋳力板市況は靜穩にして注文は大陸方面より來りつゝあり

伯林よりの報道に依れば獨逸銑鋼工場の作業状態は平均六十乃至七十%なりと報ず、而して國內並に輸出方面共に取引事業は主として氣候寒冷なりしたため最近數週間内に比して靜穩なり、而して白國に於ては新規なる取引減少を報ずるも各製鋼工場は充分の注文を把持し居りて相場は強調を維持す。白國銑鐵コムプトアーは三月一日を以て其の働きを初むるに至るべし。シートバーは相場高昇を示し屯當り五磅七志(二五・九三弗)を示しつゝあり。佛國銑鐵工業に於ける現状は満足すべき状態に在り。歐洲軌條製造者組合の協定更新は期待さる

佛國一九二八年中に於ける銑鐵生産額はレコードを示す

巴里二月四日

一九二八年中佛國銑鐵生産額は同國工業史上最高レコードを示せるものにして一九二七年中に於ける九、二九七、四一五佛屯に對して一〇、〇九七、〇〇〇佛屯にして八・七%方の増加なりとす、而して最高生産月は十二月にして十二月中に於ける生産高は、鹽基性轉爐用銑六九二、〇〇〇屯、含磷鑄物用銑一〇八、〇〇〇屯、含磷可鍛用鼠銑五、〇〇〇屯、ヘマタイト鑄物用銑三七、〇〇〇屯、ヘマタイト・フオージ・ピッグ・アイアン一九、〇〇〇屯、合金鐵一九、〇〇〇屯なりとす

一九二八年中佛國スチールインゴット及キャスチングの生産額も亦從來のレコードを超過し一九二七年中に於ける八、二七五、二九七屯に對し九、三八七、〇〇〇佛屯にして一二・五%方の増加にして同年中のレコード月は十月にして八三四、〇〇〇屯なりとす。十二月中生産額はインゴット八一二、〇〇〇屯、キャスチング一六、〇〇〇屯にして鹽基性轉爐鋼五七五、〇〇〇屯、平爐鋼二三四、〇〇〇屯、電氣爐鋼一二、〇〇〇屯、酸性轉爐鋼五、〇〇〇屯、坩堝鋼一、〇〇〇屯なりとす

生産額比較表を示せば左の如し

月當り平均	末日現在作業中高爐數	銑	鐵	スチールインゴット及キャスチング
一九一三年	一三一基	四三三、	九四〇	三九〇、
一九二五年	一四八基	七〇七、	八四〇	六二〇、
				五四〇

巴里二月四日

一九二八年中佛國骸炭生産總額は一九二七年中に於ける四、〇六八、二〇八屯に對して四、三九九、九三二佛屯に達す、而して最高生産月は一九二八年十二月中なりとす

十二月中輸出中主たるものは伊太利向三六、二二七屯、瑞西向一〇、七八八屯、其他白、ルクセンブルグ及西班牙等とす

生産額輸出入額比較表を示せば左の如し

月當り平均	生産額	輸入額	輸出額
一九一三年	三三五、六二〇	二五五、八三五	一七、〇八五
一九二五年	二五五、四一〇	四一六、八八〇	三九、四四〇
一九二六年	三一三、九五〇	四六二、九一五	三九、三二〇
一九二七年	三三九、〇一五	三九五、五八〇	三三、四三〇
一九二八年	三六六、六六〇	四四七、三三〇	三四、八一〇

佛國骸炭生産總額増加

計

一〇、〇九七、〇〇〇

九、三八七、〇〇〇

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一九二六年	一五五基											
一九二七年	一四二基											
一九二八年	一五三基											
一九二八年一月	一四四基											
二月	一四九基											
三月	一四九基											
四月	一五〇基											
五月	一五〇基											
六月	一四八基											
七月	一四八基											
八月	一五〇基											
九月	一四九基											
十月	一五〇基											
十一月	一五二基											
十二月	一五二基											

七八五、九六五

七七四、七八五

八四一、四一五

八〇八、〇〇〇

七八四、〇〇〇

八五七、〇〇〇

八三四、〇〇〇

八六八、〇〇〇

八四三、〇〇〇

八三六、〇〇〇

八五八、〇〇〇

八二一、〇〇〇

八五七、〇〇〇

八五〇、〇〇〇

八八〇、〇〇〇

七〇二、五〇〇

六八九、六一〇

七八二、九九五

七五三、〇〇〇

七三八、〇〇〇

八〇六、〇〇〇

七三六、〇〇〇

七九四、〇〇〇

七九七、〇〇〇

七五一、〇〇〇

七九三、〇〇〇

七五七、〇〇〇

八三四、〇〇〇

八〇〇、〇〇〇

八二八、〇〇〇

一九二八年一月	三五七、四七五	四七三、〇一八	二五、八四〇
二月	三四三、一八六	四一一、四五五	二三、一一九
三月	三六九、三六〇	四四五、六五六	一五、三二四
四月	三六〇、四四六	四八二、五七五	二二、六八九
五月	三六七、七二五	五二六、五九三	一一、三六六
六月	三六〇、一四一	四八九、一四四	三〇、五〇七
七月	三七〇、二五九	四二七、二九一	四二、三四二
八月	三六三、五七九	四四五、二九九	四七、二四三
九月	三五四、四一一	四二五、〇七三	四四、二四〇
十月	三八六、二二九	四〇五、八八九	四五、一八三
十一月	三七九、七〇一	四一八、五八五	五七、五〇五
十二月	三八七、四二〇	四一七、三六九	五一、四一五
合計	四、三九九、九三二	五、三六七、九四七	四一七、七四三

白國銑鋼輸出入額増加

ブラッセル二月八日

一九二八年十一月中に於ける白耳義ルクセンブルグ經濟聯盟の銑鋼輸出入額を見るに銑鐵の輸入額（スクラップを含む）は最高レコードを示すと同時にスチール（スクラップを含む）の輸入額も亦最高レコードに達せり、而して輸入スチールの主たるものはブルーム、ピレット、スラップ及マーチャントバーにして、これのみにて一七、一八四屯に達す

輸出入比較表を示せば左の如し

月當り平均	輸入額		輸出額	
	銑鐵	スチール	銑鐵	スチール
一九二五年	二七、〇九五	一五、八六〇	八、〇六〇	二四二、三二五
一九二六年	二七、五〇五	二七、二六五	一三、一〇五	三〇四、〇七五
一九二七年	三一、七六〇	二七、七一五	一一、三五〇	三八七、四一五
一九二八年一月	三七、六二五	三四、三五七	六、七九三	二八九、八五四
二月	四〇、二九三	三七、四八一	七、九五二	四〇一、五〇二
三月	四三、六一二	三一、二九四	一一、九七一	四五八、三七七
四月	三六、七六九	二九、二〇三	九、五八三	三二五、七二八

白國鋼材市場活況にして半成品は不足にして高相場

ブラッセル二月八日

白國鉄鋼市場は満足すべき状態にありて、先週中に於ては著しき相場の變更を見ず、但し半成品は例外にして該品に對する需要は市場に供給し得べき屯數を遙に凌駕す。英國筋よりの取引引合は多量に上るも新規注文を獲得せる商人は僅少にして唯五磅三志(二五弗)を以て販賣されたるシートバー一千屯口は例外をなす。最近に到りて買手は五磅五志(二五・五〇弗)を申出づるものもあるも引受け手なし。六吋ブルームに對する四磅十五志(二三・〇五弗)の申出値に對しても引受け手なく、二吋ビレットは單に少量づ

五月	三六、五〇六	三一、九七一	一五、三一七	三三八、〇五二
六月	四四、三一四	三三、七九三	七、四八四	三八二、七〇〇
七月	四二、三〇五	三五、四〇九	七、三六七	三四四、九七七
八月	四五、五八九	三九、三二九	七、七一六	二九四、七八一
九月	五二、七八四	三九、二二三	五、一八九	三二一、七三一
十月	五五、一七三	四五、四八一	六、二五九	四三二、一三一
十一月	五六、九〇〇	四七、一六四	七、四二五	三四九、一九一

つ獨逸より入手し得るのみ、従つてビレット相場は單に名目のみにして五磅三志六片(二五・一〇弗)の唱へ値にしてスケルプは六磅五志(三〇・三〇弗)なりとす

マーチャントバーの取引は靜穩にして相場は依然として約六磅四志(三〇弗)を示し六磅五志(三〇・三〇弗)を要求する工場に對しては買手なし。ビーム相場は普通型五磅一志六片(二四・六〇弗)にして英國型五磅三志(二五弗)なりとす、而して茲に注意すべきは以上の如き相場は實にビレット相場以下なることなりとす。プレート相場は十六分の三吋六磅六志(三〇・五〇弗)三十二分の三吋シート六磅十四志(三二・五〇弗)にして十六分の一シートは六磅十六志(三三弗)一耗亞鉛引鋼板は十三磅(六三弗)なりとす

ワイヤーロッド・シンヂケートは輸出向標準相場を六磅五志(三〇・三〇弗)に決定したるも此の相場は向地に従つて變更さるべきものとす。日本向相場は神戸、横濱、香港着値七磅十八志六片(三八・六〇弗)にして上海及大阪向には屯當り二志六片(六〇・〇〇仙)のエキストラを附す、而して此等の相場は鹽基性轉爐鋼に對するものにして特別鹽基性轉爐軟鋼に對しては三志(七三・〇〇仙)方のエキストラを附し、平爐軟鋼に對してはエキストラ八志(一・九四弗)にして特別平爐軟鋼はエキストラ一五志(三・六四弗)とす。サイズに關しては以上の標準相場は直徑六耗以下のラウンドロッドに對するものにして六及八耗の間のサイズに對しては二志六片(六〇・〇〇仙)方のエキストラにして、八及十三耗間のものに

5
14

對しては五志（一・二一弗）方のエキストラなりきす、而してステアアロードに對しては更に五志（一・二一弗）方の追加エキストラを附す

石炭市場に於ける恢復は依然として繼續しつゝありて、工業用石炭に對する需要は活況にして相場は一月中に比して高價を示す、即ち五フラン（一四・〇〇仙）方の高昇なり、石炭の供給は今や制限を受けつゝあり。

歐洲市場更に靜穩

（アイアン・トレード・レヴィウ誌二月七日號抜萃）

英國ミッドランド地方に於ける價格統制上の努力は状態を混亂せしむる重量物鋼材取引業恢復をみつゝあり、黒板及亞鉛引板に對する需要活潑、獨逸に於ける國內取引及輸出取引業發展を見つゝあり

倫敦二月五日

ミッドランド地方産鉄鐵狀況は價格統制計畫のために混亂を見つゝあり、重要物鋼材取引業は恢復を見つゝありて北東部地方に於て特に著しきものあり、車輛に對する注文は減少を見たり

ヴルカン鑄物會社に於ては最近印度より機關車用ボイラー六十基の注文を獲得せり、バロー地方製鋼工

場に於ては多忙状態なれども新規なる注文は稀少なりきす

スタフオードシャー地方に於ける鐵製品取引業は近來に於て大いに恢復を見つゝあり、國內向並に國外輸出向共に黒板及亞鉛引鋼板に對する需要は大いに活氣を呈しつゝあり。鉄力板市況は靜穩なれども主たる英國製造家側に於ては取引引合の増加を期待しつゝあり

獨逸に於ける國內並に輸出向取引は擴大を見つゝあり、日本はワイヤアロードを購入しつゝあり

佛白市場は更に沈靜の度を増加しつゝ、あるも相場は強含みにありて前途希望あり、和蘭陀に於ては鋼板の需要盛なり

佛國鋼材市場は前途希望充滿

巴里一月十八日

佛國に於ける鉄鋼取引業の状態は満足すべき状態に在り、目下ボアンカレー内閣は賠償問題及ドーズ案の改正問題が決定を見るまでは現地位を保つべしと期待されつゝあり、勿論該問題は政治的觀點より見るべきもののみならずして經濟界に及すべき重大なる影響を有する點よりするも重視せざるべからざるものなりきす

Loucheur 氏建築計畫は實施期に入らんしつゝ、ありて多量の鋼材取引引合巴里地方に於てなされつゝ、

あるを見る。海軍造船計畫の通過によりて造船業界に於ける活氣恢復豫期せらる、自動車工業は活氣を呈しつゝあり、以上の如き諸原因よりして見るに、佛國に於ける鉄鋼業界は實に活氣ある年を實現するに至るべく一九二八年中に比し注文量は大きいに増大を見るに至るべし

價格に關しては現在の相場は更に大いに高昇すべしは豫期されず且コムプリアに於ても不合理なる相場高昇の傾向に對しては調節的の力を振ふべく豫期せらる。前週中に於てワイヤード・コムプリアは該商品に對する需要の著大なるに拘はずワイヤード標準相場の高昇を是認するここを避けたり

ヘマタイト 鉄製造業者は從來國內的組合組織の形成を斷然拒絶し至りしも、本年十二月三十一日迄彼等の協定を更新せり、他方ヘマタイト鉄に對する輸出向シンヂケート組織に對しては商議繼續されつゝあり
マーチャントバー相場は大いに強含みにして東部地方に於ては相場は七四〇フラン乃至七六〇フランにして北部地方に於ては平均七六〇フランなりとす。プレート及シートに關するシンヂケート組織に關しては今尙商議進行中なり、目下厚板相場は八三〇フラン乃至八四〇フラン（三二・三五弗乃至三二・七〇弗）にして、中板相場は八七〇フラン乃至九二〇フラン（三三・九〇弗乃至三五・八五弗）なれども薄物相場は一・二〇フラン乃至一・二〇〇フラン（四三・七〇乃至四六・七五弗）なりとす。ワイヤード製品市場は強調にして建築用鋼材シンヂケートは其のビーム相場の變更を加へざりしも半成品の相場には變化ありてスラップに對しては屯當 三十法（一・一七弗）、シートバーに對しては二十五フラン（九〇仙）方の値

上げを決したり

獨逸聯合製鋼會社の現状

倫敦一月十八日

獨逸聯合製鋼會社は其の成立以來大進展を續けたり、即ち石炭、骸炭、副産物鉄鋼の生産額を増加し輸出額を増し同時に生産費に於て大なる經濟主義を發揮せり、蓋し秩序ある組織にして決定的の好果を招來せるもの炭坑業に於けるより甚しきはなかるべし、即ち此の結合組織以前たる一九二六年に於ては五十一の炭坑に於て月當り生産額石炭約二、二〇〇、〇〇〇佛屯なりしもの一九二八年十月に於て三十四の炭坑にて二、三一六、〇〇〇屯を生産するに至れり、而してこの結果は不經濟的なる坑の閉鎖に有利なる地位にある炭坑に於て最新式の方法を採用せることによりて得られたるものとす、此等炭坑に於ては過去二ヶ年間に於て生産額五〇%方の増加を來せるのみならず同時に従事勞務者の數も亦減少を來せり、即ち一九二七年三月三十一日現在に於て勞働者數は八九、七一人なりしもの、一九二八年十月一日迄に於て八二、四〇四人に減少せり、同期間に於て従事職員數は五、一四八人より四、九八八人に減少を見たり、即ち一交代當り一人當り生産額は一九二六年に於ける一、一七一キロより一九二八年末に於ては一、二七五キロにまで増加を見たり

他方骸炭生産額に於ても著しき進歩を示せり、其の成立以來聯合製鋼會社の炭業に注入せる資金は約一〇〇、〇〇〇、〇〇〇マーク（二八、八三〇、〇〇〇弗）にしてこの大部分は骸炭爐改良建設のために使用されたるものとす。この會社は其の設立後二年半の間に於て年産約五、〇〇〇、〇〇〇佛屯の能力を有する八九四基の骸炭爐を建設せり、而してこれに加ふるに舊きもの四、二九三基あり、因に新規のものは舊式のものに比し遙に巨大にして舊式のもの、生産能力一、八〇〇屯に對し五、〇〇〇屯の能力を有するものにして、或者は年間一〇、〇〇〇屯を生産するものさへありとす、即ち新工場は一人當り一交代生産額に於て三倍の増加となるが如きものなりとす、而して新なる骸炭爐は石炭坑に近接し居りて且銑鋼工場にも近くために運賃の點に於て著しき節約を得ることなるものなり、而して副産物は該會社自身多大の持株を有するルール瓦斯會社及ルールケミカル會社の手により大いに市場に出されつゝありて一大副収入の源をなす。骸炭工場改良の工程は殆ど完成し年産能力は一、〇〇〇、〇〇〇佛屯を超過するに至るべし最近に於て點火さるべき最後の骸炭爐團はドルトムント及ネルデ工場のものにしてこは歐洲最新式のものなりと稱せらる。

聯合製鋼會社の銑鐵爐に於ける發展は主としてドルストフェルトに於て發見することを得べく、該所に於ては新式高爐の建設を見る。此等高爐は理論上七五〇乃至八〇〇屯の能力なるも事實上、一日一、〇〇〇屯を生産するものなり、而して此等は能力三五〇屯を超さざる高爐に代りしものなり、而して新工場は

五基より成り中四基は名目上の能力七五〇屯にして他は八〇〇屯なり

歐洲鋼材市場前途活氣

（アイアン・トレード・レヴィウ誌四月四日號抜萃）

英國熔鐵爐方面に於ては銑鐵生産額を増加しつゝあり、骸炭及スクラップ品薄、鋼力板に對する需要旺盛、クライド地方に於ける運船業者は殷盛なるレコード月を享樂す、佛國輸出相場高昇、季節的活氣擴大す

倫敦四月二日

英國銑鋼市場に於ける本年第二期の三ヶ月は良好なる前途を示して其の一步を始めたり英國に於ては各地方に於ける銑鐵不足を補足する爲め豫備の高爐に轉火されつゝあるを見る、骸炭は品薄にして相場は高昇を示しつゝあり。鋼力板に對する需要には其の生産者側に於ける相場引上げ決定に基因して著しき恢復を見る

英國鋼力板工場は第二四半期間分の注文を有しつゝあり。スチール、スクラップの品薄なるは市場に於ける重大なる作用をなすものと云はざるべからず。三月中に於けるクライド地方造船業者の業績はレコード月にして本年最初の三ヶ月間に於ける注分量は事業開始以來第三位の好景氣なりとす

佛國に於ける輸出相場は國內に於ける需要増大に基因して高昇を示しつゝあり、半成品の販賣高は活潑にして鹽基性鉄鐵の賣行白國に於て著しきを報ぜらる。獨逸に於ける季節的好景氣の結果は建築用材に對する多大の注文を催しつゝあり、獨逸に於ける鉄鐵國內市場は活氣大なれども輸出は芳しからず成品は強含みなり

白國鉄鋼生産額レコードを破る

ブラッセル三月五日

白國に於ける鉄鋼工場は總べての從來の生産レコードを破りつゝ、其の本年の第一歩を踏出したたり、一月中に於ける白國鉄鐵生産額は一九二八年十二月中に於ける從來の最高レコードたる三四五、二八〇屯に對し三五〇、六八〇佛屯を示すに至れり

一月中に於けるスチールインゴット及キャスチングの生産額は一九二八年十二月中に於ける三三三、三二〇屯及從來の最高レコードたる一九二八年十月中に於ける三五六、三五〇屯に對し實に三五七、〇一〇佛屯を示すに至れり、而してこの一月中のものはスチールインゴット三四六、八二〇屯、スチールキャスチング一〇、一九〇屯にして共に其の生産高の點に於てレコードを構成するものなり。一月中に於ける成品の生産額は三一三、〇〇〇佛屯にしてこれも亦レコードをなすものなり、因に一九二八年十二月中の生

産額は二八七、七九〇屯及從來の最高レコード月たる同年十月に於ても其の三〇九、六〇〇屯なりしなり生産額比較表を示せば左の如し(單位佛屯)

月當り平均	該 炭	作業中 高爐數	鉄	鐵	スチールインゴツ ト及キャスチング	成 品
一九二三年	二九四、〇〇〇		二〇七、〇五五	二〇五、五五〇	一五四、九二〇	
一九二六年	四一三、〇〇〇		二八三、二七〇	二八一、一六〇	二三一、八一〇	
一九二七年	四四八、八八〇		三二二、六二〇	三〇九、〇四〇	二五五、一八五	
一九二八年	四九三、八八五		三二五、四四五	三二七、八七〇	二八一、一二五	
一九二九年一月	五一三、五五〇	五六基	三五〇、六八〇	三五七、〇一〇	三一三、〇〇〇	

獨逸鉄鋼貿易旺盛

伯林三月十九日

一月中獨逸よりの鉄鐵及鐵合金の輸出額は一九二八年十二月中に於ける二三、九九四屯に對し三一、八二〇佛屯を算するに至れり、因に輸出スチール中主要なるものは左の如し

バー・形鋼・フープ及バンド	九四、一七八屯
ワイヤードッド及ワイヤー	四三、一六八屯

巴里三月十三日

佛國一月中鐵鑛石探掘高は昨年十二月中に於ける四、〇四二、一五七屯及從來の最高レコード月たる昨年十月に於ける四、五〇九、二五二屯に對し四、五三五、二八二屯にして新レコードをなす、比較表を示せば左の如し(單位佛屯)

月當り平均	生 産 高	月末現在ストック
一九一三年	一、八二六、五〇〇	
一九二六年	三、二六九、〇三三	
一九二七年	三、七二三、二〇〇	
一九二八年	四、一〇九、七八〇	

佛國鐵鑛石生産額レコードを破る

一九二六年	九、二三〇	九五、八九〇	四二、七三〇	四〇二、九〇五
一九二七年	二二、八九五	二二七、五〇五	二九、九一〇	三四七、六四五
一九二八年	二五、五三五	一七四、二五〇	二四、五八五	三九四、五七五
一九二九年一月	二二、三三四	一五四、二九三	三一、八二〇	三八七、七六九

プレート・シート(ブラック)	三一、九四八屯
フォージド・チューブ	二三、一九〇屯
半 成 品	二三、〇〇八屯
軌條及全附屬品	二二、七三五屯
フォージング	一八、〇一四屯
スクラップ	四三、一五四屯

次に一月中獨逸に於ける鉄鐵及合金鐵の輸入額は一九二八年十二月中に於ける二一、七一九屯に對し二二、三三四佛屯を示す、而して主たる輸入品目を見るに左の如し

バー・形鋼・フープ及バンド	六一、五一〇屯
半 成 品	三六、六一五屯
軌條及全附屬品	一一、五八六屯
スクラップ	一四、七三九屯

因に輸出入比較表を示せば左の如し(單位佛屯)

月當り平均	輸 入 額	輸 出 額	
鉄 鐵	鉄鐵以外の 鐵及スチール	鉄 鐵	鉄鐵以外の 鐵及スチール

白國銑鋼貿易額増大

ブラッセル三月十九日

一九二八年中白國及ルクセムブルグよりの銑鋼輸出額は四、五六四、六八九佛屯にして四、四八三、〇六一屯なりし一九二七年の輸出額に少しく超過す、因に之等の數字にはスクラップを含まず、然れども銑鐵及合金鐵の輸出額に於ては著しき減少を見る、即ち一九二七年の一三五、〇一〇佛屯より一九二八年に於ては九八、八六三佛屯に減少を示すものなり、尙半成品に於ても著しき減少を見る所にして一九二七年中の輸出額九一一、八〇五佛屯なりしもの一九二八年に於ては僅に五八八、八五三屯に下落を見るに至れり、軌條及全附屬品も亦一九二七年に於ける三三二、〇九五佛屯より一九二八年に於ては二九一、六二二屯に下落を示すと共に鑄鐵管の輸出額も亦四五、〇四五屯より三一、五五九屯に下落せり

インゴットの輸出額は二四、六八九佛屯より三六、六九八屯に増加を示し、バー及形鋼も亦一、九八二、七八八佛屯より二、〇一一、五八一屯に増加し、ワイヤー及ワイヤーロードの輸出額も亦一九二七年中の二一六、四八四屯より三一九、〇八三屯にまで増加せり

プレート及シートの輸出額も亦殆んぎ倍加したり即ち一九二七年に於て三六八、九八四佛屯なりしに一九二八年に於ては六七五、二六〇屯を算するに至れり。スクラップに於ても亦増加を示し一九二七年に於て一九四、二〇〇屯なりしもの一九二八年に於ては二三四、九三七屯に増加を見たり

一九二八年中白國及ルクセムブルグに於ける銑鋼(スクラップを除く)輸入額は一九二七年中に於ける六四八、三三四屯に對し八九六、三四九佛屯を算するに至れり

一九二九年一月

四、五三五、二八二

二、六八三、〇八四

英國銑鋼市場活況

(フィアン トレード レヂイウ誌四月十一日號抜萃)

ミッドルスポロー地方よりの輸出額増加—低燐銑アメリカに輸出を見る—ヘマタイト輸出コムプト
 ア佛國に於て活動を開始—獨逸産ピレットはパーミンガム市場に於て二九・八二弗相場にして買氣
 を促進せず—鐵力板に對する注文は増加を示す

倫敦四月九日

ミッドルスポロー地方産銑鐵に對する需要は依然活況を呈しつゝ、ありて輸出向のものも多量に上り相場も強含みなり、而して三月中に於ける輸出額は總額一六、六八四屯に達し二月に比して著しき増加なり。ミッドランド地方に於ける銑鐵市場も亦満足すべきものありてバロー地方及東海岸地方に於けるヘマタイトも亦活況なり。大陸方面に於ける消費者は特殊銑鐵を購入しつゝ、あり。低燐銑アメリカに向つて輸

出せらるゝを見る。獨逸産ピレットはバーミンガムに於て六磅三志(二九・八二弗)を以て提供されつゝ、あるも、この相場を以てしては買氣を促進すること難し。ミッドルスボロー地方建築用材市場は強含みにして重量物鋼材に對する前途は活氣に溢つ

錫力板市場は活氣旺盛するも亞鉛引鋼板市場は沈靜なり

佛國に於てはヘマタイト輸出コムプリアの組織を見たり、而してこのコムプリアは四月一日よりその活動を開始せり。佛國鉄鋼市場は一般に強含みなり、白國市場も亦同様強含みにして支那よりの注文量は近來に至りて減少を見るに至れり。獨逸鉄鋼輸出貿易は恢復を見つゝあり

英國スチールメーカー本年第二の三ヶ月 間に於て多忙の業態を見ん

バーミンガム(英蘭土)三月二十八日

本週中に於ける市場は更に靜穩の度を加へたるも本年第二の三ヶ月間は前途活氣旺盛の前徵明なり、鉄鐵に對する需要の多きこはミッドルスボローに存在するドルマンロング會社のクレアレンス製鉄工場に於て豫備の高爐に火入をなしたるを見るも明なり。カーゴーフリート會社に於ても亦鹽基性鉄鐵製造用として一基の鎔鐵爐に火入を行ひたり、地方製鋼業者も亦鉄鐵の大部分を使用しつゝ、ありて一般市場に提供

さるゝものは極少量に過ぎず、而して三號鉄に對する最低決定値段は三磅七志(一六・二四弗)なり、而して六月以後渡しのものに對しては一磅十志のプレミアム要求せらる。骸炭の缺乏は依然として存在す、而してこの状態は豫備の骸炭爐に再點火することによりて救濟さるべきものなりと思料せらる

パロー地方に於ける鎔鐵爐十一基よりの全生産量は消費し盡されつゝ、ありて需要に應じ得ざるもの多し西部キヤムバーランド地方に於てはストックは制限せられつゝ、あるも、ファーンズ地方に於てはストックの影を見ず。注文は大陸方面より確實に來りつゝ、ありて佛蘭西、白國、獨逸に對し規則正しき輸出を見る。同時にアメリカに對しては低燐鉄の輸出を見る。ヘマタイト鉄に對しては其の需要の方面及價格の點よりするも従來二三年間に比し其の状態は良好なり。近來永らく沈靜なる市場を示し來りたる滿俺鐵は幾分の活氣を示すに至れり

ミッドランド地方に於ては一般に市況有望なりと思考せらる、特に半成品に於て著し。ピレットは六磅七志六片(三〇・九一弗)乃至六磅十五志(三二・七二弗)にして急激なる買氣を煽りつゝあり、而して唯一の競争者は獨逸なりとす

スタフォード地方製鉄業者は一週間の休日をなしつゝあり

錫力板に對する買手筋は生産費の漸次高まるため價格に關して神經過敏になりつゝあり。スチールバーは急激に相場高昇を來しつゝありて、スチールスクラップは品薄にして相場は昨夏に比して約十五志(三

・六三弗)方高し。數ヶ月間沈靜なる時期の後、鋼材製造業者は殆んぎ全世界市場より注文並に取引引合を受けつゝ、ありて相場高昇は切迫せること明白にして消費者は十八志三片(四・四三弗)の現在相場を以て取引をなさんご焦せりつゝ、あり、この相場は勿論最低値にして取引は實際十八志六片(四・四九弗)にまで上りつゝ、あり

重量物鋼材相場は不變なれども原料費の増加のため本年第二の三ヶ月間に於ては相場高昇の來ること明白なりご感ぜらる

白國鋼材市場活況

ブラッセル三月二十二日

最近のブラッセル鉄鋼取引所に於ける會合に於ては活氣の大いに増加せるを明に感ず、これ一部分内國需要の目覺めたる結果にして他方亦獨逸工業が再び市場に出現したる爲めにして亦國際レール・マニユフ・アクチュラス・アツソシエーションの會合の有利なる決定に基く所なりごす。過去數ヶ月間に亘りて獨逸はロツクアウト及ライン河の航行を妨げたる寒氣のため輸出市場に見えざりしが今や全部の落着をつけ輸出向のものも多數存在するに至りしなり。獨逸に於ては賣行を容易ならしむるため短期間の引渡を以て相當價格にて小形物及特殊型のもの、製作に従事しつゝ、あり、而して數週間前に於ては獨逸スチールバー

(ラウンド)は六磅五志(三〇・三〇弗)の相場を現したるも、目下フラットバーに對する獨逸の提供は四月―五月引渡にて輸出港渡約六磅三志三片(二九・九四弗)を以てなされつゝ、あり

國際レール・マニユフ・アクチュラス・アツソシエーションの會合は先週に於て開催されたり、而してこの會合に於て困難なる問題は解決されたり即ち特にこの問題は該アツソシエーションの更新に關するものにして今日迄に於ては單に該協定は六ヶ年間更新するものごなりしものご一般に解せらる、而してこの重要な決定はブラッセルに於ける取引所の會合に於ても満足すべきものなりご考へられたり。南米よりの買手は依然ごして重要なものあり

斯る事情の下に於て白國市場は強調を示し一般取引高は未だ差して著しきものにあらざるも取引引合は多數に達し、一週間前に於ては一般相場以下を以て販賣したる製造家は最早市場より影を没するに至れり鹽基性轉爐用鉄はアントワープ渡三磅六志(一五・九九弗)にしてビレットは主ごして獨逸筋よりの販賣を見る。シートバー相場は五磅六志(二五・六九弗)にして製造家に於ては五磅六志(二五・六九弗)以下を以てして注文に應ぜざるもの多數なり。六吋ブルームは四磅十七志(二三・四八弗)にして四吋乃至四吋二分のブルームは五磅二志(二四・七三弗)相場なり。バーは六磅三志六片(二九・九四弗)相場を以て販賣されつゝ、あり。普通型ビームは五磅六片(二四・三七弗)乃至五磅一志(二四・四九弗)にして英國型ビームは五磅三志(二四・九七弗)相場なりごす

統計

世界の鐵鑛石産額

一九二七年に於ける世界の鐵鑛石産額は大約一億七千萬噸に達したり、内合衆國は六二、七三二、〇四五噸を産し世界總額の約三割七分に相當す、佛蘭西の産額は合衆國に亞ぎ四五、六七〇、九二〇噸、英國一一、三八六、四六七噸、瑞典之れに亞ぎ九、六六〇、九七七噸を産したり。次表の數字は合衆國鑛山局の發表に係はるものにして同局タヴィス氏の編纂に屬せり、一九二七年の數字未だ不明なる二三の國の合計は之を前年と同様に見積れり、合衆國の産額は、前年に比し六百萬噸を減ぜるも佛蘭西は六百萬噸以上の増産を示したり、英國も亦、一九二六年の炭業罷業の解決に依り増産を示したり次表の如し

アイアン・エーザ、一九二九年二月二十八日
世界各國鐵鑛石産額（一九二六年—一九二七年）（佛屯）

	一九二七年	世界總計に對する比率	一九二六年	世界總計に對する比率
合衆國	六二、七三二、〇四五	三六・九%	六八、七〇八、三四九	四四・三%
智利	一、五一六、四四〇	—	一、四七六、三五五	—
ニューファウンドランド	一、三五六、八五一	—	八七九、六〇三	—

事故の原因 (坑内)	スコツト	北部	ヨーク	北ミツ	ランカシヤ 及北	カーヂ 及ニュー	スワ	ミツ 及南部	計
爆 發	一三	一七	一	三	一	一	一	一	三六

此程鑛山局より一九二八年中英國炭山の事故に因る死亡者概數發表せられたり、次表は炭山條例（一九二一年）に該當する一九二八年中の死亡者數を示す

一九二八年中英國炭山の事故に固る
死亡者數

The Iron & Coal Trades Rev., Feb. 15, 1929.

備考	(a) 一部見積	(b) 見積	(c) 大 約
チ ユ ニ シ ア	九一五、〇〇〇		
モ ロ ッ コ (西領)	八〇〇、〇〇〇		
其 他 の 國	一、〇五〇、〇〇〇		
總 計	(a) 一七〇、〇八〇、〇〇〇	(b) 一七〇、〇八〇、〇〇〇	(c) 一五五、一七〇、〇〇〇

洲	支 那	英 領 印 度	ア ルゼ ヲ ア	其 他 の 歐 洲	チ エ コ ス ロ バ キ ヤ	埃 太 利	露 西 亞	西 班 牙	獨 逸	ル ク セ ン ブ ル グ	瑞 典	英 國	佛 蘭 西	其 他 の ア メ リ カ	玫 馬
	(b)	(b)	(a)	(a)	(b)								(a)		
	九一七、五二六	一、六一九、〇〇〇	一、六八六、〇〇〇	二、〇〇四、一八九	一、四二一、〇〇〇	一、五九八、五七〇	四、八一六、七〇三	四、九六〇、三九四	六、〇〇四、八三六	七、二六六、二四九	九、六六〇、九七七	一一、三八六、四六七	四五、六七〇、九二〇	一一、二七〇、〇〇〇	四二一、五〇五
			一・〇%	一・二%			二・八%	二・九%	三・五%	四・三%	五・七%	六・七%	二六・九%		
		(b)		(a)										(a)	
	七五七、三八五	一、六一九、九二七	一、六八五、九二七	一、六二九、四二五	一、四二一、一七四	一、〇九四、三七二	三、四一五、二七八	三、一八一、五八九	四、五九四、九三七	七、七五六、二四〇	八、四六五、九一四	四、一六〇、一〇一	三九、四八〇、四〇〇	一一、二七〇、〇〇〇	五八七、三六九
			一・一%	一・〇五%			二・二%	二・一%	二・九五%	五・〇%	五・五%	二・七%	二五・四%		

棒 及 小 形	三、〇九九、一九一	三、四一二、六九六
フ	四六七、〇四一	五二二、一八二
線 材	一、一五〇、五七二	一、一四九、二一九
厚板 (四・七六mm以上)	八八四、〇四九	一、一六九、五九三
薄板 (三・四・七六mm)	二〇五、九二八	二三四、六三三
薄板 (3 mm以下)	八九二、〇〇五	八九一、九六一
鋁 力 板	一三五、七七九	一二八、三五七
チ ュ ー プ	八二八、二三二	七八七、四三九
鐵道車輛材料	一五九、八七七	二二三、五六四
可 鍛 物	二二五、一一三	二九五、七〇一
其 他	六五、〇一七	一〇七、五一五
合 計	一一、五六二、五九〇	一二、八六六、七七三

一九二八年 中端典の鐵鋼產額と輸出入 (噸)

一九二七年 一九二八年

地盤落下	四九	九七	九	五八	四七	七八	二八	四二	四九五
シヤフト事故	五	四	二	五	三	六	一	二	二八
運搬事故	二三	三五	三七	二四	二〇	五九	一三	一八	二二九
其他	二一	一六	一一	一三	九	八	一〇	一二	一〇〇
坑内計	一一一	一六九	一四九	一〇三	七九	一五一	五二	七四	八八八
坑外計	二一	一六	一七	八	一一	一一	八	四	九六
總計	一三二	一八五	一六六	一一一	九〇	一六二	六〇	七八	九八四
前年總計	一五八	一八九	一七四	一〇六	一一一	二〇一	八三	一〇六	一一二八

一九二八年 中獨逸の壓延鋼產額 (噸)

次表は、一九二八年中獨逸の壓延鋼材及可鍛物の生産を示す

販賣用半製品	一九二八年 一九二七年
鐵道材料	九二二、六二〇 九二二、六二〇
平鋼及8cm以上の形物	一、二七六、九五四 一、七五一、九六八
	一、一七八、六八〇 一、二七〇、三二五

鐵 鑛 石 一〇、七二六、〇〇〇 五、一二五、〇〇〇
 一九二八年中チエコ、スロバークヤの石炭、褐炭及骸炭の産額は三者共に大戦以來の最高記録を作れり
 次表は過去三ヶ年間の産額を示す (百萬屯單位)
燃料統計
 一九二八年中チエコスロバークヤの

	一九二八年	一九二七年	一九二六年
石 炭	一九二・八	一四・七	一四・五
褐 炭	二〇・八	二〇・〇	一八・八
骸 炭	二・三	一・九	一・五
石 炭	一五、一七一、四〇三 (炭坑數 九〇、坑夫、約五六、八〇〇人)		
褐 炭	二〇、八〇九、五六八 (〃 一八一、坑夫、約三八、五〇〇人)		
骸 炭	二、三二七、六八一		
尙輸出次の如し (單位千吨)			
石 炭			ブリクケット
骸 炭			
褐 炭			

十二月中及一九二八年中獨逸の燃料産額

次表は、十二月中及一九二八年中の燃料産額を一九二七年並に一九一三年の同期の産額に比較せるものなり (吨)

一九一三年	一、〇二六	九三一	六、五三六	一三七
一九二〇	一、一三四	一、一八四	三、四三〇	五五
一九二一	一、一二六	三〇一	四、五一二	一五五
一九二二	一、〇四四	三五七	三、四四〇	一四三
一九二三	一、七三六	六一九	二、一三三	一八四
一九二四	一、七三〇	四八六	二、八五七	一三三
一九二五	一、四三〇	四二二	二、六七一	一五一
一九二六	二、八八五	四九〇	二、九〇六	一四二
一九二七	一、八四四	七六二	二、九六二	一五五
一九二八	一、六九五	七八五	三、〇一八	一五五

以上アイアン・エンド・コール・トレードレピウ一九二九年二月八日

次表はユーゴスラヴィアに於ける瀝青炭褐炭の産額を示す (單位千噸)

一九一九—一九二七年ユーゴスラヴィアの
燃料産額

年	石炭	Brown Coal	Lignite
一九一九年	二一	一、六八二	五三七
一九二〇	六六	二、〇七七	七四五
一九二一	七八	二、二八二	七三二
一九二二	一〇二	二、六一六	一、〇一一
一九二三	一三六	二、九七二	九九二
一九二四	一三二	三、一一一	九三三
一九二五	一七八	二、九九九	九七五
一九二六	一九一	三、〇一三	九三七
一九二七	二八九	三、四八五	九七一

一九二八年中ザールの鐵鋼産額

年	石炭	現領域内の獨逸(ザールを除く)	戦前獨逸
一九二八年	二、八八、八五九	一三、三八、四六〇	一五、五九、六九四
一九二七年	一五〇、八七五、八二四	一五、五九、四一三	一九〇、一〇九、四四六
一九二六年	二、七五、〇五	二、九三九、四五九	二、六七四、九五〇
一九二五年	三、八三、一七六	三、二六六、二〇三	三、六〇〇、五〇四
一九二四年	三、五九、四七七	四、五〇、二五八	四、四一、六〇四
一九二三年	四、九六、九八〇	四、九六八、五二〇	六、九九二、五〇〇
一九二二年	一四、一〇四、五三四	一四、一三三、五一八	七、四四八、六三二
一九二一年	一六、三三四、一五九	一五、八五三、〇八五	八七、三三三、〇八四
一九二〇年	三、一七〇、九三四	三、一〇七、二八七	一、七四〇、〇七二
一九一九年	四〇、一五八、四七六	三六、一五九、三七七	二二、九七六、七四四

平均操業爐數	二六基
銑鐵及直接鑄物計	一、九三六、一八四吨
鑄物銑及直接鑄物	二〇八、五八〇
鹽基性鐵	一、七二七、六〇四
鋼塊及鑄物計	二、〇七三、〇五一
鹽基性轉爐鋼塊	一、五六一、三七八
平爐鋼塊	四八〇、六八五
電氣爐鋼塊	一一、五六七
鹽基性鋼鑄物	一三、〇八三
酸性鋼鑄物	六、三三八
鋼材計	一、七〇六、七八七
販賣用半製品	一七四、七〇四
鐵道材料	二一〇、六七三
形物(8cm以上)及ユニバーサル平鋼	二八三、四〇九
棒及小形	四八三、二二八

フ	一、二二一、八七九
線	一六九、二六八
原板及薄板(鋸力板を含む)	一八三、五〇〇
チ	七四、七三〇
フオーディングス	四、一三八
其の他の製品	一、二五八

一九二八年中合衆國の鐵鑛石產額並に鑛價

鑛山局の見積に依る一九二八年に於ける合衆國の鐵鑛石生産高は

六二、一五一、〇〇〇英噸 (五パーセント以上の含滿鐵鑛を除く)

に達し前年より一パーセントを増せり一九二八年中鑛山よりの引渡高は、概算六三、二四四、〇〇〇噸にして前年に比し三パーセントを増せり山元に於ける一屯當りの平均鑛價は二弗四四見當にて一九二七年に於ては二弗四七仙を唱へたり、山元に於けるストック(主としてミシガン及ミネソタ)は減少し一九二七年の一〇、一〇四、六七三屯は、一九二八年に至り九、二六六、〇〇〇屯に減じたり、鑛山局の見積數字は、一九二七年に於て全鑛産高の約九割九分を採掘したる生産者の報告に係はる假數字を土臺とせり、一

鋼 鉄

鐵 鑛
山 元
ス ト ッ ク

鐵

以上、アイアン・エンド・コールドレッド・レビウ一九二九年二月二十二日

一九二八年十一月	一九二八年十月
四、二二六、六四七	四、五〇九、二五二
二、七〇六、二〇九	二、五二二、五二一
一九二八年中	一九二七年中
一〇、〇九七、〇〇〇	九、三二六、〇〇〇
九、三八七、〇〇〇	八、三〇六、〇〇〇

鋼 鉄

鐵

十一月中佛蘭西の鐵鑛石産額と
一九二八年中鐵鋼産額 (噸)

一九二八年	一九二七年
二、七七〇、〇六一	二、七三二、四九五
二、五六七、〇八〇	二、四〇七、一二八

ルクセンブルグの鐵鋼産額次の如し (噸)

一九二八年	一九二七年
一七四、七〇〇	一六六、四〇〇

九二八年中引渡鐵鑛の約八割五分は、シュペーリオル湖地方より來れるものにして、同地方に於ける採鑛高は五二、四六七、〇〇〇噸、引渡高は、五三、六一〇、〇〇〇噸に達し前年に比し前者は二パーセント後者は、五パーセントの増加を示せり

一九二八年中白耳義の石炭及鐵鋼産額と
ルクセンブルクの鐵鋼産額

一九二八年に於ける白耳義の産額は十二月迄の月額數字を土臺として左の如し (噸)

一九二八年	一九二七年	
石 炭	二七、五四三、二〇〇	二七、三一九、五〇〇
骸 炭	五、九二六、六〇〇	五、三八六、五〇〇
ブリケット類	一、九六一、〇〇〇	一、六八六、九〇〇
鉄 塊	三、九〇五、三〇〇	三、七五一、四〇〇
鋼 塊	三、八二〇、五〇〇	三、六〇四、九〇〇
鋼 鑄 物	一一三、五六〇	九六、五二〇
鋼 製 品	三、三九三、四〇〇	三、〇六二、二〇〇

二月中英國の鐵鋼產額

鐵鋼製造業者聯合會發表の數字に依れば英國の製鋼業狀態は依然として好轉を持續し、二月の鋼塊及鑄物の產額は七八二、九〇〇屯に達したり（一月は七六四、六〇〇屯一九二八年二月は、七六四、四〇〇屯）一方二月の銑鐵產額は減少を示し、一月の五六三、九〇〇屯及一九二八年二月の五五〇、八〇〇屯に對し五一九、六〇〇屯を算せり、二月中の日產額率は、一月の一八、一九〇屯に對し一八、五五七屯を算す尙產額の内譯は、ヘマタイト銑一六八、二〇〇屯、ベリシックク二一一、二〇〇屯、鑄物銑一〇三、五〇〇屯及可鍛銑一五、八〇〇屯なり、銑鐵產額の月平均を示せば次表の如し

年次	銑鐵	鋼塊及鑄物
一九一三年月平均	八五五、〇〇〇噸	六三八、六〇〇噸
一九二〇年 "	六六九、五〇〇	七五五、六〇〇
一九二四年 "	六〇九、〇〇〇	六八五、一〇〇
一九二五年 "	五二一、八〇〇	六一五、五〇〇
一九二六年 "	二〇四、八〇〇	二九九、七〇〇
一九二七年 "	六〇七、七〇〇	七五八、一〇〇

一九二八年中ザールの石炭產額

ザール炭坑一九二八年の產炭額は、一九二七年の一三、五九五、八二四噸に對し一三、一〇六、七二八噸に達し、骸炭の產額は、二六二、三八八噸に對し二六七、三九九噸を算したり、產炭額の中一二、六六一、七九七噸は佛蘭西の國有炭坑より、四四四、九二一噸は私立會社經營炭坑より產出せるものなり

一九二八年 "	五五〇、九〇〇	七二〇、四〇〇
一九二八年一月	五六〇、五〇〇	六二六、二〇〇
二月	五五〇、八〇〇	七六四、四〇〇
十二月	五四〇、四〇〇	六八三、一〇〇
一九二九年一月	五六三、九〇〇	七六四、六〇〇
二月	五一九、六〇〇	七八二、九〇〇

以上 The Statist. March 16, 1929

一九二九年一月中獨逸銑鐵產額

一月の操業爐數は昨年末の一〇一基に比し九七基に減じたり、一月の製銑高は一、〇九七、九八〇噸（

壓延機	六三四	五四二
其他の金屬作業機械	六、七〇三	五、〇五一
空氣壓搾機	六、七三八	五、八七三
合計	四九七、一五五	四三六、三四九

備考 合計數字は、表中列擧せざる其他の品目をも含む

英領印度の銑鐵輸出入

一九二八年中印度の銑鐵輸出入次の如し

輸 入		輸 出	
四、〇五〇噸 (一九二七年 三、八五二)	四二八、六二五噸 (一九二七年三八三、九六〇)	内 日本へ	三二一、〇一〇噸
内 英國より	二、六四九噸	合衆國へ	五七、八九七噸
歐大陸より	一、四〇一噸	英 國へ	八、九二〇噸
		獨 逸へ	八、五四二噸
		其 他へ	三三、二五六噸

一九二八年中ルクセンブルクの鐵鑛石産額

昨年中ルクセンブルグ大公國の鐵鑛石産額は、總計六、九九八、二五二噸に達したり、因に一九二七年の産額は七、二四四、二七八噸を算せり

一九二八年中合衆國の石炭産額

合衆國鑛山局調査に係はる一九二八年中の石炭産額の見積左の如し

一九二八年		一九二七年	
瀝 青 炭	四九二、七五五、〇〇〇噸	五一七、七六三、〇〇〇噸	
無 烟 炭	七六、七三四、〇〇〇噸	八〇、〇九六、〇〇〇噸	

一九二八年中佛蘭西の燃料輸出入

佛蘭西一九二八年中燃料の輸出入次の如し

一九二八年		一九二七年	
石 炭	一七、二七四、七七三噸	一八、九八二、九二五噸	

58
14

骸炭
 特許燃料
 尙石炭の輸入先國別次の如し

英國より	八、二七四、一三五噸	四、七二〇、四九〇
白耳義及ルクセンブルグより	三、二二二、八一二	一、〇五一、二七七
合衆國より	一一、六一九	九、〇五九、七八一噸
獨逸より	四、五〇九、〇四三	二、三九七、四七四
和蘭より	八三七、二七四	四八七、八五五
其他より	四一八、八九〇	六、一九五、二一〇
骸炭の輸入先國別次の如し		六五三、一九八
白耳義及ルクセンブルクより	八四八、九五二噸	一八九、四〇七
英國より	五、七一〇	八三〇、九九二噸
獨逸より	三、九二四、八二八	二、六二三
和蘭より	五八八、三五六	三、四一六、九一〇
其他より	殘額	四六九、九二七
		殘額

特許燃料の輸入先國別次の如し

英國より	一二五、八三五噸	二五八、七九一噸
白耳義及ルクセンブルクより	五〇六、四五七	三四九、五二七
獨逸より	四七二、四六六	四一〇、六六六
其他より	五三、〇五七	三二、三〇三

輸出

石炭	一九二八年	一九二七年
骸炭	四、八五三、六六九噸	四、三二五、〇八一噸
特許燃料	四一七、七四三	四〇一、一七三
	二四六、四〇二	二〇四、七〇六

尙石炭の仕向地別次の如し

白耳義及ルクセンブルクへ	一、五六二、三〇一噸	一、三三五、二五六噸
瑞西へ	一、二九一、七八五	一、一三九、六二二
伊太利へ	三九七、九九一	四五五、八五一
獨逸へ	一、四九六、〇八九	一、二九八、五〇九

58
14

品目	一九二九年一月	一九二八年一月
鐵道材料	一一〇、四九六	一二五、〇八一
8cm以上の形物及ユニバーサル平鋼	一〇〇、一四八	一〇四、七八四
棒及小形	二九四、五四一	三〇三、八一三
フ	四五、三一五	四七、六八五
線材	一一一、四四一	一〇三、二六四
厚板(四・七六以上)	八〇、四二一	八四、九五九
薄板(三乃至四・七六)	一八、八五一	一九、五二八
"(三以下)	八五、二二九	八四、九九三
鋳力板	一二、三四九	一二、二七一
チユ	八四、四五二	六八、一五九
車輛材料	一一、二四二	一五、三七一
可鍛物	二一、〇九六	二六、九〇八

一九二九年一月中獨乙の壓延工場産額

和蘭	三八、四二八	一一、四九七
其他	二七、五六六	二二、六三五
バンカー用	三九、五〇九	六一、七二一
骸炭の仕向地次の如し		
瑞西	一一六、九五四	一一九、九八八
伊太利	二二四、九九九	二〇〇、五三一
白耳義及ルクセンブルク	二七、五四四	三三、五六九
其他	四八、二四六	四七、〇八五
特許燃料の仕向地次の如し		
瑞西	六二、〇八五	六八、四二二
アルゼリア	六四、七八七	五、一〇五
白耳義及ルクセンブルク	八、一七六	八八五
其他	一一〇、八三四	二二九、一五七
バンカー用	五二〇	一、一三七

其他の製品 五、二四三
 計 一、〇〇一、八二四
 販賣用半成品 八七、四五八
 以上 The Iron & Coal Trades Rev., March 8, 1929.
 一、〇〇五、五五九
 九三、三二三

一九二八年中白耳義及ルクセンブルクの
 鐵鋼輸出入 (噸)

次表は一九二八年に於ける白耳義及ルクセンブルク關稅同盟の鐵鋼輸出入を示す

品名	輸 入		輸 出	
	英國より	全部より	英國へ	全部へ
褐炭	一、七五七、九三九	八、七五九、九四二	一	四、一三八、四三三
石炭	一	二、七七七、二一三	一	六九五、二一〇
骸炭	一	九八、一〇三	一	八四六、五七二
ブリクケット	一	二六七、一一五	一	三三八
滿俺鐵	一	一三、六一九、二四六	一	八九七、八二二
鐵鑛石	一	一	一	一

品名	一九二八年合計	英國より	全部より	英國へ	全部へ
鐵鑛石	七一、二八五	一	五五〇、九一四	一七、八七四	九八、八六三
鑄物	一四七	一	七、一二四	五、九三五	五二、三七〇
アルミ	一	一	二二一、二六〇	三四九、二六六	六二六、五四一
特殊パイプ	八三三	一	五、二六五	三、七二二	八、二六二
パイプ	一	一	三、一〇八	五五、二五六	一四八、三一七
形物	八三六	一	一〇、七二三	九一、一二二	六三七、九四〇
レール	一	一	三、五五四	一八、一六六	一七四、八〇四
厚板	六七六	一	一〇、七七三	一一三、五五九	六〇九、五七九
板	一七、四六〇	一	一九、一三六	五二〇	六五、五一〇
鋳力板	一、四四五	一	九、八九六	四八、八二七	三五一、四〇五
ワイヤ	五一〇	一	一、五五八	一	三六、四八八
建築材料	一、八四二	一	一三、二六六	三、一六七	四四、一七〇
チェーン	一四三	一	六、七九三	三四、一四七	一三六、四四二
ネール、ボルト	九三七	一	二、三、五一八	二七九、一〇五	一、四九三、九二九
其他	一	一	一一一、四四九	二、三〇二	二三四、九三七
層	九六、一一四	一	一、〇〇八、三三七	一、〇二二、九六八	四、七一九、五五七

58
146

Category	Country/Region	Value
E	石炭の仕向地次の如し	
	佛 國	三、二六八、三三五
	和 蘭	三五一、五〇五
	瑞 西	一二五、七四四
	ノルウェー	二二三、〇九五
	佛 國	六五二、四三八
	佛 國	五二〇、七七〇
	白領コンゴ	一一八、七五〇
	鐵鑛の仕向地次の如し	
	獨 逸	二七二、九六七
F	骸炭の仕向地次の如し	
	佛 國	三、二六八、三三五
	和 蘭	三五一、五〇五
	瑞 西	一二五、七四四
	ノルウェー	二二三、〇九五
	佛 國	六五二、四三八
	佛 國	五二〇、七七〇
	白領コンゴ	一一八、七五〇
	鐵鑛の仕向地次の如し	
	獨 逸	二七二、九六七
G	ブリクケットの仕向地次の如し	
	佛 國	三、二六八、三三五
	和 蘭	三五一、五〇五
	瑞 西	一二五、七四四
	ノルウェー	二二三、〇九五
	佛 國	六五二、四三八
	佛 國	五二〇、七七〇
	白領コンゴ	一一八、七五〇
	鐵鑛の仕向地次の如し	
	獨 逸	二七二、九六七
H	鐵鑛の仕向地次の如し	
	獨 逸	二七二、九六七

Category	Country/Region	Value
A	一九二七年合計	七二、一二五
	石炭の輸入先次の如し	
	獨 逸	三、一一四、一三六
	佛 國	一、二七六、八二八
	和 蘭	二、二六四、六二六
	英 國	一、七五七、九三九
	骸炭の輸入先次の如し	
	獨 逸	三、四二二、五五二
	和 蘭	三三三、二一三
	同ブリクケットの大部分即ち九二、八七〇噸は褐炭の全部は獨逸より輸入せり	
B	滿俺鑛の輸入先次の如し	
	英領印度	一二四、九五〇
	露 西 亞	六九、三四九
	ブラヂル	三八、三五八
	鐵鑛石の輸入先次の如し	
	獨 逸	三、一一四、一三六
	佛 國	一、二七六、八二八
	和 蘭	二、二六四、六二六
	英 國	一、七五七、九三九
	獨 逸	三、四二二、五五二
C	一九二七年合計	七二、一二五
	石炭の輸入先次の如し	
	獨 逸	三、一一四、一三六
	佛 國	一、二七六、八二八
	和 蘭	二、二六四、六二六
	英 國	一、七五七、九三九
	骸炭の輸入先次の如し	
	獨 逸	三、四二二、五五二
	和 蘭	三三三、二一三
	同ブリクケットの大部分即ち九二、八七〇噸は褐炭の全部は獨逸より輸入せり	
D	滿俺鑛の輸入先次の如し	
	英領印度	一二四、九五〇
	露 西 亞	六九、三四九
	ブラヂル	三八、三五八
	鐵鑛石の輸入先次の如し	
	獨 逸	三、一一四、一三六
	佛 國	一、二七六、八二八
	和 蘭	二、二六四、六二六
	英 國	一、七五七、九三九
	獨 逸	三、四二二、五五二

(恐らく全部ナールビク港積出の瑞典鑛石)

加奈陀の骸炭産額増加

ワシントン三月廿二日、鑛山局發表、加奈陀に於ける骸炭の産額及消費額の傾向如何は亞米利加の骸炭生産業者に取つて少なからざる利害關係を有す、何となれば加奈陀は、年間五十萬屯乃至百萬屯の亞米利加骸炭を消費する彼等の主要輸出市場なればなり。

加奈陀の産額は新骸炭爐の建設に因り増進しつ、あるが其の消費額も同時に増加しつ、あり、加奈陀税關の記録に依れば一九二八年に於ける骸炭の輸入額は一、〇五八、八八一屯に達し其の大部分は合衆國より來れるものなり。

加奈陀の一月の骸炭産額は二二〇、七九八屯に達し新レコードを作れり、又一月の輸入額は九九、九二九屯にして消費高三一九、二七四屯に達し一九二八年同月の消費高より二八パーセントの増加を示せり

銅	塊	一、〇九〇噸
ブルーム	塊	三五、七一九"
ビレット及シートバー		一〇二、八四二"

以上、The Iron & Coal Trades Rev., March 1, 1929.

I 鉄鐵の輸入先次の如し
佛蘭西へ 六〇六、一三九"

J 鋼半成品の輸入先次の如し
佛國より 二二二、二六一噸
獨逸より 一二四、九四四"
和蘭より 八二、八七四"
英國より 七一、二八五"
諾威より 三五、五四二"

K 屑の輸入先次の如し
佛國より 鋼塊 一〇、八二二噸
ブルーム 一四八、三八六"
ビレット及シートバー 三六、一八七"

L 鉄鐵の輸出先は主として佛蘭西にして三六、四八〇噸を算せり、尙半成品の輸出先は主として獨逸より 二九、七七一噸
和蘭より 五一、九〇一"

佛國より

レ	五、四七	一、一〇三	三、四、六二〇	三九、〇四四
其他の鐵道材料	三三一	一、三三二	一七、〇一五	九、四七三
ワイヤール	五、七〇五	五、三一五	六、九八〇	五、四〇五
ワイヤールケーブル及ワイヤールロープ	一	一	二、八二五	二、三〇八
ワイヤールネール <small>(ステールを含む)</small>	六、一一八	三、八七六	二四一	一六二
其他のワイヤール製品	一、〇五八	八〇四	一、七五三	一、〇九〇
釘、タック、リベット、及ワオツシヤ	一、五二一	五八七	一、七九九	一、七九四
ホールト、ナツト	八三二	七四四	一、九一三	二、〇四〇
鐵及鋼鑄物	一、二七四	一、二七五	一五三	一〇八
鐵及鋼フォーゲンク	一、〇三六	五一五	三五	二一
其他の製品	八、六〇九	六、四五八	三五、一一三	二六、三〇七
合計	二四四、二六七	一六〇、〇三五	四二一、一九一	三八〇、〇七五

昭和三年合衆國の軌條産額

亞米利加鐵鋼協會の報する所に依れば一九二八年中合衆國の鋼軌條産額は二、六四七、四九三英噸を算し一九二七年の二、八〇六、四八六噸に比し五・六七パーセントを減じて一九二四年以來の最低數字を示

本年一月及二月の英國鐵鋼材輸出入

二月の英國鐵鋼材輸出入額は一月に比し双方共激減したり次表の如し (英屯)

銑鐵及鐵合金	一三、〇三四	八、六六二	四九、四〇八	四八、六〇九
インゴット、アルミビレット、スラブ	九一、一六九	五八、一三一	一、七七二	二、二八一
鐵棒、竿、アングル	一八、四七八	一〇、五八九	二、〇八六	一、九九二
鋼棒、竿、アングル	四二、八〇五	二八、二三五	三一、七六九	二八、八四六
スクラツクチュアルスチール	一五、六〇二	八、七〇二	七、八五一	七、五四五
フープ及スツリツプ	一三、五六二	六、三一三	四、六六四	四、四一四
厚板及薄板	一五、一四五	一二、六五八	四九、八八〇	四四、六五九
亞鉛引薄板	一	一	八二、五二四	六九、九九九
錫力板	一	一	四八、一五八	四一、九六〇
キャストチューブ、パイプ及フィツチンク	三、二二五	二、七六五	一一、一〇一	一一、三八三
ロートチューブ、パイプ及フィツチンク	四、三一六	三、七〇一	二九、五三一	三〇、六三五

次表は一九二八年中合衆國の鐵鋼輸出入を前年の分と比較せるものなり (英噸)

鐵	鐵	一九二八年	一九二七年
滿	鐵	八四、六八二	五〇、九九二
屑	鐵	九、四四〇	一、六四一
ブルーム、ピレット		五二五、三一四	二三九、一五九
線	材	一六一、九二九	九八、六一三
鋼	棒	三八、〇六七	一六、一二八
合	棒	一五八、五七九	一一一、一二六
金	棒	一四、〇七九	六、一四九
棒	鐵	六、二〇四	三、八七二

昭和三年合衆國の鐵鋼輸出入

(a) 五〇封度以下全部
 (b) 百封度以下全部と五〇封度以下七割
 以下、アイアンエーサ一九二九年三月二十八日所載

せり、一二〇封度の最重軌條（一九二七年より一六パーセントを増加す）を除き重、輕軌條双方共全部減産したり、一九二八年に於ける軌條産額の七分の五以上は百封度以上の軌條にして總額の七二・六一パーセントに相當し從來の記録を破れり、封度別並に製法別に依り表示すれば次の如し（英噸）

一碼當り重量	一九二八年	一九二七年	一九二六年	一九二五年
一二〇封度以上	七一八、四二八	六一七、五二四	一九六六、四四〇	一、六三六、六三一
一〇〇—一一九封度	一、二〇三、七四九	一、三二四、四二四	七九七、六六二	七六五、三七一
八五—九九封度	四六五、三九三	五三九、四四五	二五六、二八七	二一九、六四八
五〇—八四封度	一二五、七二六	一七三、二五七	一九七、二六〇	一六三、六〇七
五〇封度以下	一三四、一九七	一六一、八三六	二、二一七、六四九	二、七八五、二五七
合計	二、六四七、四九三	二、八〇六、四八六	六八・八四%	五八・七六%
一〇〇封度以上軌條の生産比率	七二・六一%	六八・八四%	六一・一二%	五八・七六%
製法別				
平爐	二、五八〇、一四一	二、七二七、八六五	三、二〇七、九九二	二、六九一、八二三
轉爐	(a) 二、七一八	(a) 一、五六六	一二、五三三	九、六八七
	(b) 六四、一九六	(b) 八七、〇五五	九七、一二四	八三、七四七
古軌條の再壓延	六、四五三	一、二六五	四、二一六	四、〇〇九
Alloy-treated				

+ 印 Manganese content only
 × 印 Silicon content only
 ×× 印 Chromium content only

一月中ルクセンブルグの鐵鋼產額

本年一月のルクセンブルグ鐵鋼產額次の如し

一九二九年一月		一九二八年十二月	
鐵	二四一、六八九噸	鐵	二三四、一八二噸
内譯		内譯	
鹽基性鐵	二三八、三九七噸	鹽基性鐵	二一七、七九〇噸
鑄物鉄	三、二七二	鑄物鉄	二二四、六一七噸
フオーイヂ	二〇	フオーイヂ	二二二、九五五噸
鋼		鋼	
内		内	
鹽基性轉爐鋼	二二二、九五五噸	鹽基性轉爐鋼	

一月中合衆國の鋼產額

本年一月中合衆國の平爐及轉爐鋼塊の產額は、客年十二月の四、〇一九、四二二噸に對し四、四八九、三九一噸に達したり、一月の平均日產額は一六六、二七四屯を算し斯業の歴史中第五位の最大數字を示せり

平爐鋼	九九〇
電氣鋼	六七二

一九二八年中獨逸の鐵鑽石輸入

昨年中獨逸の鐵鑽石輸入額は一三、七九四、四〇〇噸に達したり（一九二七年一七、四〇八、九〇〇、一九一三年一四、〇二四、三〇〇噸）輸入資源別に依りて示せば次の如し（噸）

資源地	一九二八年	一九二七年
瑞典	三、六四五、九〇〇	八、六八二、〇〇〇
佛蘭西	二、〇一一、七〇〇	一、五二八、三〇〇
西班牙	三、五〇一、三〇〇	三、〇八一、一〇〇

58
146